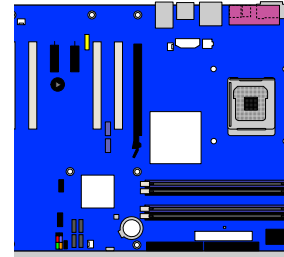


# インテル® デスクトップ・ボード D915PBL 日本語マニュアル

---



OM16E

Order Number: C64180-001

# 改訂履歴

改訂版	改訂履歴	日付
-001	初版	2004年5月

ボード上に FCC 適合宣言書のマークがある場合には、以下の声明文の内容が適用されます：

## FCC 適合宣言書

本製品は FCC 規則パート 15 に準拠しています。オペレーションは次の 2 つの事項を条件とします。(1) 本製品は有害な妨害を引き起こさないかもしれません。および、(2) この製品は、望まざる動作を引き起こす可能性のある、受信されたあらゆる妨害を受け入れなければなりません。

本製品の EMC 性能に関するご質問は以下にお問い合わせください：

Intel Corporation  
5200 N.E. Elam Young Parkway  
Hillsboro, OR 97124  
1-800-628-8686

この機器はテストを実施した結果、クラス B デジタル装置の基準を満たし、FCC 規則パート 15 に準拠していることが認められました。これらの基準は住宅への設置で有害な干渉に対して十分な保護を規定することを目的としています。この機器は高周波エネルギーを発生、使用、また放射をすることがあるので指示どおりに設置して使用しない場合には、無線通信に有害な干渉を起こす可能性があります。また、インストールの仕方によっては干渉が生じないという保証はありません。本製品が無線受信またはテレビ受信に対して有害な干渉を起こした場合(装置のスイッチをオフにしたりオンにしたりすることにより判断できます)、以下の手段を講じることが推奨されます：

- 受信アンテナの方向または位置を再調整します。
- 本製品を受信装置から遠くに離します。
- 本製品を、受信装置を接続している回路とは別の回路のコンセントに接続します。
- 販売店または経験豊富な無線/テレビ技術者に相談してアドバイスを求めます。

インテルコーポレーション社が明示的に承認していない機器の変更や修正を行った場合には、ユーザが機器を使用する正当な権利が無効になることがあります。

## カナダ通信省の規制陳述

このデジタル装置はカナダ通信省の無線干渉規定にあるデジタル装置からの無線ノイズ放射でクラス B の基準を超えることはありません。

## 法的な注意事項

本資料に掲載されている情報はインテル® 製品との関連において提供されるものです。本資料は、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスを許諾するためのものではありません。製品に付属の売買契約書<sup>1</sup> Intel's Terms and conditions of Sales に規定されている場合を除き、インテルはいかなる責を負うものではなく、またインテル製品の販売および/または使用に関する明示または黙示の保証(特定目的への適合性、商品性に関する保証、第三者の特許権、著作権、その他、知的所有権を侵害していないことへの保証を含む)にも一切応じないものとします。インテル製品は、医療、救命、延命措置などの目的に使用することを前提としたものではありません。インテルは、いつでも、予告なしに仕様、製品に関する記述を変更することがあります。

デスクトップ・ボード D915PBL には、「エラー」と呼ばれる設計上の欠陥または誤りが含まれていることがあり、そのために製品が発表されている仕様と異なる場合があります。現時点で判明しているエラーについては、請求があればご連絡いたします。

製品の注文に先立って最新の製品仕様を入手するには、最寄のインテル営業部または販売店にお問い合わせください。

この文書やその他のインテル資料で言及している発注番号を記載した文書のコピーは、インテルコーポレーション社の Web サイト <http://www.intel.com/> を参照するか電話番号 1-800-548-4725 にお問い合わせください。

Intel, Pentium および Celeron はアメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーション社および子会社の商標または登録商標です。

\*他の名称及びブランドは他者の財産である場合があります。

著作権 © 2004, Intel Corporation 全権保持

# はじめに

---

このマニュアルはインテル® デスクトップ・ボード D915PBL のボード・レイアウト、コンポーネントの取り付け、BIOS セットアップ・メニューおよび規制事項に関する情報を提供するものです。

## 対象読者

このマニュアルは、専門的な知識を持つ技術者を読者として想定しています。一般的なユーザを対象とするものではありません。

## 内容の構成

このマニュアルの章立ては以下のとおりです：

- [1 デスクトップ・ボードの機能](#)：製品の特徴のまとめ。
- [2 デスクトップ・ボード・コンポーネントの取り付けと交換](#)：デスクトップ・ボードおよびその他のハードウェア・コンポーネントの取り付け手順。
- [3 BIOS のアップデート](#)：BIOS のアップデート手順。
- [4 BIOS セットアップ・プログラムの使用方法](#)：BIOS セットアップ・メニューおよびサブメニューの内容。
- [5 技術参考資料](#)：コネクタおよびデスクトップ・ボードのリソースに関する情報。
- [A エラー・メッセージとインジケータ](#)：BIOS のエラー・メッセージとビープ・コードに関する情報。
- [B 規制事項への準拠](#)：安全および EMC 規格、製品の認証。

## 凡例

このマニュアルでは次のようなマークが使用されています：



### 注意

これを守らないと負傷の原因となる注意事項を示します。



### 警告

ハードウェアの損傷やデータの損失を防止する方法をユーザに通知します。



### ノート

重要な情報に注意を促します。

## 用語

下表では、このマニュアルで使用される一般的な用語について説明します。

用語	説明
GB	ギガバイト(1,073,741,824 バイト)
GHz	ギガヘルツ(10 億ヘルツ)
KB	キロバイト(1024 バイト)
MB	メガバイト(1,048,576 バイト)
Mbit	メガビット(1,048,576 ビット)
MHz	メガヘルツ(100 万ヘルツ)

## ボックスの内容

- インテル・デスクトップ・ボード
- I/O シールド
- 1 本の ATA-66/100 ケーブル
- 4 本のシリアル ATA ケーブル
- 1 本の 2 個口-シリアル ATA 電源ケーブル
- 1 本のディスケット・ドライブ・ケーブル
- リア・パネル USB 2.0/IEEE 1394 アダプタ
- フロント・パネル USB 2.0/IEEE 1394/オーディオ・アダプタ
- インテル® Express Installer CD-ROM
- RAID ドライバ収録フロッピー・ディスク
- バック・パネル・オーディオ・ダストカバー
- クイック・レファレンス・ガイド
- 組み立てガイド
- 冊子版日本語マニュアル
- 設定および電池の交換に関する注意ラベル

# 目次

<b>1 デスクトップ・ボードの機能</b> .....	<b>13</b>
対応オペレーティング・システム .....	15
デスクトップ・ボードのコンポーネント .....	16
プロセッサ .....	18
メイン・メモリ .....	19
インテル <sup>®</sup> 915P Express チップセット .....	20
オーディオ・サブシステム .....	20
入出力 (I/O) コントローラ .....	21
LAN サブシステム (オプション) .....	21
LAN サブシステム・ソフトウェア .....	21
RJ-45 LAN コネクタ LED .....	21
Hi-Speed USB 2.0 サポート .....	22
E-IDE (Enhanced IDE) インタフェース .....	23
シリアル ATA .....	23
拡張性 .....	23
BIOS .....	23
シリアル ATA および IDE の自動設定 .....	23
PCI および PCI Express* の自動設定 .....	23
セキュリティ・パスワード .....	24
Chassis Intrusion (シャーシ開口検出機能) .....	24
電源管理機能 .....	24
ACPI .....	24
電源コネクタ .....	24
ファン・コネクタ .....	25
ファン・スピード制御 (インテル <sup>®</sup> Precision Cooling Technology) .....	25
Suspend to RAM (Instantly Available PC テクノロジー) .....	25
Resume on Ring .....	26
USB 機器からの起動 .....	26
PS/2 キーボード / マウスからの起動 .....	26
PME# ウェークアップ・サポート .....	27
スピーカー .....	27
電池 .....	27
リアルタイム・クロック .....	27
<b>2 デスクトップ・ボード・コンポーネントの取り付けと交換</b> .....	<b>29</b>
はじめに .....	29
取り付けに際しての予防事項 .....	30
取り付けに関する注意事項 .....	30
EMC 規格の準拠 .....	30
シャーシおよびコンポーネントの認証 .....	31
電源の過負荷防止 .....	31

電池交換に関する警告 .....	31
使用目的 .....	32
I/O シールドの取り付け .....	32
デスクトップ・ボードの取り付けと取り外し .....	33
プロセッサの取り付けと取り外し.....	34
プロセッサの取り付け.....	34
プロセッサ・ファン・ヒートシンクの取り付け .....	36
プロセッサ・ファン・ヒートシンク・ケーブルの接続.....	37
プロセッサの取り外し .....	37
メモリの取り付けと取り外し.....	38
デュアル・チャンネル・メモリ構成のガイドライン.....	38
DIMM の取り付け .....	40
DIMM の取り外し.....	42
PCI Express カードの取り付けと取り外し .....	42
PCI Express カードの取り付け .....	43
PCI Express カードの取り外し .....	43
IDE ケーブルの接続.....	44
シリアル ATA (SATA) ケーブルの接続 .....	45
シリアル ATA 対応インテル <sup>®</sup> RAID テクノロジーを使用するためのシステム設定 .....	46
シリアル ATA 対応インテル RAID テクノロジーを使用するための BIOS 設定 .....	46
RAID Set の構築、削除、リセット .....	46
RAID 0 Volume の作成.....	46
RAID Volume の削除.....	47
RAID データのリセット.....	47
インテル <sup>®</sup> Application Acceleration 3.0 RAID Edition ドライバのインストール .....	47
インテル RAID Ready System の構成 .....	47
シングル・ドライブ構成からシリアル ATA RAID 0 構成へのアップグレード.....	48
手動での RAID Volume の作成.....	52
RAID Volume の名前とストライプ・サイズの選択 .....	53
新しい RAID Volume 作成の確認.....	55
作成の完了.....	55
内部ヘッダの接続.....	56
フロント・パネル・オーディオ・ソリューションの取り付け .....	57
IEEE 1394 ヘッダの接続.....	57
リア・パネル USB 2.0 および IEEE 1394 アダプタの取り付け .....	58
フロント・パネル・ヘッダの接続 .....	59
フロント・パネル USB、IEEE 1394 およびオーディオ・アダプタの接続.....	59
マルチチャンネル・アナログ・オーディオ .....	60
マルチチャンネル・デジタル・オーディオ .....	60
ファンおよび電源ケーブルの接続 .....	61
ファン・ケーブルの接続 .....	61
電源ケーブルの接続 .....	62
2x10 電源ケーブルを接続する場合 .....	62
2x12 電源ケーブルを接続する場合 .....	63
拡張カードおよび周辺機器インタフェース・コネクタ .....	64

BIOS コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックの設定 .....	65
パスワードのクリア .....	66
バック・パネル・コネクタ .....	67
電池の交換 .....	68
<b>3 BIOS のアップデート .....</b>	<b>69</b>
インテル <sup>®</sup> エクスプレス BIOS アップデート・ユーティリティを用いた BIOS のアップデート .....	69
Iflash メモリ・アップデート・ユーティリティを使用した BIOS のアップデート .....	69
BIOS アップデート・ファイルの入手 .....	69
BIOS のアップデート .....	70
BIOS のリカバリー .....	70
<b>4 BIOS セットアップ・プログラムの使用方法 .....</b>	<b>73</b>
Maintenance メニュー .....	74
Main メニュー .....	74
Main メニュー .....	75
Advanced メニュー .....	76
PCI Configuration サブメニュー .....	77
Boot Configuration サブメニュー .....	78
Peripheral Configuration サブメニュー .....	79
Drive Configuration サブメニュー .....	81
SATA and PATA サブメニュー .....	82
Diskette Configuration サブメニュー .....	84
Event Log Configuration サブメニュー .....	85
Video Configuration サブメニュー .....	86
USB Configuration サブメニュー .....	87
Chipset Configuration サブメニュー .....	88
Fan Control サブメニュー .....	90
Hardware Monitoring サブメニュー .....	91
Security メニュー .....	92
Power メニュー .....	93
ACPI サブメニュー .....	94
Boot メニュー .....	95
Boot Device Priority サブメニュー .....	96
Hard Disk Drives サブメニュー .....	97
Removable Devices サブメニュー .....	98
ATAPI CD-ROM ドライブ .....	99
Exit メニュー .....	100
<b>B 規制事項への準拠 .....</b>	<b>101</b>
安全規格 .....	101
欧州連合適合宣誓書 .....	101
製品のエコロジー宣誓書 .....	102
EMC 規格 .....	103
製品認証マーク(ボード面) .....	104

<b>Intel®デスクトップ・ボードならびに Intel®ワークステーション・ボード Boxed 製品に関する製品保証</b> .....	<b>105</b>
Limited Warranty for Intel® Desktop Board and Intel® Workstation Board Boxed Products .....	105
Intel®デスクトップ・ボードならびに Intel®ワークステーション・ボード Boxed 製品に関する製品保証(参考訳).....	107



## Figures

図 1.	デスクトップ・ボード D915PBL のコンポーネント.....	16
図 2.	スタンバイ電源インジケータの位置.....	26
図 3.	I/O シールドの取り付け.....	32
図 4.	デスクトップ・ボードのシャーシへの取り付け穴の位置.....	33
図 5.	ソケット・レバーを持ち上げる.....	34
図 6.	ロード・プレートを持ち上げる(ソケットの接点には触れないこと).....	34
図 7.	保護カバーを取り外す.....	35
図 8.	プロセッサを保護カバーから取り外す.....	35
図 9.	プロセッサを装着する.....	36
図 10.	ロード・プレートを閉じる.....	36
図 11.	プロセッサ・ファン・ヒートシンク・ケーブルをプロセッサ・ファン・コネクタに接続.....	37
図 12.	デュアル構成の例 1.....	38
図 13.	デュアル構成の例 2.....	38
図 14.	デュアル構成の例 3.....	39
図 15.	DDR2 DIMM を使用してください.....	40
図 16.	メモリ・モジュールの取り付け.....	41
図 17.	PCI Express カードの取り付け.....	43
図 18.	IDE ケーブルの接続.....	44
図 19.	シリアル ATA ケーブルの接続.....	45
図 20.	内部ヘッダ.....	56
図 21.	リア・パネル USB 2.0 アダプタの接続.....	58
図 22.	フロント・パネル USB/IEEE1394/オーディオ・ケーブルの接続.....	59
図 23.	バック・パネル・オーディオ・コネクタ.....	60
図 24.	フレキシブル 6 チャンネル・オーディオ・システム用バック・パネル・オーディオ・コネクタ.....	61
図 25.	ハードウェア制御ヘッダの位置.....	61
図 26.	2x10 電源ケーブルの接続.....	62
図 27.	2x12 電源ケーブルの接続.....	63
図 28.	PCI バス拡張カード・コネクタおよび周辺機器インタフェース・コネクタの位置.....	64
図 29.	BIOS コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックの位置.....	65
図 30.	バック・パネル・コネクタ.....	67
図 31.	電池の取り外し.....	68

## Tables

表 1.	機能のまとめ .....	13
表 2.	デスクトップ・ボードのコンポーネント.....	17
表 3.	メモリ構成.....	19
表 4.	RJ-45 10/100 イーサネット LAN コネクタ LED.....	21
表 5.	代表的なストライプ・サイズの設定値 .....	53
表 6.	フロント・パネル・オーディオ・ヘッダの信号名 (J9A2) .....	57
表 7.	IEEE 1394 ヘッダの信号名 .....	57
表 8.	USB 2.0 ヘッダの信号名 .....	58
表 9.	フロント・パネル・ヘッダの信号名.....	59
表 10.	BIOS セットアップ・プログラム・モードごとのジャンパ設定.....	65
表 11.	BIOS セットアップ・プログラム・メニュー・バー .....	73
表 12.	BIOS セットアップ・プログラム・ファンクション・キー.....	74
表 13.	Maintenance メニュー.....	74
表 14.	Main メニュー .....	75
表 15.	Advanced メニュー .....	76
表 16.	PCI Configuration サブメニュー .....	77
表 17.	Boot Configuration サブメニュー.....	78
表 18.	Peripheral Configuration サブメニュー .....	79
表 19.	ATA/IDE Configuration サブメニュー .....	81
表 20.	SATA and PATA サブメニュー.....	82
表 21.	Diskette Configuration サブメニュー .....	84
表 22.	Event Log Configuration サブメニュー .....	85
表 23.	Video Configuration サブメニュー .....	86
表 24.	USB Configuration サブメニュー.....	87
表 25.	Chipset Configuration サブメニュー.....	88
表 26.	ハードウェア管理 .....	90
表 27.	Hardware Monitoring サブメニュー.....	91
表 28.	Security メニュー .....	92
表 29.	Power メニュー .....	93
表 30.	ACPI サブメニュー .....	94
表 31.	Boot メニュー .....	95
表 32.	Boot Device Priority サブメニュー.....	96
表 33.	Hard Disk Drives サブメニュー .....	97
表 34.	Removable Devices サブメニュー .....	98
表 35.	ATAPI CD-ROM Drives サブメニュー .....	99
表 36.	Exit メニュー .....	100
表 37.	安全規格.....	101
表 38.	EMC 規格 .....	103

表 39. 製品認証マーク ..... 104



# 1 デスクトップ・ボードの機能

この章ではインテル® デスクトップ・ボード D915PBL の主要な機能を簡単にご説明します。

表 1 にデスクトップ・ボードの主要な機能をまとめてあります。

表 1. 機能のまとめ

フォームファクタ	<ul style="list-style-type: none"><li>• ATX (12.00" x 9.60") インテル・デスクトップ・ボード D915PBL</li></ul>
<a href="#">対応プロセッサ</a>	インテル® Pentium® 4 プロセッサ (LGA775 パッケージ、FSB: 800/533 MHz)
<a href="#">対応メモリ</a>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 4 本の 184 ピン、2.5 V SDRAM DIMM (Dual Inline Memory Module) ソケット</li><li>• 533/400 MHz シングルまたはデュアル・チャンネル DDR2 SDRAM インタフェース</li><li>• 最大搭載システム・メモリ: 4 GB</li></ul> <p><b>注記:</b> (PCI や PCI Express などの) システム・リソースは物理メモリ・アドレス・ロケーションを必要とし、そのために 3GB を超える利用可能メモリ・アドレスが減少します。その結果、オペレーティング・システム やアプリケーションが利用できるメモリが 4GB 未満になることがあります。最新のテスト済みメモリの一覧については、次のインテル Web サイトを参照してください: <a href="http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/">http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/</a> (英語) <a href="http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/">http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/</a> (日本語)</p>
<a href="#">チップセット</a>	インテル® 915P Express チップセット: <ul style="list-style-type: none"><li>• インテル® 82915P メモリ・コントローラ・ハブ (MCH) (ダイレクト・メディア・インタフェース搭載)</li><li>• インテル® 82801FR I/O コントローラ・ハブ (ICH6-R) (インテル® RAID テクノロジー対応)</li><li>• ファームウェア・ハブ (FWH)</li></ul>
<a href="#">オーディオ</a>	<ul style="list-style-type: none"><li>• インテル 915P Express チップセット (Intel HD オーディオインターフェイス)</li><li>• Realtek コーデック</li></ul>
<a href="#">拡張機能</a>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 最大 4 本 (インテル・デスクトップ・ボード D915PBL) の PCI バス拡張カード・コネクタ (PCI バス 2 に SMBus 接続)</li><li>• 1 つの x16 PCI Express コネクタ</li><li>• 2 つの x1 PCI Express コネクタ</li><li>• 4 つの SATA コネクタ</li><li>• 2 つのフロント・パネル USB 2.0 ヘッド</li><li>• 1 つのフロント・パネル・オーディオ・ヘッド</li><li>• 2 つの 1394 ヘッド</li></ul>

つづく

表 1. 機能のまとめ(つづき)

<p><u>周辺機器インタフェース</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最大 8 ポートの USB 2.0 ポート                     <ul style="list-style-type: none"> <li>— 4 ポートはバック・パネルに接続</li> <li>— 4 ポートは 2 つの USB ヘッドに接続</li> </ul> </li> <li>• 4 シリアル ATA(SATA) チャンネル(<b>ICH6-R</b> 経由)、1 デバイス / チャンネル</li> <li>• 1 IDE インタフェース(ATA-66/100 対応)</li> <li>• 1 ディスケット・ドライブ・インタフェース</li> <li>• 1 パラレル・ポート</li> <li>• 1 シリアル・ポート</li> <li>• PS/2* キーボードおよびマウス・ポート</li> </ul>
<p><u>BIOS</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Intel/AMI BIOS</li> <li>• 4 Mbit シンメトリカル・フラッシュ・メモリ</li> <li>• SMBIOS 対応</li> <li>• Intel® Rapid BIOS Boot</li> <li>• Intel® Express BIOS Update</li> </ul>
<p><u>電源管理</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ACPI(Advanced Configuration and Power Interface) 対応</li> <li>• STR(Suspend to RAM)</li> <li>• USB、PCI、RS-232、PS/2、LAN およびフロント・パネルから起動</li> </ul>
<p><u>ハードウェア管理</u></p>	<p>以下によるハードウェア・モニタ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 4 つのファン・センシング入力をファンの動作状態の監視に使用</li> <li>• リモート・ダイオード温度検出</li> <li>• インテル® Precision Cooling Technology ファン・スピード制御により、プロセッサ温度に基づきプロセッサ・ファンのスピードを、またシステム温度に基づきシャーシ・ファンのスピードを自動的に制御</li> <li>• 電圧センシングにより範囲外の電圧値を検出</li> </ul>

**関連リンク:**

テクニカル・プロダクト・スペシフィケーション(技術仕様書)、BIOS 更新、デバイス・ドライバなどインテル・デスクトップ・ボード D915PBL に関するさらに詳細な情報については、次のインテル Web サイトを参照してください:

<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/>(英語)

<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/>(日本語)

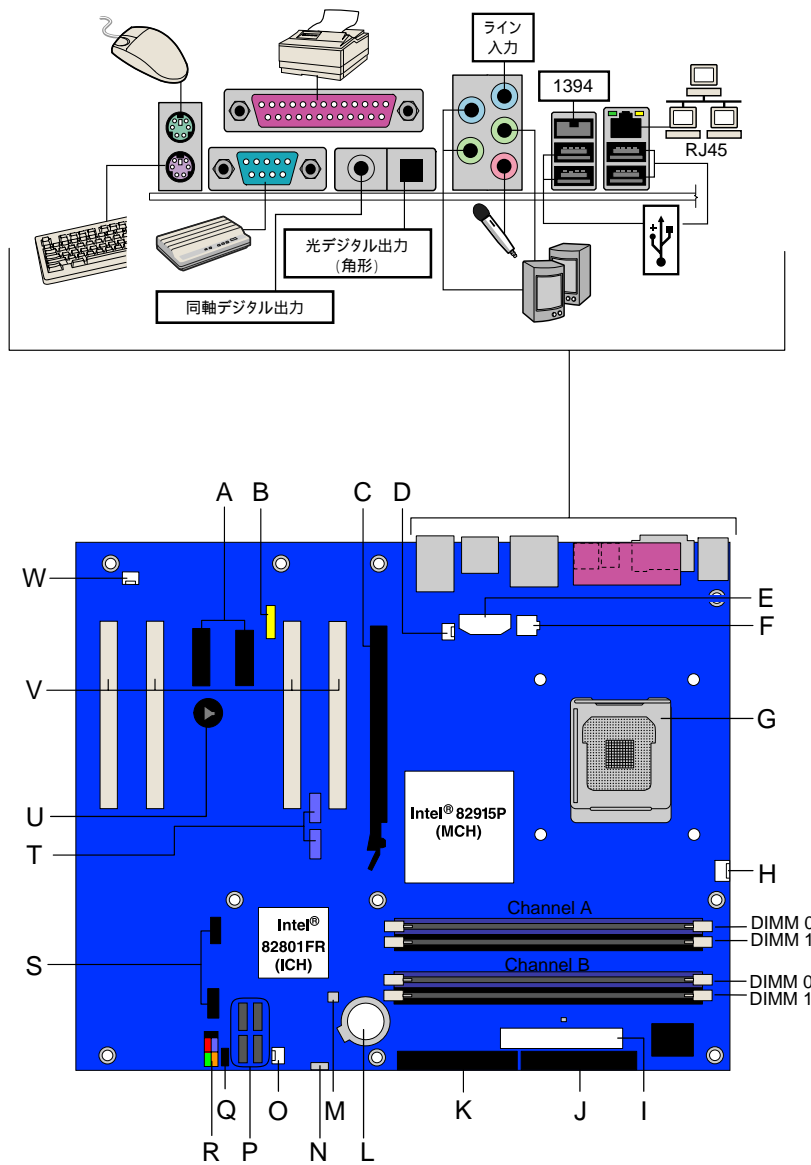
## 対応オペレーティング・システム

デスクトップ・ボードは以下のオペレーティング・システムに対応しています：

- Microsoft Windows 2000
- Microsoft Windows XP

## デスクトップ・ボードのコンポーネント

図 1 にデスクトップ・ボード D915PBL の主要なコンポーネントのおおよその位置を示します。



OM16953

図 1. デスクトップ・ボード D915PBL のコンポーネント



表 2. デスクトップ・ボードのコンポーネント

ラベル	説明
A	PCI Express x1 コネクタ
B	フロント・パネル・オーディオ・ヘッダ
C	PCI Express x16 コネクタ
D	リア・シャーシ・ファン・ヘッダ(ファン・スピード制御あり)
E	代替電源コネクタ(1x4)
F	12 V プロセッサ・コア電源コネクタ(2x2)
G	プロセッサ・ソケット
H	プロセッサ・ファン・ヘッダ(4 ピン)(ファン・スピード制御あり)
I	主電源コネクタ(2x12)
J	ディスク・ドライブ・コネクタ
K	IDE コネクタ
L	電池
M	Chassis intrusion ヘッダ
N	BIOS コンフィギュレーション・ジャンパ
O	フロント・シャーシ・ファン・ヘッダ(ファン・スピード制御あり)
P	シリアル ATA コネクタ
Q	電源 LED ヘッダ
R	フロント・パネル・ヘッダ
S	USB 2.0 ヘッダ
T	IEEE 1394 ヘッダ
U	スピーカー
V	PCI バス拡張カード・コネクタ
W	補助リア・ファン(4 ピン)

**関連リンク:**

以下の項目に関するさらに詳しい情報については次のインテル Web サイトを参照してください:

- インテル・デスクトップ・ボード D915PBL
- 対応プロセッサ
- オーディオ・ソフトウェアおよびユーティリティ
- LANソフトウェアおよびドライバ

<http://www.intel.com/design/motherbd>

<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/>(英語)

<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/>(日本語)

## プロセッサ



### 警告

ATX12V 電源を使用しなかったり、12 V (2x2) プロセッサ・コア電圧供給コネクタをデスクトップ・ボード D915PBL に接続しなかったりした場合には、デスクトップ・ボードや電源に損傷を与える場合があります。

デスクトップ・ボード D915PBL は、シングル構成のインテル Intel Pentium 4 プロセッサ (LGA775 パッケージ) をサポートしています。デスクトップ・ボードにプロセッサは付属しませんので別途購入する必要があります。

プロセッサは LGA775 ソケットによってインテル・デスクトップ・ボードに接続されます。

デスクトップ・ボードがサポートするプロセッサの一覧については次のインテル Web サイトを参照してください：

<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)

<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)

### 関連リンク:

以下の項目に関する詳細な情報については次のリンクを参照してください：

- デスクトップ・ボード D915PBL がサポートするプロセッサ
  - <http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)
  - <http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)
- プロセッサの取り付けとアップグレードの手順: 第 2 章の 34 ページ
- 2 つの電源コネクタの位置: 第 2 章の 61 ページ

## メイン・メモリ



### ノート

該当するすべてのインテル® SDRAM メモリ仕様に完全に準拠するためには、ボードには SPD (Serial Presence Detect) データ構造をサポートする DIMM を使用する必要があります。ご使用のメモリ・モジュールが SPD をサポートしていない場合は起動時に画面にその影響についての通知が表示されます。BIOS はメモリ・コントローラを通常動作に設定しようと試みます。

デスクトップ・ボードは表 3 に示すデュアルまたはシングル・チャンネルのメモリ構成をサポートします。

表 3. メモリ構成

メモリ速度	プロセッサ	FSB 周波数 (MHz)	動作時のメモリ速度 (MHz)
DDR2 533	Pentium 4 プロセッサ	800	533
		533	533
DDR2 400	Pentium 4 プロセッサ	800	400
		533	333

- 金メッキ接点を持つ 4 本の 240 ピン DDR2 (Double Data Rate 2) SDRAM DIMM (Dual Inline Memory Module) コネクタ
- サポートするメモリ:
  - バッファなし (unbuffered)、Non-registered のシングルサイドまたはダブルサイド DIMM
  - SPD (Serial Presence Detect) メモリのみ
  - Non-ECC RAM
  - 1.8 V メモリ
  - 以下のメモリ構成:
    - 256M ビットテクノロジーを使用した場合は最大 2.0 GB
    - 512M ビットテクノロジーを使用した場合は最大 4.0 GB



### ノート

(PCI および PCI Express などの) システム・リソースは、物理メモリ・アドレス・ロケーションを必要とし、そのために 3GB を超える利用可能なメモリ・アドレスが減少します。その結果、オペレーティング・システムやアプリケーションが利用できるメモリが 4GB 未満になることがあります。

### 関連リンク:

以下の項目についての詳細な情報については次のリンクを参照してください:

- テスト済みメモリの最新リスト: <http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)  
<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)
- SDRAM の仕様: <http://www.intel.com/technology/memory/pcsdram/spec/>
- メモリの取り付け: 第 2 章の 38 ページ

## インテル<sup>®</sup> 915P Express チップセット

インテル 915P Express チップセットは以下のデバイスで構成されています：

- インテル 82915P メモリ・コントローラ・ハブ (MCH) (ダイレクト・メディア・インタフェース搭載)
- インテル 82801FR I/O コントローラ・ハブ (ICH6-R) (インテル RAID テクノロジー対応)
- ファームウェア・ハブ (FWH)

### 関連リンク:

インテル 915P チップセットに関するさらに詳しい情報については次のインテル Web サイトを参照してください：

<http://developer.intel.com/design/nav/pcserver.htm>

## オーディオ・サブシステム

デスクトップ・ボード **D915PBL** には、Realtek Semiconductor Corporation のコーデックに基づいたフレキシブルな 8 チャンネル・オーディオ・サブシステムが搭載されています。

オーディオ・サブシステムの機能：

- ジャック・リタスキング用のインピーダンス検出機能
- S/N (信号 / 雑音) 比：95 dB 以上
- ACPI 2.0 (ドライバに依存) の電源管理をサポート
- マイク入力は以下をサポート：
  - マイク・アレイ
  - 音響エコー (AEC)
  - ビーム形成 (BF)
  - ノイズ・サブプレッション (NX) テクノロジー

サブシステムには以下のコネクタが装備されています：

- フロント・パネル・オーディオ・コネクタ (次のピンを含む)：
  - ライン出力
  - ライン入力
- バック・パネル・オーディオ・コネクタ (オーディオ・デバイスのドライバから設定可能)：
  - ライン入力
  - ライン出力またはフロント・左右出力
  - マイク入力またはセンター-LFE 出力
  - 2 系統のデジタル・ライン出力
    - 1 系統の同軸デジタル出力
    - 1 系統の光デジタル (角型) 出力

### 関連リンク:

以下の項目についての詳細な情報については次のリンクを参照してください：

- オーディオ・ドライバとユーティリティ：<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)  
<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)
- フロント・パネル・オーディオ・ソリューションのインストール手順：第 2 章の 57 ページ
- オーディオ・コネクタの位置：Error! Bookmark not defined. ページの Error! Reference source not found.

## 入出力 (I/O) コントローラ

スーパーI/O コントローラの機能は以下のとおり:

- ロー・ピン・カウント(LPC)インタフェース
- 1ポートのシリアル・ポート
- 1ポートの平行ポート(ECP/EPP サポート)
- PCI システムのシリアル化 IRQ と互換性を持つシリアル IRQ インタフェース
- PS/2 のマウスおよびキーボード・インタフェース
- 1基の 1.2 MB、1.44 MB または 2.88 MB ディスケット・ドライブ用インタフェース
- インテリジェント電源管理(プログラム可能なウェークアップ・イベント・インタフェース付属)
- PCI 電源管理サポート

## LAN サブシステム(オプション)

インテル 82801FR ICH6-R によるオプションの LAN は、Fast PCI LAN サブシステムを実現します。LAN サブシステムは以下の機能を提供します:

- ベーシック 10/100 Ethernet LAN (Intel 82562EZ)
- RJ-45 コネクタ(ステータス LED 付属) サポート
- プログラム可能な伝送しきい値
- 設定可能な EEPROM (MAC アドレス搭載)

### LAN サブシステム・ソフトウェア

LAN ソフトウェアおよびドライバについては、次のインテル Web サイトの D915PBL へのリンクを参照してください:

<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)

<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)

### RJ-45 LAN コネクタ LED

RJ-45 LAN コネクタには 2 個の LED が装備されています。表 4 にボードの電源がオンで 10/100 イーサネット LAN サブシステムが動作時の LED の状態を示します。

表 4. RJ-45 10/100 イーサネット LAN コネクタ LED

LED の色	LED の状態	内容
緑色	オフ	10 Mbit/sec のデータ・レートを選択。
	オン	100 Mbit/sec のデータ・レートを選択。
黄色	オフ	LAN リンクが確立されていない。
	オン(常時点灯)	LAN リンクが確立されている。
	オン(明るく点滅)	コンピュータは LAN 上の他のコンピュータと通信中。

## Hi-Speed USB 2.0 サポート



### ノート

USB ポートにシールドなしのケーブルが接続されたコンピュータ・システムは、ケーブルに USB デバイスが接続されていない場合や低速 USB デバイスが接続されている場合でも FCC クラス B の条件を満たさない場合があります。Full-speed USB デバイスの条件に適合したシールド付きのケーブルを使用してください。

本デスクトップ・ボードはICH6R経由で最大8ポートのUSB 2.0ポートをサポートしています。そのうち4ポートはバック・パネルに接続され、4ポートは2つの内部USB2.0ヘッダに接続されています。USB 2.0ポートは、USB1.1デバイスと下位互換性があります。USB 1.1デバイスはUSB1.1の速度で正常に動作します。

USB 2.0 をサポートするには、USB2.0 の転送レートを完全にサポートしたオペレーティング・システムとドライバの両方が必要です。BIOS で Hi-Speed USB を無効にすると、すべての USB2.0 ポートが USB1.1 動作になります。この設定は USB2.0 をサポートしていないオペレーティング・システムを使用する場合に必要なことがあります。

## E-IDE (Enhanced IDE) インタフェース

ICH6R の IDE インタフェースは、プロセッサとコンピュータ内蔵のハード・ディスク、CD-ROM ドライブ、Omega Zip\* ドライブなどの周辺機器との間の情報のやりとりを処理します。インタフェースは以下をサポートします：

- 最大 2 台の IDE 機器 (ハード・ドライブなど)
- ATAPI 機器 (CD-ROM ドライブなど)
- 旧来の PIO モード機器
- Ultra DMA-33 および ATA-66/100 プロトコル
- SuperDisk ドライブ (Laser Servo ドライブ)

## シリアル ATA

本デスクトップ・ボードは、ICH6R 経由で 4 つのシリアル ATA チャンネルをサポートし、1 チャンネル当たり 1 台の機器 (RAID または non-RAID 構成) を接続できます。

## 拡張性

デスクトップ・ボードは 1 つの PCI Express x16 拡張カードをサポートします。

デスクトップ・ボード D915PBL は 2 つの PCI Express x1 拡張デバイスおよび 4 つの PCI 拡張デバイスをサポートします。

### 関連リンク:

PCI Express カードの取り付け手順については第 2 章の 42 ページを参照してください。

## BIOS

BIOS は POST (自己診断テスト)、BIOS セットアップ・プログラム、PCI および IDE 自動設定ユーティリティならびにビデオ BIOS を提供します。BIOS はファームウェア・ハブに格納されています。

BIOS は第 3 章 69 ページの手順に従ってアップデートできます。

### シリアル ATA および IDE の自動設定

コンピュータに (ハード・ドライブなどの) シリアル ATA または IDE 機器を取り付けた場合には、BIOS の自動設定ユーティリティが自動的に機器を検出し、コンピュータに合わせて設定します。シリアル ATA または IDE 機器をインストール後にユーザが BIOS セットアップ・プログラムを実行する必要はありません。ただし、BIOS セットアップ・プログラムを使用して手動で設定を指定することによって自動設定オプションをオーバーライドすることもできます。

### PCI および PCI Express\* の自動設定

コンピュータに PCI/PCI Express 拡張カードを取り付けた場合には、BIOS の PCI/PCI Express 自動設定ユーティリティが拡張カードのリソース (IRQ、DMA チャンネルおよび I/O 空間) を自動的に検出して設定します。PCI/PIC Express 拡張カードを取り付け後にユーザが BIOS セットアップ・プログラムを実行する必要はありません。

## セキュリティ・パスワード

BIOS にはセキュリティ機能が装備されており、BIOS セットアップ・プログラム実行の可否およびコンピュータを起動できるユーザを制限することができます。BIOS セットアップおよびコンピュータの起動についてスーパーバイザ・パスワードおよびユーザ・パスワードを設定できますが、以下の制限があります：

- スーパーバイザ・パスワードは無制限のアクセスが可能であり、すべてのセットアップ・オプションを参照、変更できます。スーパーバイザ・パスワードのみが設定されている場合は、セットアップのパスワード・プロンプトで<Enter>を押せば、セットアップへのユーザ制限付きのアクセスが設定されます。
- スーパーバイザ・パスワードとユーザ・パスワードの両方が設定されている場合には、セットアップにアクセスするにはスーパーバイザ・パスワードまたはユーザ・パスワードのいずれかを入力しなければなりません。そして入力されたパスワードがスーパーバイザ・パスワードであるかユーザ・パスワードであるかに応じて、参照、変更可能なセットアップのオプションが表示されます。
- ユーザ・パスワードを設定すると、コンピュータを起動できるユーザを制限できます。パスワード・プロンプトはコンピュータが起動する前に表示されます。スーパーバイザ・パスワードのみが設定されている場合には、コンピュータはパスワードを求めずに起動します。両方のパスワードが設定されている場合には、いずれかのパスワードを入力してコンピュータを起動することができます。

## Chassis Intrusion (シャーシ開口検出機能)

ボードはシャーシ・セキュリティ機能をサポートしており、シャーシのカバーが開けられた場合にこれを検出することができます。このセキュリティ機能はシャーシのメカニカル・スイッチを使用しており、スイッチはデスクトップ・ボードの Chassis intrusion ヘッダに接続することができます。

## 電源管理機能

電源管理は以下のような複数のレベルで実装されています：

- ACPI (Advanced Configuration and Power Interface)
- ハードウェア・サポート：
  - 電源コネクタ
  - ファン・コネクタ
  - Suspend to RAM (Instantly Available PC テクノロジー)
  - Resume on Ring
  - USB 機器からの起動
  - PS/2 キーボード / マウスからの起動
  - PME# ウェークアップ・サポート

### ACPI

ACPI によって、オペレーティング・システムはコンピュータの電源管理および Plug & Play 機能を直接的に制御できるようになります。デスクトップ・ボードで ACPI を使用するには、ACPI を完全にサポートするオペレーティング・システムが必要です。

### 電源コネクタ

デスクトップ・ボードには 3 つの電源コネクタがあります。これらの電源コネクタの位置については 61 ページの図 24 ~ 図 27 を参照してください。



## ファン・コネクタ

デスクトップ・ボード D915PBL には 3 つのシャーシ・ファン・ヘッダ(3 ピン)および 1 つのプロセッサ・ファン・ヘッダ(4 ピン)が付属しています。

ファン・ヘッダの位置については 61 ページの図 24 を参照してください。

## ファン・スピード制御(インテル® Precision Cooling Technology)

インテル Precision Cooling Technology は、プロセッサの温度に基づいてプロセッサ・ファンの回転数を、またシステム温度に基づいてシャーシ・ファンの回転数を自動的に調節します。シャーシ・ファンとプロセッサ・ファンの動作を必要最低限の回転数に制御することによってシステム・ファンの騒音を抑えることが可能になります。



### ノート

デスクトップ・ボード D915PBL のすべてのシャーシ・ファン・ヘッダが制御対象になっているわけではありません。制御対象になっているシャーシ・ファン・ヘッダの位置を確認するには 56 ページの「内部ヘッダの接続」を参照してください。

プロセッサ・ファンおよびシャーシ・ファンのスピード制御機能は、デスクトップ・ボード BIOS でそれぞれ独立して無効にすることができます。プロセッサ・ファン・スピード制御機能を無効にした場合には、ファンが自己制御式でない場合には常に最高の回転数で動作します。インテル® ボックス版プロセッサに付属のプロセッサ・ファン・ヒートシンクを使用する場合には、プロセッサ・ファン・スピード制御機能を有効(BIOS の工場出荷時設定)のままにしておくことを推奨します。シャーシ・ファン・スピード制御機能を無効にすると、シャーシ・ファンは常に最高の回転数で動作します。制御対象になっているいずれかのシャーシ・ファン・ヘッダに自己制御式のシャーシ・ファンを接続する場合には、シャーシ・ファン・スピード制御機能を無効にする必要があります。

全体的な騒音抑制の効果については、システム構成や環境によって変わります。

## Suspend to RAM(Instantly Available PC テクノロジ)



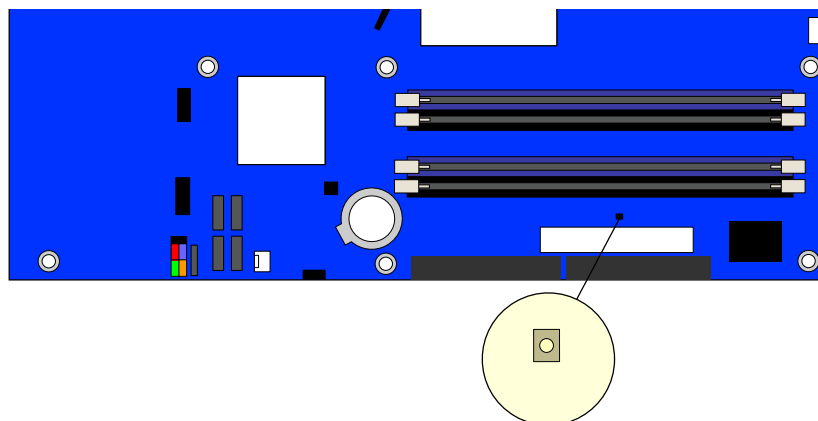
### 警告

Instantly Available PC テクノロジを使用するためには、電源の 5 V スタンバイ・ライン が十分な+5V スタンバイ電流を供給できる必要があります。この機能を使用時に十分なスタンバイ電流が供給されない場合には、電源を損傷したり、ACPI S3 スリープ状態の機能に支障をきたしたりする可能性があります。

Instantly Available PC テクノロジによって、ボードは ACPI S3(Suspend-to-RAM)スリープ状態に入ることが可能になります。S3 スリープ状態ではコンピュータは電源がオフになっているように見えますが、ウェークアップ・デバイスまたはイベントから信号が送られると、システムは即座に直近の動作状態に戻ります。

システムにスタンバイ電源が供給されているときには、図 2 に示すようにデスクトップ・ボードのスタンバイ電源インジケータが点灯します。コンピュータはオフになっているように見えても、メモリ・モジュールや PCI バス・コネクタにはスタンバイ電源が供給されています。

システムのフロント・パネルに 2 色 LED が装備されている場合には、スリープ状態のときには LED がオレンジ色になってこれを示します。



OM16968

図 2. スタンバイ電源インジケータの位置



### 警告

標準的な Instantly Available (ACPI S3 スリープ状態) 設定をサポートするためにはこのデスクトップ・ボードに使用する電源が十分なスタンバイ電流を供給できる必要があります。PCI や USB バスからの複数のウェーク・イベントをサポートするのに必要なスタンバイ電流が電源の容量を超えている場合には、デスクトップ・ボードはメモリに格納されているレジスタの設定を失うことがあります。

### 関連リンク:

デスクトップ・ボードのスタンバイ電流の要件に関する詳しい情報については、次の技術文書のリンクを選択してテクニカル・プロダクト・スペシフィケーション (技術仕様書) を参照してください:

<http://developer.intel.com/design/motherbd/>

## Resume on Ring

Resume on Ring 機能の概要:

- ACPI S1 または ACPI S3 状態から動作を復帰
- コンピュータにアクセスするのに必要なのはワンコールのみ
- 外部および内部モデムについて同じように着信コールを検出
- 正しく動作するためにはモデム割り込みがマスクされないこと

## USB 機器からの起動

USB バスのアクティビティによってコンピュータを ACPI S1 または S3 状態から起動します。



### ノート

USB 機器からの起動を利用するには、この機能をサポートした USB 周辺機器を使用する必要があります。

## PS/2 キーボード / マウスからの起動

PS/2 キーボード / マウスのアクティビティによってコンピュータを ACPI S1 または S3 状態から起動します。

## PME# ウェークアップ・サポート

PCIバスの PME# 信号がアサートされると、コンピュータは ACPI S1、S3 または S5 状態から起動します。

## スピーカー

デスクトップ・ボードにはスピーカーが装着されています。このスピーカーは、POST(自己診断テスト)時に、ビープ音によるエラー・コード(ビープ・コード)情報を発します。

## 電池

デスクトップ・ボードの電池は、コンピュータの電源がオフになった時に CMOS RAM の値とクロック電流を保持します。電池の交換手順については 29 ページ以下の第 2 章を参照してください。

## リアルタイム・クロック

デスクトップ・ボードは時刻機構と 100 年カレンダーを装備しています。コンピュータの電源がオフになった時には、デスクトップ・ボードの電池がクロック電流を保持します。



## 2 デスクトップ・ボード・コンポーネントの取り付けと交換

---

この章では以下の手順について説明します：

- I/O シールドの取り付け
- デスクトップ・ボードの取り付けと取り外し
- プロセッサとメモリの取り付けと取り外し
- PCI Express カードの取り付けと取り外し
- IDE およびシリアル ATA ケーブルの接続
- シリアル ATA 対応インテル RAID テクノロジを使用するためのシステム設定
- フロント・パネル・ヘッダの接続
- フロント・パネル・オーディオ・ソリューションおよび USB ソリューションのインストール
- ファン・ケーブルおよび電源ケーブルの接続
- PCI バス拡張カードの接続
- BIOS コンフィギュレーション・ジャンパの設定
- パスワードのクリア
- 電池の交換

### はじめに

#### 注意

*この章の作業手順は、ユーザがパーソナル・コンピュータに関連する一般的な用語および、電子機器の使用と変更に必要な安全対策や法規の準拠に精通していることを前提としています。*

*この章で説明している作業を行う前に、必ずコンピュータを電源、あらゆる通信リンク、ネットワークまたはモデムから切り離してください。コンピュータのケースを開けたり、作業を実行したりする際に電源、通信リンク、ネットワークまたはモデムを接続したままにすると負傷や機器の損傷の原因になります。ボード上の一部の回路はフロント・パネルの電源ボタンがオフになっていても継続して動作していることがあります。*

作業を始める前に以下のガイドラインを遵守してください：

- すべての作業の手順を必ず正しい順番で実行してください。
- コンピュータの型番、シリアル・ナンバー、インストールされているオプション、設定情報など、コンピュータに関する情報を記録するログを作成してください。
- 静電気放電 (ESD) はコンポーネント損傷の原因となります。この章で説明されている作業を実行するときには、必ず帯電防止用リストストラップと導電フォーム・パッドを着用し、静電気対策の施された作業場で行ってください。そのような作業場がない場合は、帯電防止用リストストラップを着用し、それをコンピュータ・シャーシの金属部分に接続することによってある程度の静電気放電保護を実現できます。

## 取り付けに際しての予防事項

インテル・デスクトップ・ボードを取り付けおよびテストするときには、取り付け手順に記載されているすべての注意と警告を守ってください。

負傷を予防するために以下の事柄に注意してください：

- コネクタのとがったピン
- プリント基板アセンブリのとがったピン
- シャーシのぎざぎざのエッジやとがった角
- 熱を持った部品(プロセッサ、電源レギュレータ、ヒートシンクなど)
- 回路のショートの原因となるワイヤの損傷

コンピュータの保守を専門的な知識を持つ技術者に任せるよう指示する注意や警告がある場合には、それらをすべて守ってください。

## 取り付けに関する注意事項



### 警告

このボードを取り付けるときには、安全および規制事項に適合するために以下のガイドラインを遵守してください。

このマニュアルのすべての指示、およびシャーシおよび関連するモジュールに付属するすべての指示をよく読み、忠実に守ってください。シャーシの指示とこのマニュアルの指示または関連するモジュールの指示が異なっている場合には、販売業者の技術サポートに問い合わせ、コンピュータが安全および規制事項に適合していることを確かめる方法について確認してください。このマニュアルの指示やシャーシおよびモジュールの販売業者の指示を守らなかった場合には、安全上のリスクや地域の法律や規制に準拠しない可能性が高まります。

### EMC 規格の準拠

コンピュータを組み立てる前に、該当する電源およびその他のモジュールや周辺機器がクラス B の EMC 試験に合格し、その合格証が表示されていることを確認してください。

ホスト・シャーシ、電源およびその他のモジュールの取り付け指示を読むときは、以下の事項によく注意してください：

- 製品の認証または認証の欠如
- 外部 I/O ケーブルのシールドおよびフィルタリング
- 取り付け、接地および接合の要件
- 異なる種類のコネクタを接続すると危険である場合があるキーイング・コネクタ

該当する電源およびその他のモジュールや周辺機器が、組み立て前にクラス B の EMC 規格に準拠していない場合、新しく組み立てられたコンピュータの代表的なサンプルについて EMC 試験を実施する必要があります。

## シャーシおよびコンポーネントの認証

シャーシおよび電源、周辺機器ドライブ、ワイヤ、ケーブルなどが使用される国または市場で認証を受けたコンポーネントであることを確認してください。製品につけられた政府機関の認証マークがその証明となります。代表的な製品の認証には以下のものがあります：

- **ヨーロッパ**

CE マークは、すべての該当するヨーロッパの規制要求に準拠していることを示します。シャーシやその他のコンポーネントに CE マークが適切に表示されていない場合には、販売業者が発行するヨーロッパの EMC 指令および低電圧指令（該当する場合）の適合宣誓書を入手する必要があります。さらに、製品の機能によっては R&TTE (Radio and Telecommunications Terminal Equipment) 指令などのその他の指令も適用されます。

- **アメリカ合衆国**

UL、CSA または ETL などのアメリカ合衆国 NRT (Nationally Recognized Testing Laboratory、国家認定試験機関) による認証マークは、安全規格に準拠していることを意味します。ワイヤやケーブル類も UL に記載されるか、意図する使用方法に適している旨の認証を受ける必要があります。家庭またはオフィス用途の FCC クラス B ロゴは、EMI (電磁障害) 規格に準拠していることを示します。

- **カナダ**

CSA や cUL などのカナダ国内で広く認知されている認証マークは、安全規格に準拠していることを示します。このマニュアルの表紙のカナダ産業省 (IC) 宣誓書は、カナダの EMC 規格に準拠していることを示します。カナダ産業省は、FCC の認証をカナダ国内の電磁障害 (放射) 規格に準拠するものとして承認しています。

## 電源の過負荷防止

電源出力に過大な負荷をかけないでください。電源の過負荷を防止するためには、コンピュータ内の全モジュールの合計電流負荷が電源の各出力回路の定格電流以下であることを確認してください。

## 電池交換に関する警告

デスクトップ・ボードにはコイン型リチウム・イオン電池の交換と処分についての警告を表示する十分なスペースがありません。システムの安全確保のために、下記の文言または同等の文言をシャーシの電池近くに永久に消えないように表示する必要があります。



### 警告

異なる種類の電池を使用すると爆発の危険があります。リサイクルが可能な地域であれば、電池をリサイクルしてください。使用後の電池を破棄する際には、地域の環境規制に従ってください。

### 関連リンク:

電池の交換手順については、第 2 章の 67 ページを参照してください。

## 使用目的

すべてのインテル・デスクトップ・ボードは、家庭、オフィス、学校、コンピュータ・ルームおよび同等の場所で使用するパーソナル・コンピュータ用の情報技術機器 (I.T.E)として検証されています。医療、産業、アラーム・システム、試験装置などのその他の使用目的または環境に関しては、別途検証が必要な場合があります。

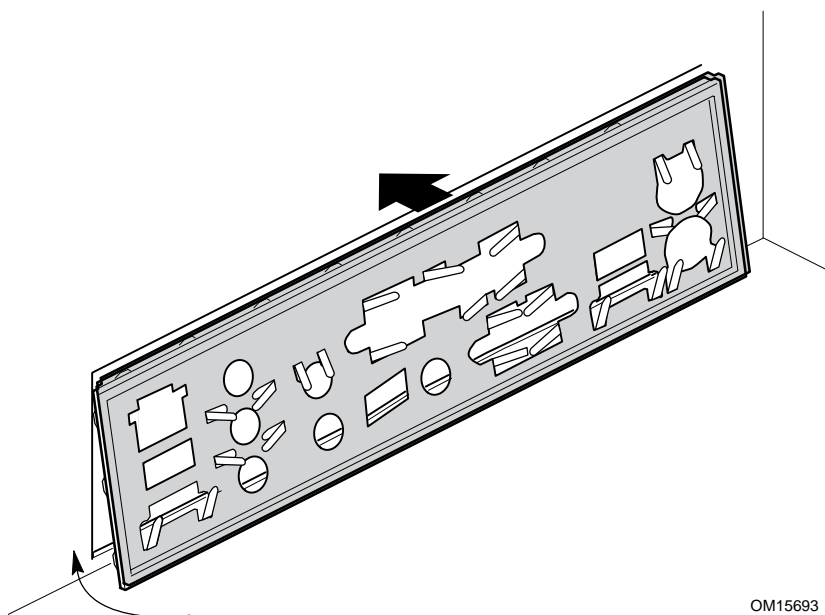
## 関連リンク:

規格適合に関する情報については 101 ページの付録 B を参照してください。

## I/O シールドの取り付け

デスクトップ・ボードには I/O シールドが同梱されています。I/O シールドを シャーシに取り付けると、無線周波数の送波を防ぐとともに、内部のコンポーネントをほこりや異物の侵入から保護し、シャーシ内の空気の流れを助けます。

シャーシにデスクトップ・ボードを取り付ける前に、I/O シールドを取り付けてください。図 3 のようにシャーシ内にシールドを置きます。シールドを押して、しっかりと正しい位置に収まるようにします。シールドがうまく収まらない場合は、シャーシの販売業者から適切なサイズのシールドを入手してください。



OM15693

図 3. I/O シールドの取り付け



## デスクトップ・ボードの取り付けと取り外し

### ⚠ 注意

専門知識を持った技術者以外はこの作業を行わないでください。ここで説明している作業を実行する前にコンピュータを電源から切り離してください。コンピュータを開ける際に電源を接続したままにすると、負傷や機器の損傷の原因になります。

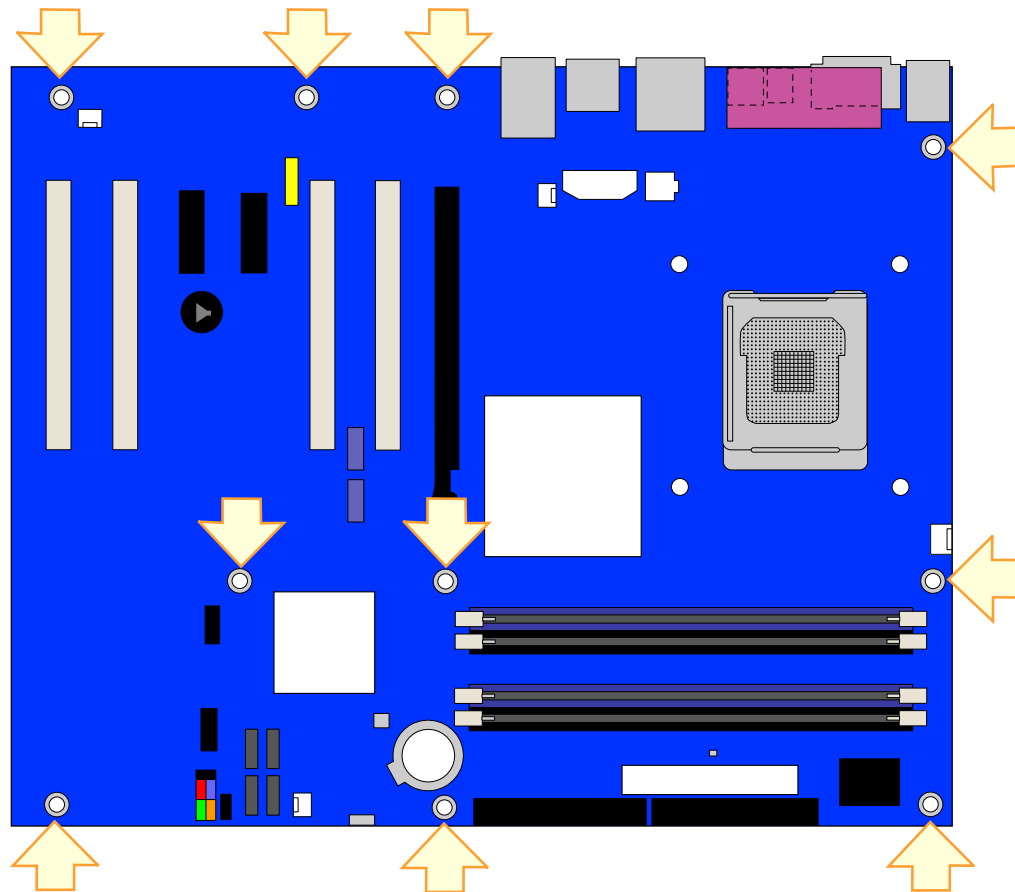


### ノート

規制事項に関する要求事項については付録 B を参照してください。

デスクトップ・ボードの取り付けおよび取り外し手順についてはシャーシのマニュアルを参照してください。

図 4 にデスクトップ・ボード D915PBL に装備された 10 個のシャーシへの取り付け穴の位置を示します。



OM16982

図 4. デスクトップ・ボードのシャーシへの取り付け穴の位置

## プロセッサの取り付けと取り外し

以下にプロセッサをデスクトップ・ボードに取り付ける手順について説明します。

### プロセッサの取り付け



#### 警告

プロセッサを取り付ける前、または取り外す前には必ずコンピュータから電源コードを抜いて AC 電源を取り外してください。また、スタンバイ電源 LED が点灯していないことを確認してください(26 ページの図 2 参照)。そうしないとプロセッサやボードが損傷を受けることがあります。

プロセッサを取り付けるには、以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. ソケット・レバーを一度押し下げ、ソケットから離すようにしてレバーを開きます(図 5 の A および B 参照)。

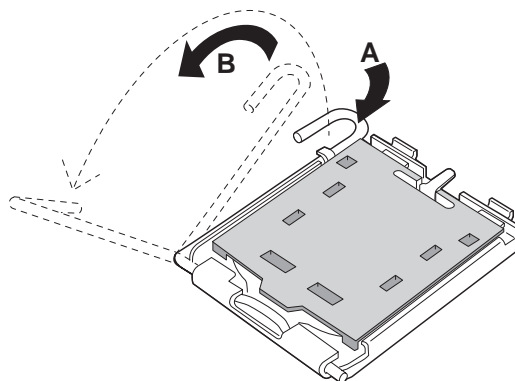


図 5. ソケット・レバーを持ち上げる

3. ロード・プレートを持ち上げます。ソケットの接点に触れないでください(図 6 の C および D 参照)。

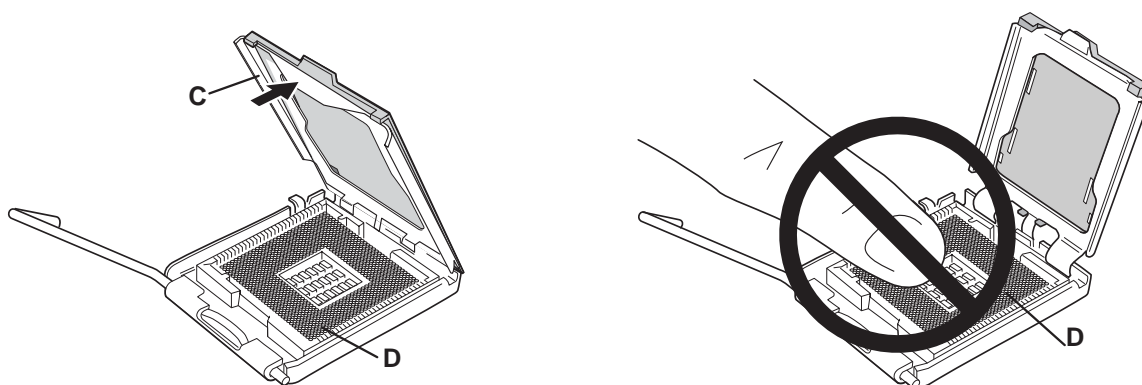


図 6. ロード・プレートを持ち上げる(ソケットの接点には触れないこと)

4. ロード・プレートからプラスチック製の保護ソケット・カバーを取り外します。保護ソケット・カバーは捨てないでください。プロセッサをソケットから取り外したときには、必ずプロセッサの代わりにソケット・カバーを取り付けてください(図7のE参照)。

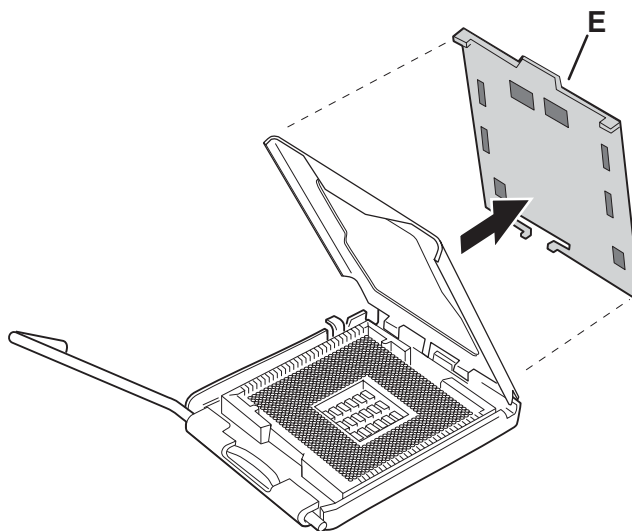


図7. 保護カバーを取り外す

5. プロセッサを保護カバーから取り外します。プロセッサを持つときには必ずエッジ部分を持ち、プロセッサの底面に触れないようにしてください。保護カバーは捨てないでください。プロセッサをソケットから取り外したときには、必ずプロセッサに保護カバーを取り付けてください(図8参照)。

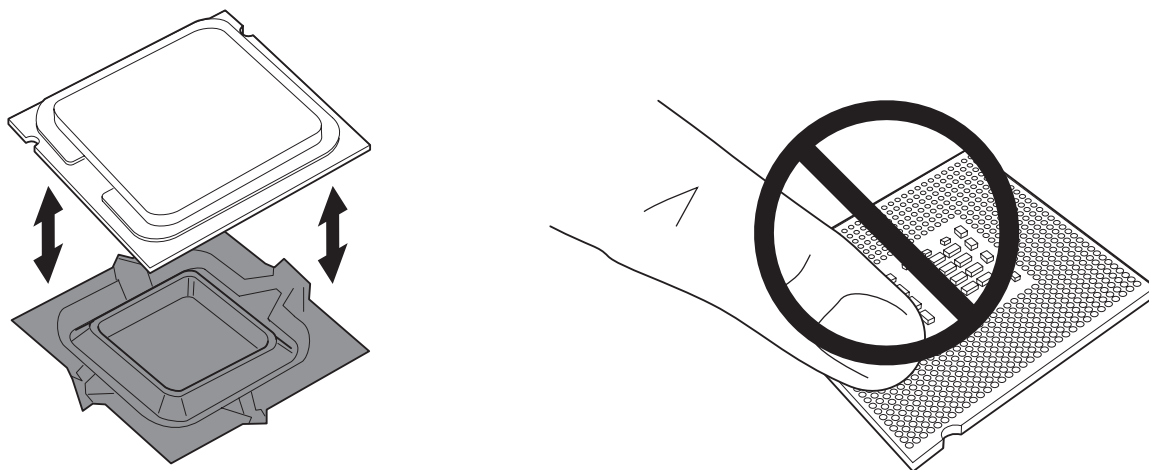


図8. プロセッサを保護カバーから取り外す

6. 図 9 のようにプロセッサを親指と人差し指で持ちます。指は必ずソケットのノッチ(図 9 の F 参照)の向きに合わせてください。ノッチ(図 9 の G 参照)をソケット(図 9 の H 参照)に合わせます。プロセッサを傾けたり滑らせたりせずに、ソケットにまっすぐ下ろします。

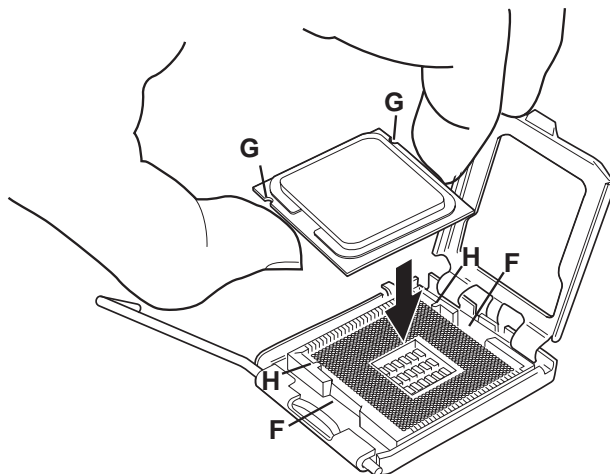


図 9. プロセッサを装着する

1. ロード・プレートを押し下げて(図 10 の I 参照)閉じ、ソケット・レバーを固定します(図 10 の J 参照)。

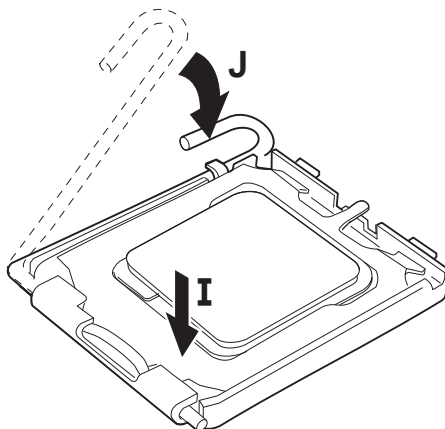


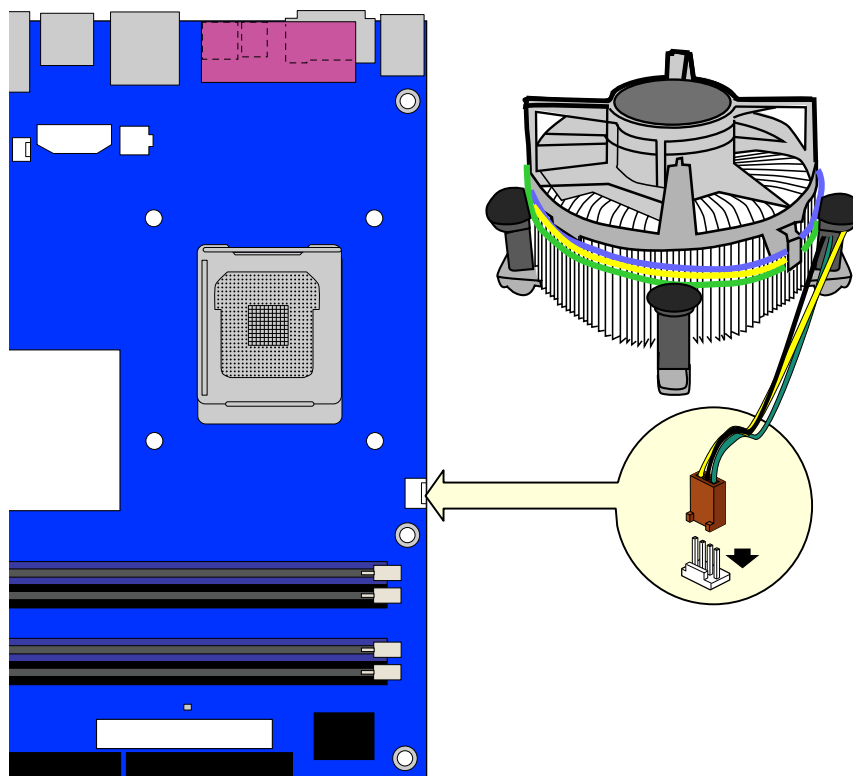
図 10. ロード・プレートを閉じる

### プロセッサ・ファン・ヒートシンクの取り付け

プロセッサ・ファン・ヒートシンクの取り付け手順については、「インテル® デスクトップ・ボード簡単組み立てガイド」の step 3 を参照してください。

## プロセッサ・ファン・ヒートシンク・ケーブルの接続

プロセッサ・ファン・ヒートシンク・ケーブルを4ピン・プロセッサ・ファン・コネクタ(図 11 参照)に接続します。



OM16983

図 11. プロセッサ・ファン・ヒートシンク・ケーブルをプロセッサ・ファン・コネクタに接続

## プロセッサの取り外し

プロセッサ・ファン・ヒートシンクおよびプロセッサの取り外し手順については、「インテル® デスクトップ・ボード簡単組み立てガイド」の step 3 を参照してください。

## メモリの取り付けと取り外し



### 警告

該当するすべてのインテル SDRAM メモリ仕様に準拠するためには、ボードには SPD (Serial Presence Detect) データ構造をサポートする DIMM を使用する必要があります。PC SPD の仕様については次のインテル Web サイトで参照できます:

<http://www.intel.com/technology/memory/pcsdram/spec/>

デスクトップ・ボード D915PBL は図 16 のようにチャンネル A およびチャンネル B のそれぞれについて DIMM0 および DIMM1 の 2 本、合計 4 本の 240 ピン DIMM ソケットを装備しています。

### デュアル・チャンネル・メモリ構成のガイドライン

DIMM を取り付けの前に、以下のデュアル・チャンネル構成に関するガイドラインをよく読み、それに従ってください。

#### 2 本または 4 本の DIMM を使用する場合

チャンネル A と B の両方の DIMM0 (青色) に速度と容量が同一の規格が揃った 2 枚 1 組の DIMM (図 12 参照) を取り付けます。

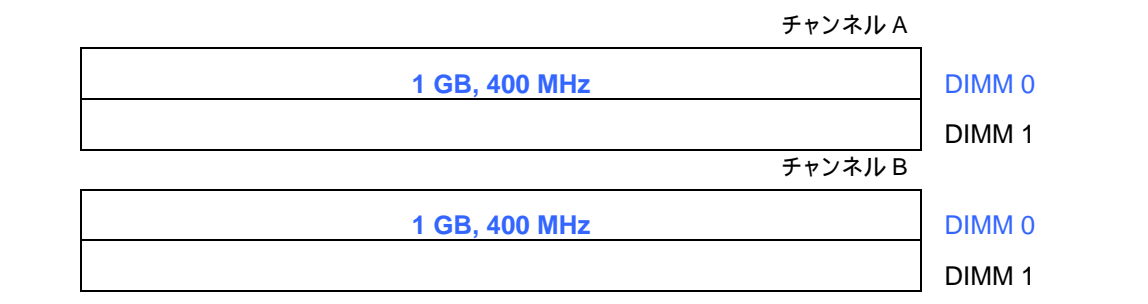


図 12. デュアル構成の例 1

メモリを増設する場合は、規格が揃った 2 枚の DIMM をチャンネル A および B の両方の DIMM1 (黒色) に取り付けます (図 13 参照)。

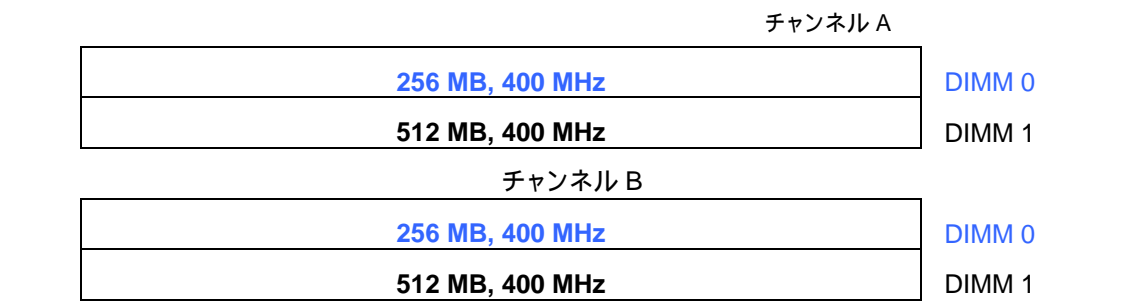


図 13. デュアル構成の例 2

### 3本のDIMMを使用する場合

速度と容量が同一の規格が揃った2枚1組のDIMMをチャンネルAのDIMM0(青色)およびDIMM1(黒色)に取り付けます。さらに速度が同じで、チャンネルAに取り付けた2枚のDIMMの合計容量と同一の容量のDIMMをチャンネルBのDIMM0またはDIMM1に取り付けます(図14参照)。

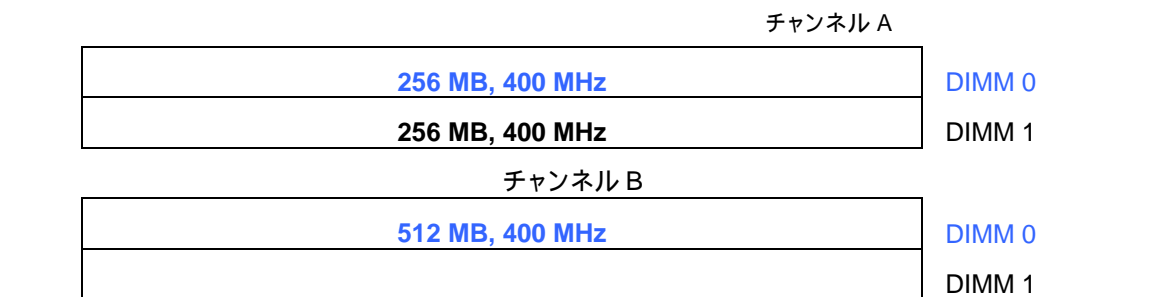


図 14. デュアル構成の例 3



#### ノート

上記以外のすべてのメモリ構成はシングル・チャンネル・メモリ動作になります。

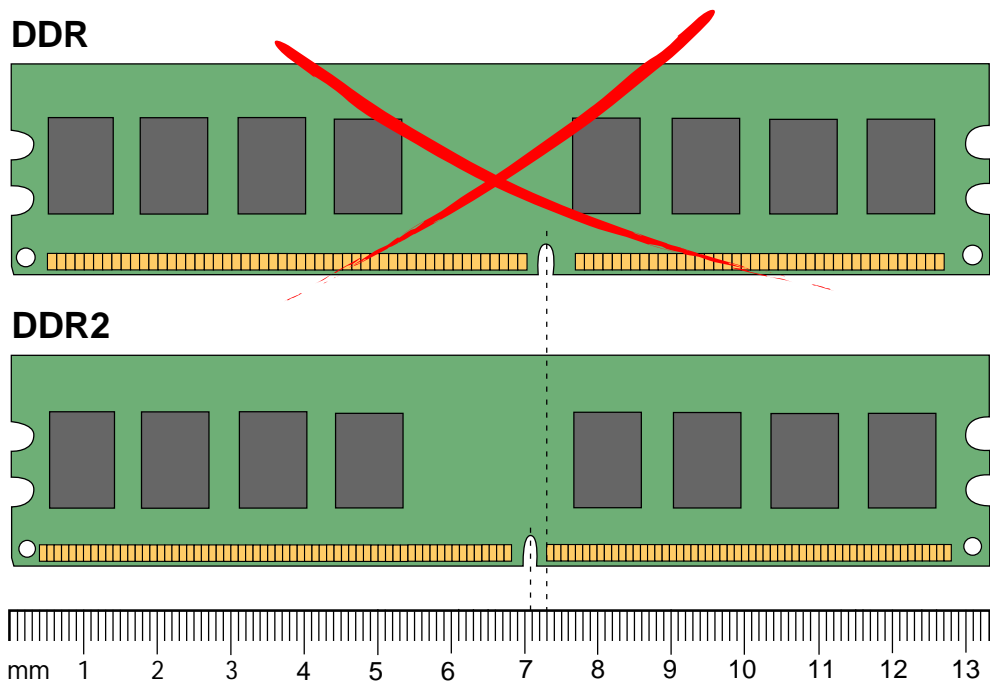
## DIMM の取り付け



### 警告

メモリソケットのレバーとぶつからないようにメモリは PCI Express カードを取り付ける前に DIMM ソケットに取り付けてください。

必ず適切な DIMM を用意し、DDR2 DIMM を説明する図 15 の図のように置いてください。すべてのノッチが DDR2 DIMM と合わなければなりません。



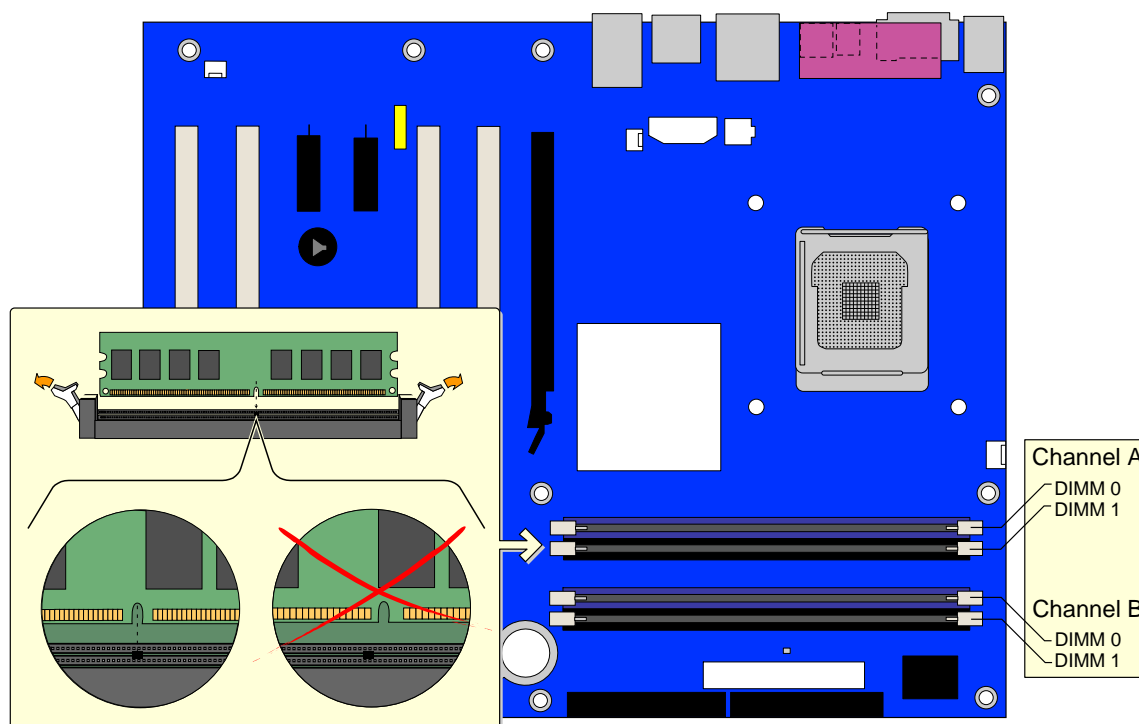
OM16943

図 15. DDR2 DIMM を使用してください



DIMM を取り付けるには、以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. コンピュータに接続されているすべての周辺機器の電源をオフにします。コンピュータの電源を切り、AC 電源コードを抜きます。
3. コンピュータのカバーを取り外し、DIMM ソケットの場所を確認します (図 16 参照)。
4. PCI Express ビデオ・カードが邪魔をしてメモリスOCKETのレバーの開閉が困難な場合には、カードを一旦取り外します。



OM16984

図 16. メモリ・モジュールの取り付け

5. DIMM ソケットの両側のクリップが、外側に押し開かれた状態になっていることを確認します。
6. DIMM の両端を持って静電気防止パッケージから取り出します。
7. DIMM をソケットの上に載せます。DIMM の下端の小さなノッチをソケットのキーに合わせてください (図 16 の挿入イラスト参照)。
8. DIMM の下端をソケットに挿入します。
9. DIMM を挿入したら、メモリスOCKETのレバーが所定の位置にはまるまで DIMM の上部を押し込みます。クリップがしっかりとハマっていることを確認してください。
10. DIMM を取り付ける前に PCI Express カードを取り外した場合には、カードを再度取り付けます。
11. コンピュータのカバーを取り付け、AC 電源コードを接続します。

## DIMM の取り外し

DIMM を取り外すには、以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. コンピュータに接続されているすべての周辺機器の電源をオフにします。コンピュータの電源をオフにします。
3. AC 電源コードをコンピュータから取り外します。
4. コンピュータのカバーを取り外します。
5. PCI Express カードが邪魔をしてメモリソケットのレバーの開閉が困難な場合には、カードを一旦取り外します。
6. 静かにメモリソケットのレバーを広げます。すると DIMM がソケットから持ち上がります。
7. DIMM の両端を持ってソケットから外し、静電防止パッケージに収納します。
8. DIMM を取り外す前に PCI Express カードを取り外した場合には、カードを再度取り付けます。
9. メモリソケットの作業をするために取り外したすべての部品を再度取り付けます。
10. コンピュータのカバーを取り付け、AC 電源コードを接続します。

## PCI Express カードの取り付けと取り外し



### 警告

PCI Express カードをデスクトップ・ボードに取り付ける場合には、システムの電源を入れる前に必ずカードが PCI Express コネクタに完全に取り付けられていることを確認してください。カードが PCI Express コネクタに完全に取り付けられていないと、PCI Express コネクタ・ピンに電気ショートが発生することがあります。電源に過電流防止対策が施されているかどうかにもよりますが、一部のボード・コンポーネントやトレースが損傷を受ける可能性があります。

デスクトップ・ボードには統合 PCI Express カード・リテンション・メカニズム (RM) が付属しています。

## PCI Express カードの取り付け

PCI Express カードを取り付けるには以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. カードを PCI Express コネクタに置きます。
3. カードが完全に PCI Express コネクタに装着されるまでカードを押し下げるとカードのリテンションのノッチが RM のピンにはまります。
4. カードの金属製ブラケットをシャーシ・バック・パネルにねじで留め付けます。

## PCI Express カードの取り外し

PCI Express カードをリテンション・メカニズム (RM) から取り外すには以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. カードの金属製ブラケットをシャーシ・バック・パネルに固定しているねじを外します (図 17-A 参照)。
3. リテンション・ピンがカードのノッチから完全に外れるまでリテンションレバーを押し戻します (図 17-B 参照)。
4. カードをまっすぐ引き抜きます (図 17-C 参照)。

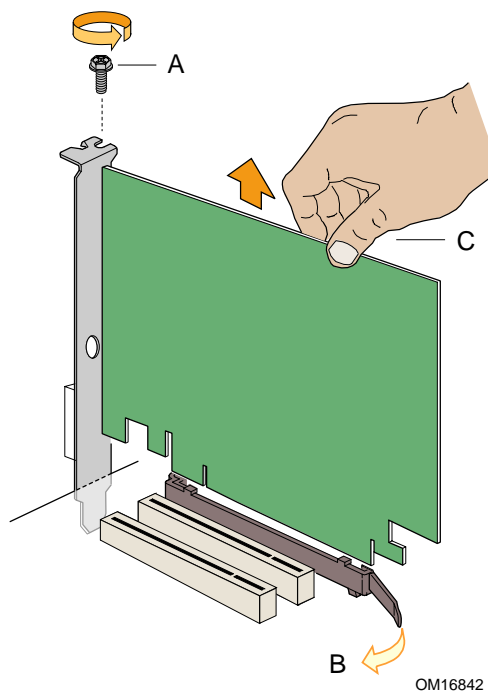


図 17. PCI Express カードの取り付け

## IDE ケーブルの接続

IDE ケーブルはデスクトップ・ボードに 2 台のドライブを接続できます。ケーブルは ATA-66/100 転送プロトコルをサポートしています。図 18 に正しいケーブルの接続方法を示します。



### ノート

ATA-66/100 互換ケーブルは、より低速な IDE 転送プロトコルを使用しているドライブに対して下位互換性があります。ATA-66/100 ディスク・ドライブと、その他の IDE 転送プロトコルを使用しているディスク・ドライブが同一のケーブルに接続されている場合には、ドライブ間の最大転送レートは低速のドライブに合わせて遅くなる場合があります。

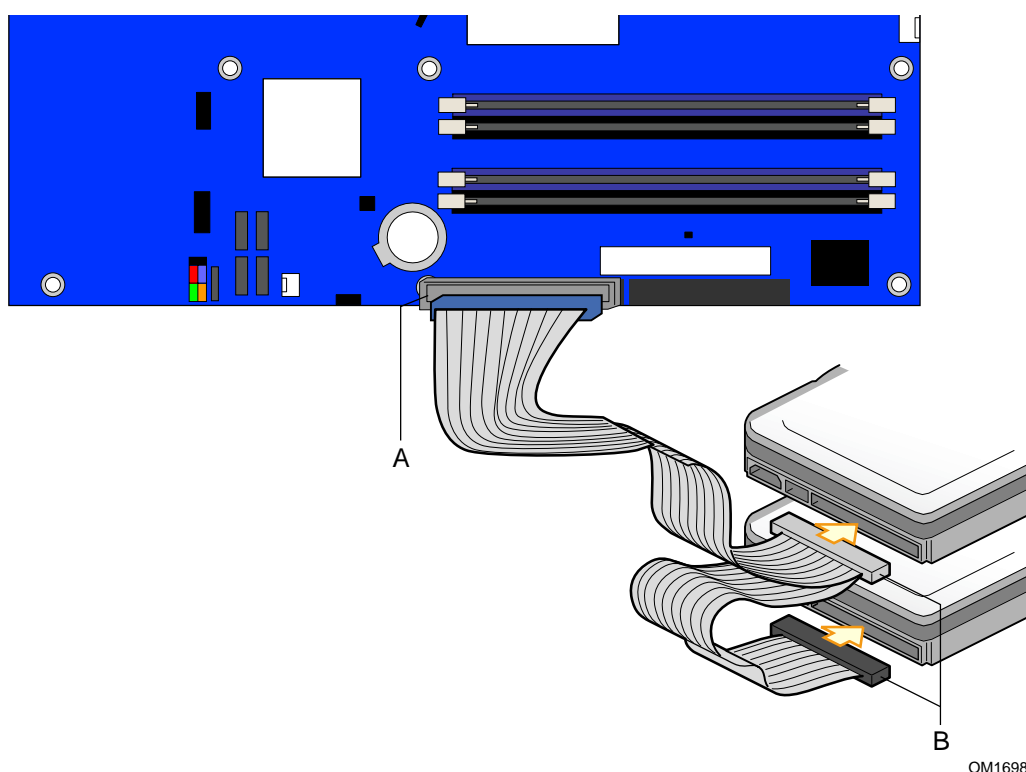


### ノート

ATAPI マスター・デバイスが接続されている IDE ケーブルに ATA デバイスをスレーブとして接続しないでください。たとえば、ATAPI CD-ROM ドライブが接続されているケーブルに ATA ハード・ドライブをスレーブ・ドライブとして接続しないでください。

ケーブルの正常な動作のために以下の事項を守ってください：

- 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
- ケーブルのシングル・コネクタ側をインテル・デスクトップ・ボードに接続します (図 18-A 参照)。
- 狭い間隔で 2 つに分かれているコネクタ側をドライブに接続します (図 18-B 参照)。



OM16985

図 18. IDE ケーブルの接続

## シリアル ATA (SATA) ケーブルの接続

SATA ケーブル(4 線)は、シリアル ATA プロトコルをサポートし、1 つのドライブをデスクトップ・ボードに接続できます。ケーブルのいずれの側を SATA ドライブまたはボード上のコネクタに接続しても差し支えありません。

ケーブルの正常な動作のために以下の事項を守ってください:

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. ケーブルのいずれか任意の側をボードのコネクタ(図 19-A)に接続します。
3. ケーブルの反対側(図 19-B)をドライブに接続します。

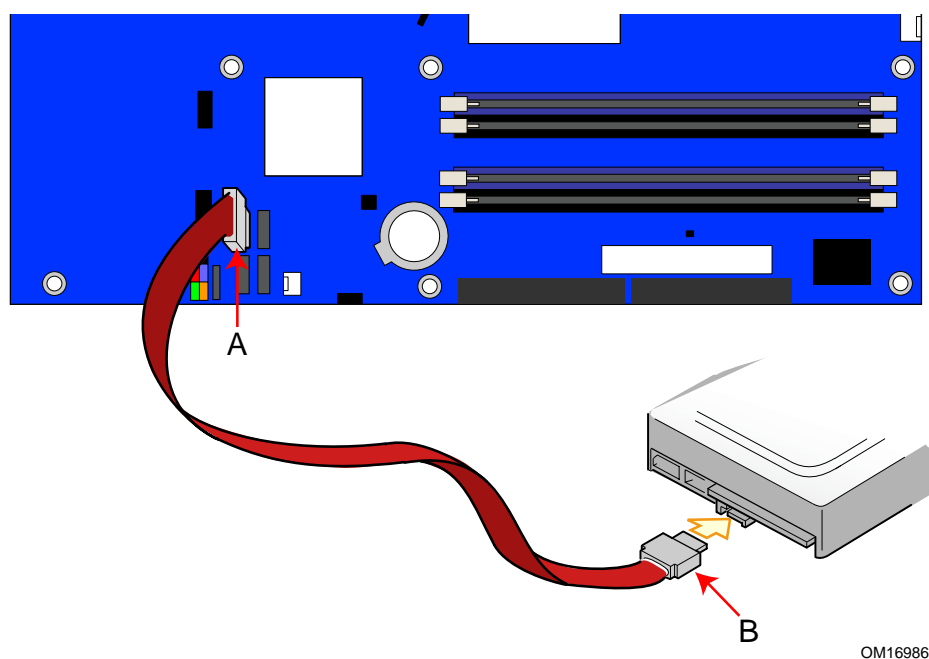


図 19. シリアル ATA ケーブルの接続

## シリアル ATA 対応インテル® RAID テクノロジを使用するためのシステム設定



### ノート

シリアル ATA 対応インテル RAID テクノロジは Microsoft Windows XP のみでサポートされています。

### シリアル ATA 対応インテル RAID テクノロジを使用するための BIOS 設定

システムがインテル RAID 用のオプション ROM コードを読み込めるようにするには、BIOS で SoftRAID のオプションを enabled (有効) にしておく必要があります。

1. POST (自己診断テスト) のメモリ・テストが始まったら、<F2>キーを押して BIOS セットアップ・プログラムを起動します。
2. Advanced メニューを選び、次に Drive Configuration メニューを選びます。
3. Intel® RAID Technology オプションを Enabled に変更します。
4. 次に ESC を押して、Boot メニューを選び、Silent Boot オプションを Disable に変更します。
5. <F10>キーを押して BIOS の設定を保存し、BIOS セットアップ・プログラムを終了します。

### RAID Set の構築、削除、リセット

シリアル ATA RAID Set は RAID 設定ユーティリティ (RAID Configuration Utility) で構成する必要があります。POST (自己診断テスト) の途中で以下のようなメッセージが数秒間表示されます：

Press <Cntrl-I> to enter Raid Configuration utility

上記のメッセージが表示されたら <Ctrl>キーと <I>キーを同時に押します。

### RAID 0 Volume の作成

1. オプション *1 Create RAID Volume* を選択し、<Enter>キーを押します。
2. <↑>または<↓> キーを使って設定可能なストライプ・サイズの中から RAID 0 アレイのストライプ・サイズを選択し、<Enter>キーを押します。
3. 設定可能なストライプ・サイズは 8KB から 128KB まで (8KB ステップ) です。ストライプ・サイズは予定しているディスクの用途によって選択します。以下に推奨されるストライプ・サイズの例を示します。初期設定のストライプ・サイズは 64KB です。
  - 16 KB – 低いディスク利用率
  - 64 KB – 一般的なディスク利用率
  - 128 KB – 高いディスク利用率
4. *Create Volume* のプロンプトで再度 <Enter>キーを押し、アレイを作成します。プロンプトに戻ったら <Y>キーを押して設定を確認します。
5. スクロールしてオプション *4 Exit (終了)* を選び、<Enter>キーを押して RAID 設定ユーティリティを終了します。<Y>キーを押して終了を確認します。

## RAID Volume の削除



### 警告

RAID ドライブのすべてのデータは失われます。

1. オプション 2 *Delete RAID Volume* を選択し、<Enter>キーを押して RAID Set を削除します。
2. <Delete>キーを押して RAID Volume を削除します。<Y>キーを押して Volume の削除を確認します。

## RAID データのリセット



### 警告

RAID ドライブと内部 RAID 構造のすべてのデータは失われます。

1. オプション 3 *Reset Raid Data* を選択し、<Enter>キーを押して RAID Set を削除し、ドライブからすべての RAID 構造を削除します。
2. <Y>キーを押して選択を確認します。

## インテル® Application Acceleration 3.0 RAID Edition ドライバのインストール

Windows XP では、以下の手順に従って RAID ドライバをインストールしてください：

1. Windows のセットアップが始まったら、<F6>キーを押して RAID ドライバを指定します。
2. インストール画面で追加のデバイスを尋ねられたら、<S>キーを押して追加のデバイスを指定します。
3. インテル® Application Accelerator 4.0 RAID Driver のラベルが貼られたフロッピー・ディスクを挿入して <Enter>キーを押します。
4. <Enter>キーを押して Intel 82801FR SATA RAID Controller を選択します。
5. <Enter>キーを押して Windows のセットアップを続けます。

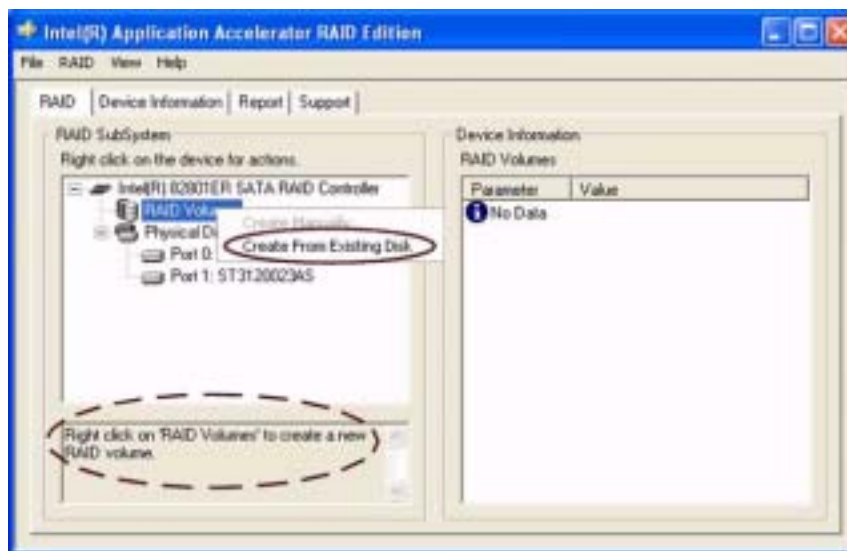
## インテル RAID Ready System の構成

インテル Application Accelerator – Integrated RAID Edition は、シリアル ATA ドライブがシステムに追加されたときに、シングル・シリアル ATA ドライブから 2 ドライブの RAID 0 構成にアップグレードできる柔軟性を提供します。しかし、2 台目のシリアル ATA ドライブにアップグレードして RAID の利点を活用するために初めてシステムを構成する際にはいくつかの重要な手順を踏む必要があります。

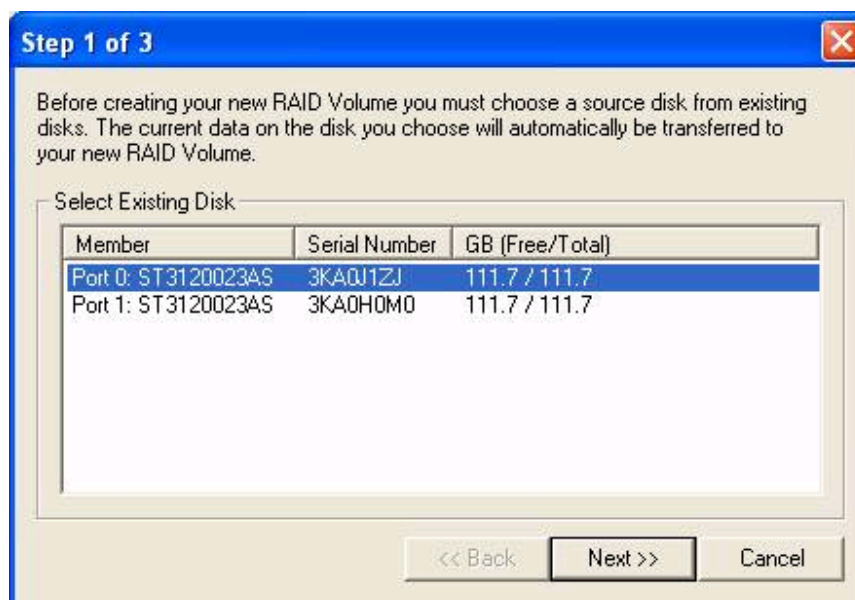
1. シングル・シリアル ATA ドライブに Windows XP をインストールする前に BIOS を RAID 用に設定する必要があります。BIOS を適切に設定するには、「シリアル ATA 対応インテル® RAID テクノロジを使用するための BIOS 設定」の項目を参照してください。
2. Windows のセットアップの途中でインテル内蔵 RAID ドライバをインストールします。「インテル® Application Accelerator 4.0 RAID Edition ドライバのインストール」の項目を参照して Windows のセットアップの途中でドライバをインストールしてください。
3. オペレーティング・システムをインストールし、次にインテル Application Accelerator 4.0 RAID Edition ソフトウェアをインストールします。インテル Application Accelerator 4.0 RAID Edition ソフトウェアはデスクトップ・ボードに付属しているインテル Express Installer CD に収録されています。

### シングル・ドライブ構成からシリアル ATA RAID 0 構成へのアップグレード

1. システムに 2 台目のシリアル ATA ドライブを取り付けます。45 ページの「シリアル ATA (SATA) ケーブルの接続」の項目を参照してください。
2. コンピュータの電源を入れ、Windows XP を起動します。
3. [スタート] メニューから Intel Application Accelerator を起動します。  
([スタート] [すべてのプログラム] [Intel Application Accelerator] [Intel Application Accelerator])
4. [RAID] タブで RAID Volume を右クリックして Create from Existing Disk を選択します。

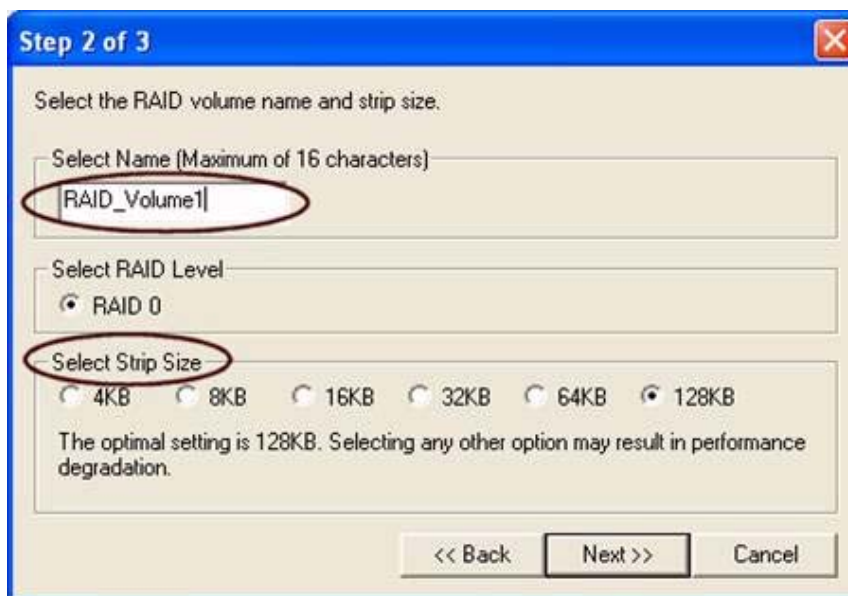


5. RAID Volume を作成するソース・ディスクを選択し、[Next] ボタンを押します。



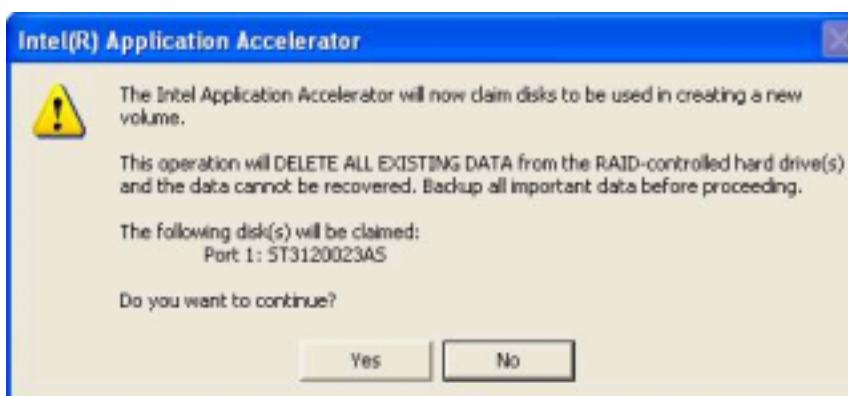


6. RAID Volume の名前とストライプ・サイズを入力します。

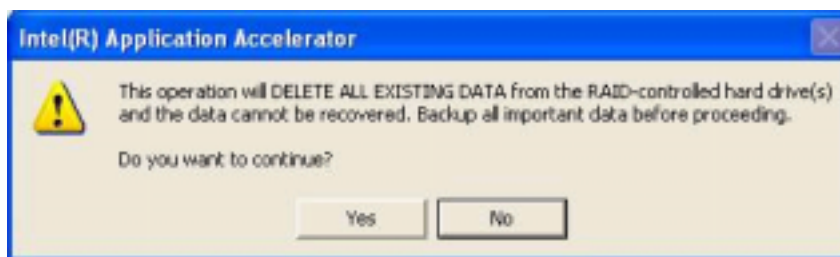


RAID Volume の初期設定の名前は RAID\_Volume1 です。次に RAID 0 アレイのストライプ・サイズを選択します。設定できるサイズは 8KB ~ 128KB (8KB ステップ) です。ストライプ・サイズは予定しているディスクの用途に応じて選択します。以下に推奨されるストライプ・サイズの例を示します。初期設定のストライプ・サイズは 64KB です。

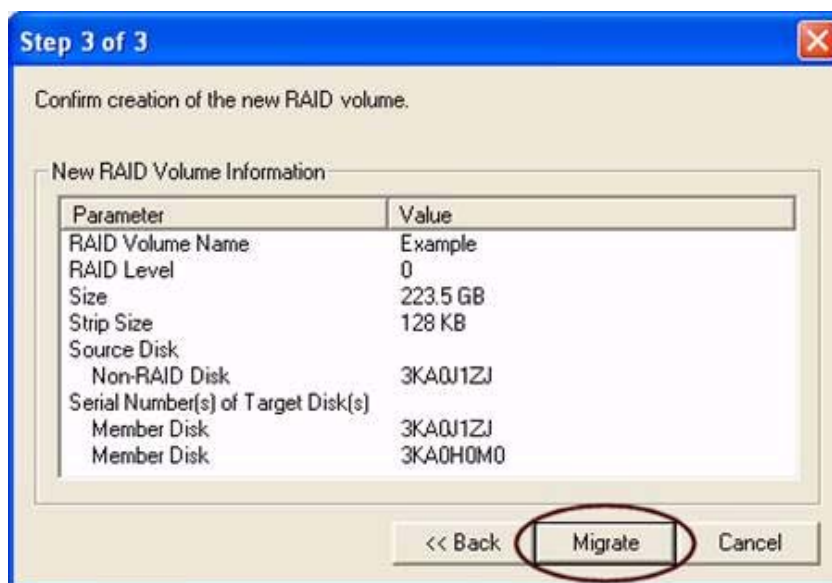
- 16 KB –低いディスク利用率
  - 64 KB –一般的なディスク利用率
  - 128 KB –高いディスク利用率
7. [Next]ボタンを押して次に進みます。
8. [Yes]ボタンを押して RAID volume の作成を確認します。



9. [Yes]ボタンを押して RAID volume の作成を再確認します。

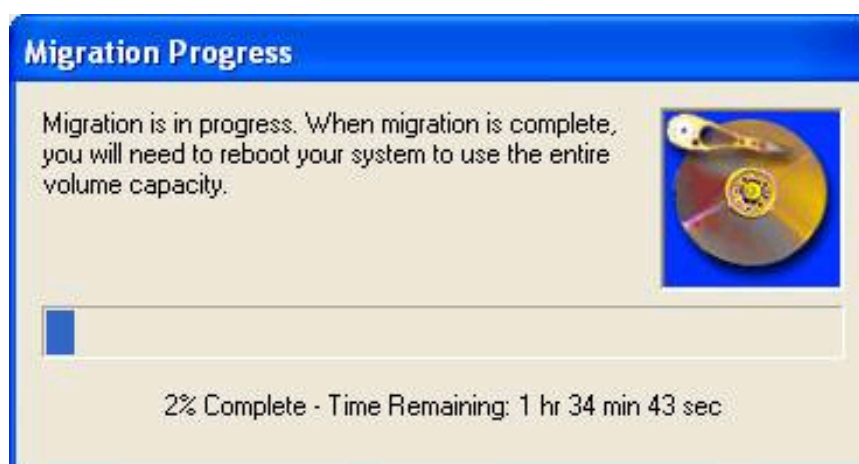


10. [Migrate]ボタンを押してデータの移行を開始します。



## ノート

データの移行が完了するには、移行が必要なデータ量にもよりますが最大で2時間程度かかる場合があります。データの移行完了にかなりの時間がかかる場合がある旨を通知するダイアログ・ウィンドウが表示されます。移行を開始するには[Yes]をクリックする必要があります。移行処理中もコンピュータ上で作業ができますが、いったん移行処理を開始したら停止することはできません。何らかの理由で移行処理が中断してシステムが再起動した場合には、移行処理の中断したところから再開されます。移行処理が開始されると、次の例の図のように完了までの推定時間が表示されます(実際の残り時間はこの例と異なる場合があります)：



11. 移行処理が問題なく終了すると、以下のダイアログ・ボックスが表示されます：



## ノート

システムに IDE ハード・ドライブも接続されている場合には、RAID volume から起動するように優先順位を上げる必要があります。システムが再起動したら、<F2> キーを押して BIOS セットアップ・プログラムを起動します。次に、BOOT メニューを探し、Hard Disk Drives オプションを選択します。RAID volume を先頭のドライブに移動させます。<F10> キーを押して BIOS 設定を保存し、BIOS セットアップ・プログラムを終了します。

## 手動での RAID Volume の作成

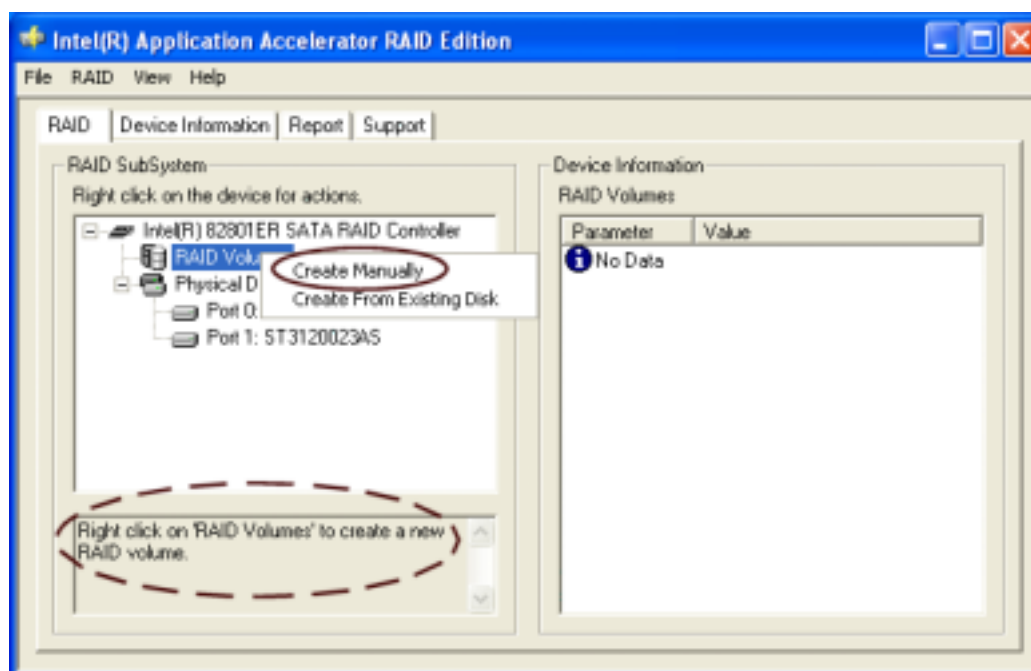
インテル Application Accelerator RAID Edition では、RAID volume を手動で作成することもできます。このオプションは、使用中の 2 台のシリアル ATA ハード・ドライブに加えて、IDE または SCSI ハード・ドライブなどの 3 番目の起動デバイスを使用している場合に選択します。3 番目の起動デバイスを使用して RAID volume を手動で作成する利点の 1 つは、オペレーティング・システムが RAID volume に格納されない点です。そうすると RAID volume に何らかの障害が発生した場合でも、オペレーティング・システムは影響を受けないことになります。



### ノート

使用中の 2 つのシリアル ATA ハード・ドライブに加えて 3 番目の起動可能なデバイスが取り付けられていないと、*Create Volume Manually* (手動で volume を作成) のオプションは選択可能になりません。

手動で RAID volume を作成するには、下図のように RAID Volumes を右クリックし、Create Manually を選択して新しい RAID volume を作成します：



### ノート

手動で RAID volume を作成するには、RAID ファイル・メニューをクリックし、次に下向き矢印キーで *Create Volume Manually* を選択し、クリックすることでも実行できます。

## RAID Volume の名前とストライプ・サイズを選択

RAID volume の名前とストライプ・サイズを選択し、[Next]ボタンをクリックします：

**Step 1 of 2**

Select the RAID volume name and strip size.

Select Name (Maximum of 16 characters):

Select RAID Level:  
 RAID 0

Select Strip Size:  
 4KB  8KB  16KB  32KB  64KB  128KB

The optimal setting is 128KB. Selecting any other option may result in performance degradation.

<< Back    Next >>    Cancel

### RAID Volume の名前:

RAID\_Volume1 という文字列が表示されている欄に、これから設定する RAID volume の名前を入力する必要があります。RAID volume の名前は最大 16 文字までです。また使用できる文字は ASCII 英数字のみです。

### ストライプ・サイズ:

必要なストライプ・サイズの設定を選択します。図で示されているように、最適な値は 128KB です。それ以外の値を選択するとパフォーマンスが低下することがあります。ほとんどのユーザに 128KB が推奨されますが、具体的な RAID の使用形態に応じて適切なストライプ・サイズを選択してください。表 5 に最も代表的な 3 種類のストライプ・サイズを示します。

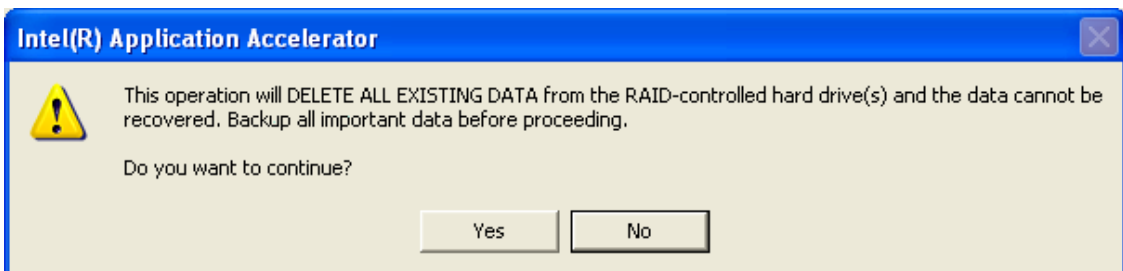
表 5. 代表的なストライプ・サイズの設定値

ストライプ・サイズ設定値	説明
16 KB	シーケンシャル転送に最適
64 KB	一般的な用途に適したストライプ・サイズ
128 KB	ほとんどのデスクトップおよびワークステーション用途に最適なパフォーマンス



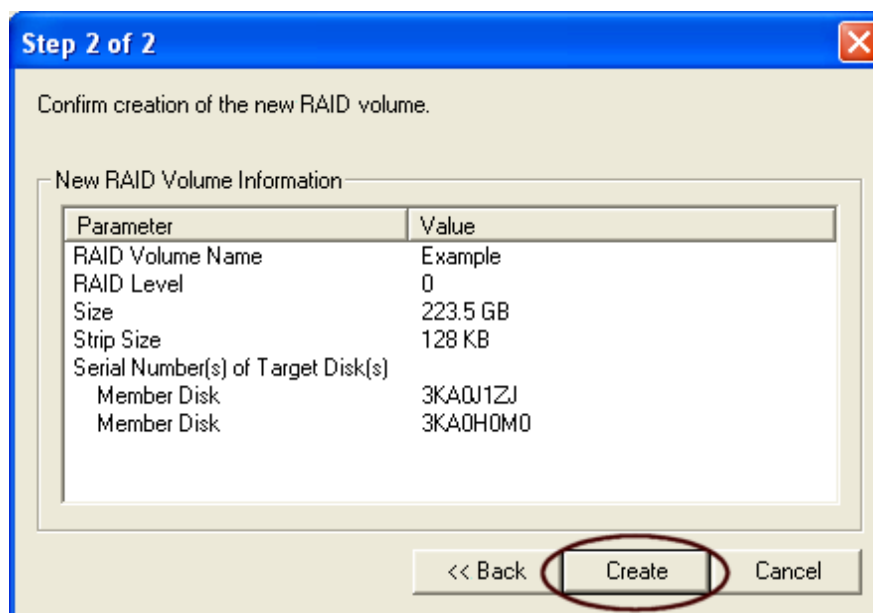
**警告**

次に表示される 2 つのダイアログ・ボックスの内容を注意深く読み、作業を継続するかどうかを判断してください。次の 2 つのダイアログ・ボックスでいったん[Yes]を選択すると、インテル Application Accelerator RAID Edition はディスクが新しい volume の作成に使用されることを宣言します。この作業は撤回できません。これらのダイアログ・ボックスで[Yes]を選択する前に重要なデータをバックアップしておくことが非常に重要です。



## 新しい RAID Volume 作成の確認

新しい RAID volume の作成を確認し、[Create(作成する)]をクリックします：



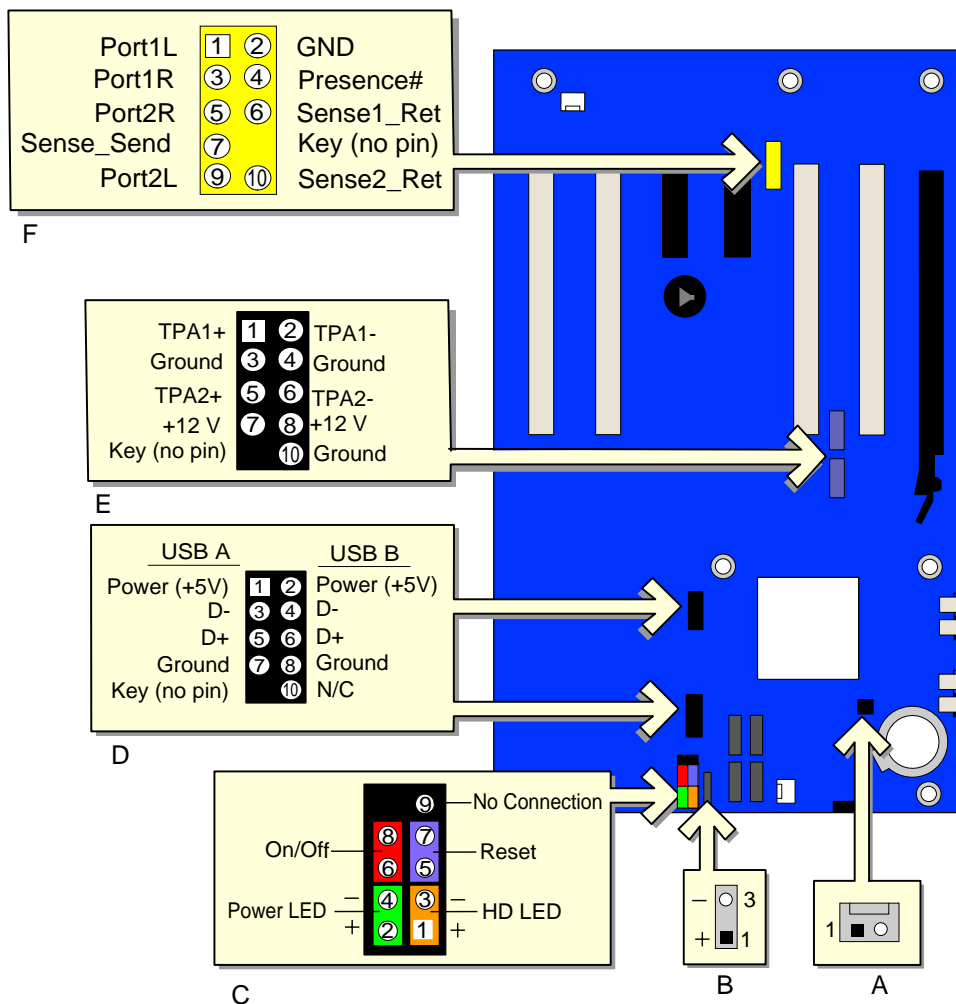
## 作成の完了

手動による作成処理が問題なく終了すると、以下のダイアログ・ウィンドウが表示されます：



## 内部ヘッダの接続

ケーブルを内部ヘッダに接続する前に 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みください。



OM16979

項目	説明
A	Chassis intrusion
B	代替電源 LED
C	フロント・パネル
D	USB 2.0
E	IEEE 1394a
F	フロント・パネル・オーディオ

図 20. 内部ヘッダ



## フロント・パネル・オーディオ・ソリューションの取り付け

56 ページの図 20-F に黄色いフロント・パネル・オーディオ・ヘッダの位置を示します。表 6 にフロント・パネル・オーディオ・ヘッダのピン接続を示します。

表 6. フロント・パネル・オーディオ・ヘッダの信号名 (J9A2)

ピン	信号名	ピン	信号名
1	AUD-MIC	2	AUD-GND
3	AUD-MIC-BIAS	4	AUD-VCC
5	AUD-FPOUT-R	6	AUD-RET-R
7	HP-ON	8	KEY
9	AUD-FPOUT-L	10	AUD-RET-L

フロント・パネル・オーディオ・ソリューションをフロント・パネル・オーディオ・ヘッダに接続するケーブルを取り付けるには、以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. コンピュータに接続されているすべての周辺機器の電源をオフにします。コンピュータの電源を切り、AC 電源コードを取り外します。
3. カバーを取り外します。
4. フロント・パネル・オーディオ・ヘッダの位置を確認します。
5. 適切な端子とシールドの付いたフロント・パネル・オーディオ・ケーブルを取り付けます。
6. オーディオ・ケーブルをフロント・パネル・オーディオ・ソリューションに接続します。
7. カバーを取り付けます。

バック・パネルのオーディオ・コネクタを再び利用可能にするには、以下の手順に従ってください：

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. コンピュータに接続されているすべての周辺機器の電源をオフにします。コンピュータの電源をオフにし、AC 電源コードを取り外します。
3. カバーを取り外します。
4. フロント・パネル・オーディオ・ケーブルを取り外します。
5. カバーを取り付けます。

## IEEE 1394 ヘッダの接続

青色の IEEE 1394 ヘッダを接続する前に 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みください。図 20-E を参照してヘッダの位置を確認します。表 7 に IEEE 1394 ヘッダのピン接続を示します。

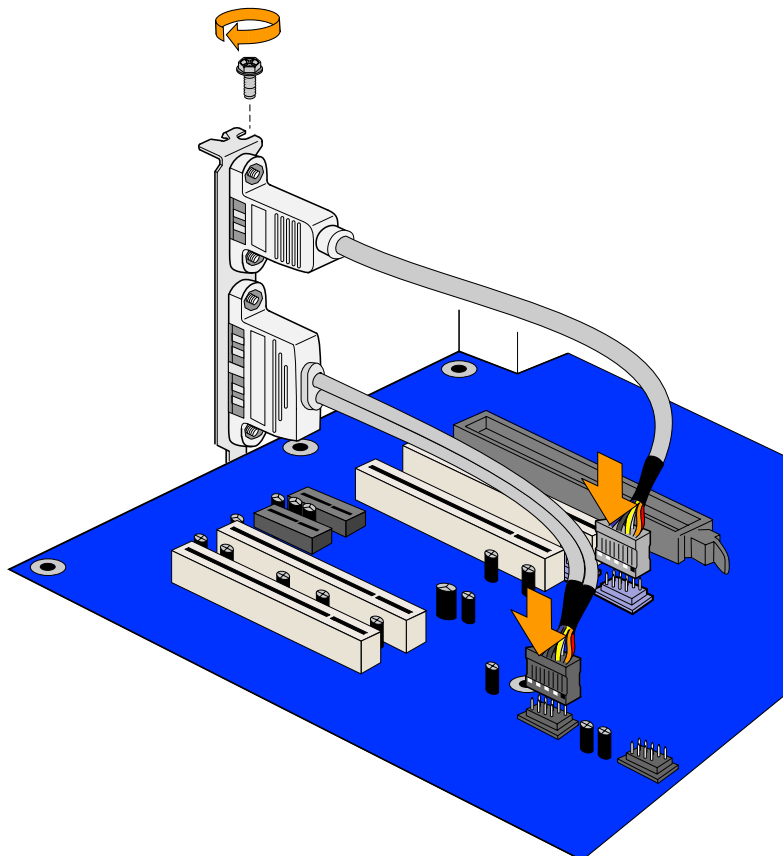
表 7. IEEE 1394 ヘッダの信号名

ピン	信号名	ピン	信号名
1	TPA1+	2	TPA1-
3	Ground	4	Ground
5	TPA2+	6	TPA2-
7	+12 V	8	+12 V
9	Key (no pin)	10	Ground

## リア・パネル USB 2.0 および IEEE 1394 アダプタの取り付け

リア・パネル USB2.0 および IEEE 1394 アダプタを取り付けるには以下の手順に従ってください:

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. ケーブルのコネクタの付いている先端をデスクトップ・ボードのフロント・パネル USB 2.0 ヘッダ(黒色)に接続します。
3. ケーブルのコネクタの付いている先端をデスクトップ・ボードの IEEE 1394 ヘッダ(青色)に接続します。
4. ケーブルの金属製ブラケットをシャーシ・バック・パネルにねじで留め付けます。



OM16962

図 21. リア・パネル USB 2.0 アダプタの接続

表 8. USB 2.0 ヘッダの信号名

USB ポート A		USB ポート B	
ピン	信号名	ピン	信号名
1	Power	2	Power
3	D-	4	D-
5	D+	6	D+
7	Ground	8	Ground
9	Key	10	未使用

ノート: USB ポートは必要に応じて割り当てることができます。

## フロント・パネル・ヘッダの接続

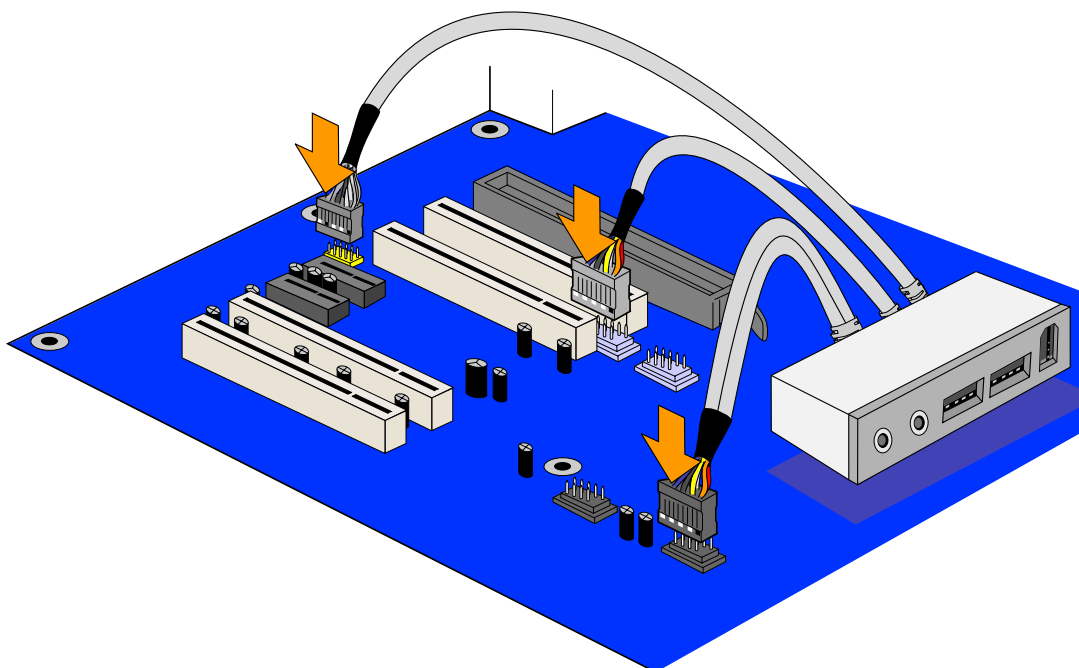
多色のフロント・パネル・ヘッダを接続する前に 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みください。56 ページの図 20-C にフロント・パネル・ヘッダの位置を示します。また表 9 にフロント・パネル・ヘッダのピン接続を示します。

表 9. フロント・パネル・ヘッダの信号名

ピン	信号	入出力	説明	ピン	信号	入出力	説明
ハード・ディスク・ドライブ LED (緑色)				パワー LED (黄色)			
1	HD_PWR	出力	ハード・ディスク LED は 330 Ω で +5 V プルアップ	2	HDR_BLNK_GRN	出力	フロント・パネル LED 緑色
3	HDA#	出力	アクセス・ランプ	4	HDR_BLNK_YEL	出力	フロント・パネル LED 黄色
リセット・スイッチ (紫色)				オン/オフ・スイッチ (赤色)			
5	Ground		Ground	6	SWITCH_ON#	入力	電源スイッチ
7	FP_RESET#	入力	リセット・スイッチ	8	Ground		Ground
9	+5 V	出力	電源	10	N/C		未使用

## フロント・パネル USB、IEEE 1394 およびオーディオ・アダプタの接続

図 22 に USB、IEEE 1394 およびオーディオ・ケーブルのフロント・パネル・コネクタの位置を示します。

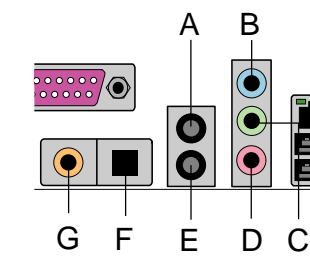


OM16963

図 22. フロント・パネル USB/IEEE1394/オーディオ・ケーブルの接続

## 8 チャンネル・サラウンド・サウンドの設定

インテル Express Installer CD-ROM からオーディオ・ドライバをインストールしたら、マルチチャンネル・オーディオ機能を有効にすることができます。図 23 にバック・パネル・オーディオ・コネクタの位置を示します。



OM16119

項目	説明
A	リア・左右出力(マルチチャンネル・オーディオ)
B	ライン入力
C	ライン出力(2チャンネル)またはフロント・左右出力(マルチチャンネル)
D	マイク入力
E	センター / LFE (Low Frequency Effects) 出力(マルチチャンネル)
F	光デジタル S/PDIF (角型) ライン出力
G	同軸 S/PDIF (RCA) ライン出力

図 23. バック・パネル・オーディオ・コネクタ

### マルチチャンネル・アナログ・オーディオ

6 チャンネルおよび 4 チャンネルのいずれの構成でも 2 台のスピーカーをフロント・左右 (C) に接続し、2 台のスピーカーをリア・左右 (A) に接続します。6 チャンネル・オーディオの場合には、さらに 2 台のスピーカーを LFE 出力 (E) に接続します。

### マルチチャンネル・デジタル・オーディオ

同軸 (G) と光デジタル (F) の 2 種類の S/PDIF コネクタが利用できます。使用する S/PDIF スピーカーのスタイルに合わせて適切なコネクタを選択します。

## ファンおよび電源ケーブルの接続

### ファン・ケーブルの接続

ファン・ヘッドおよび chassis intrusion ヘッドの位置については 図 24 を参照してください。プロセッサのファン・ヒートシンク・ケーブルをボードのプロセッサ・ファン・ヘッドに接続します。シャーシ・ファン・ケーブルをボードのファン・ヘッドに接続します。また chassis intrusion ケーブルをボードの対応するヘッドに接続します。

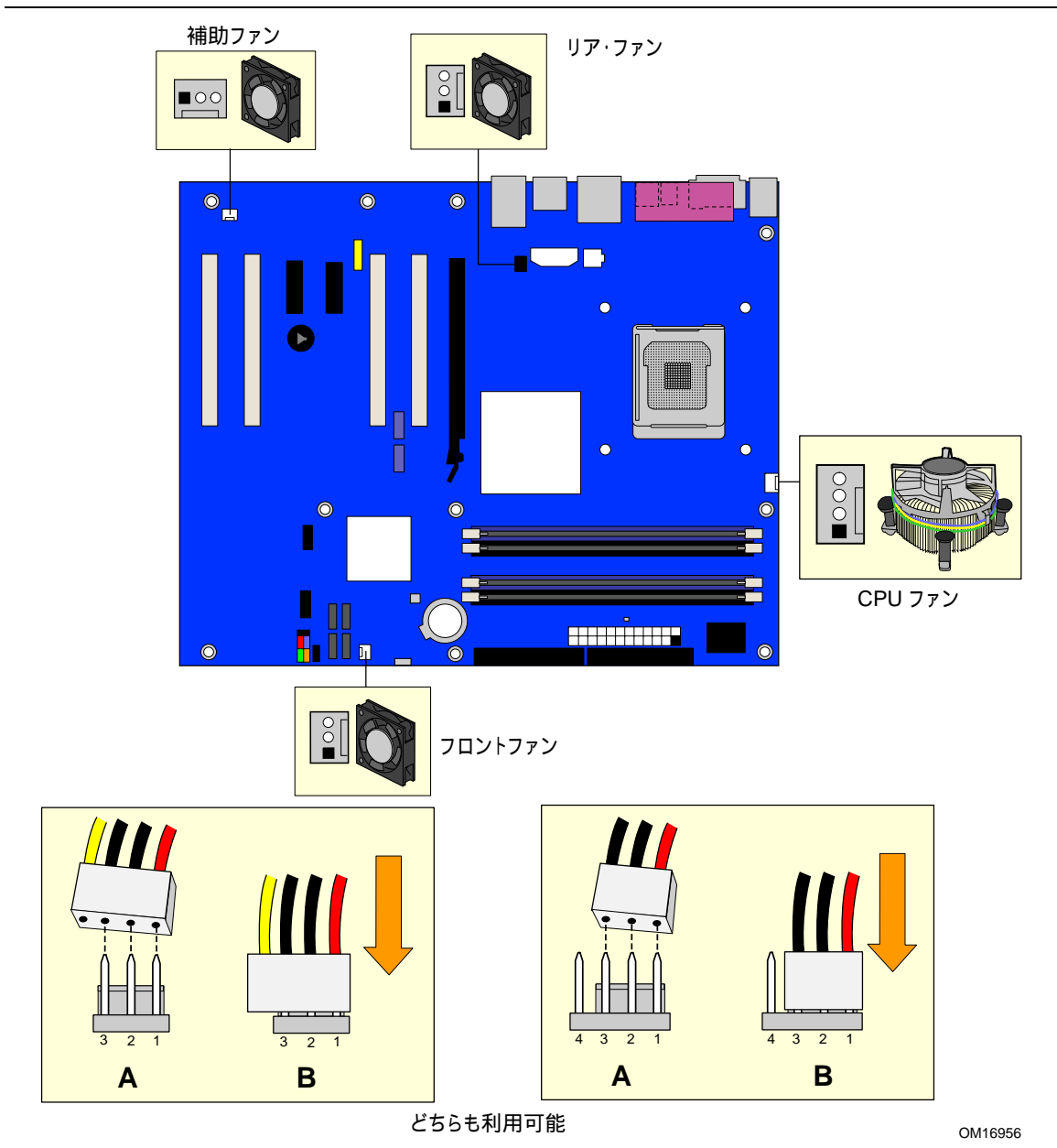


図 24. ハードウェア制御ヘッドの位置

## 電源ケーブルの接続

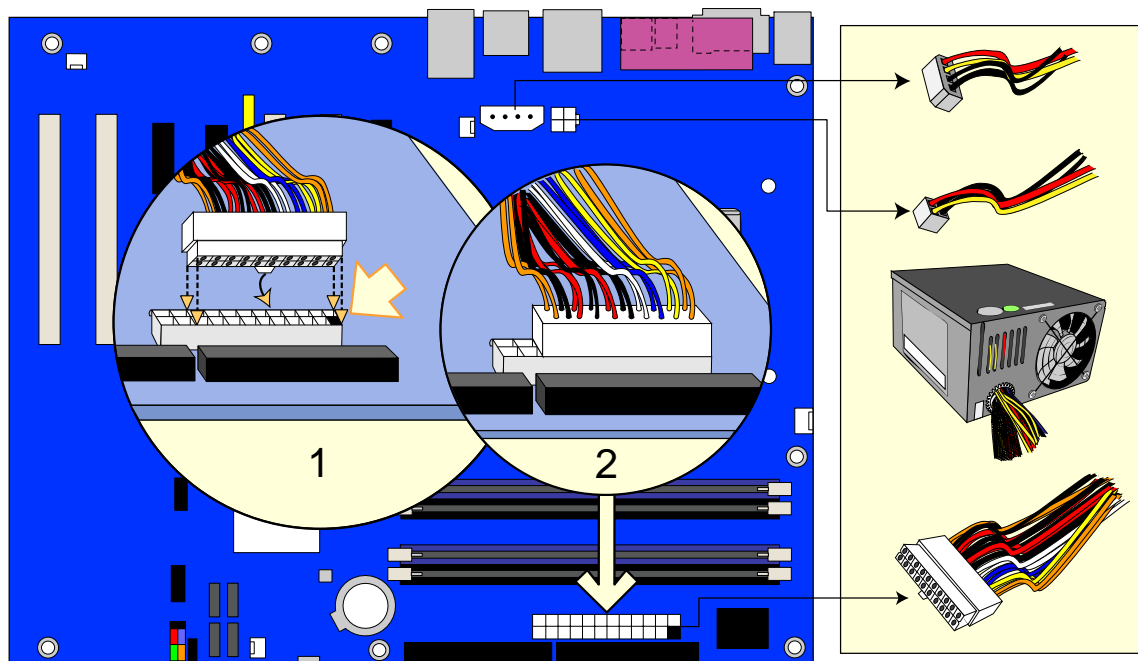


### 警告

ATX12V 電源を使用しなかったり、12V プロセッサ・コア電圧供給コネクタ(2x2)をデスクトップ・ボードに接続しなかったりした場合には、デスクトップ・ボードや電源が損傷を受ける場合があります。

### 2x10 電源ケーブルを接続する場合

図 25 に 2x10 電源の電源コネクタの位置を示します。



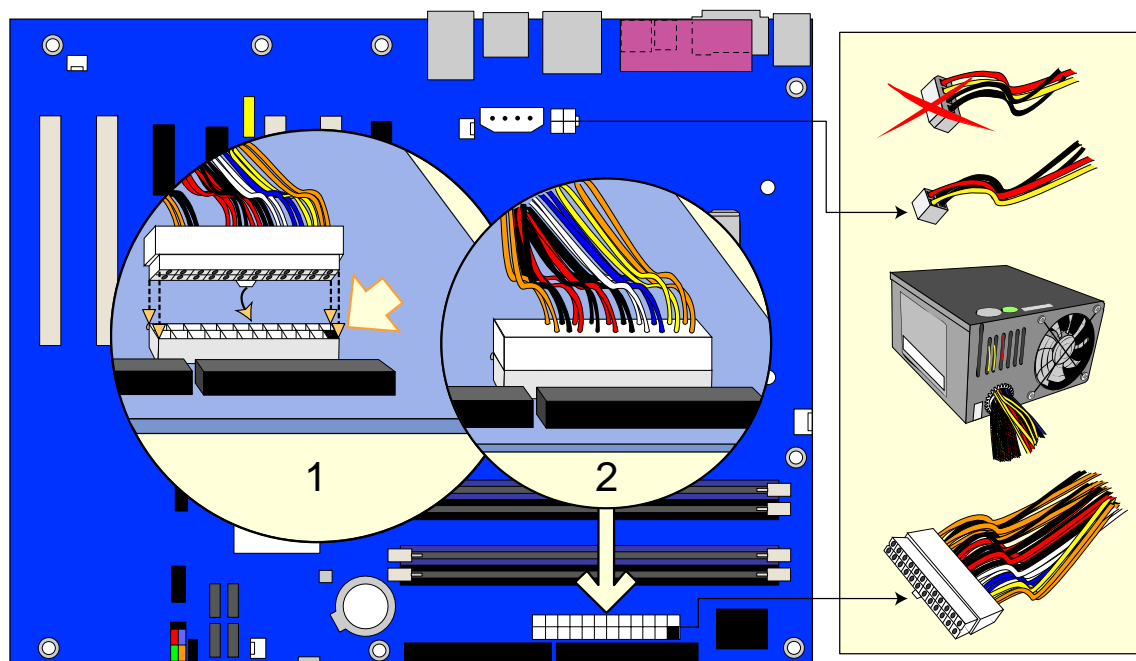
OM16966

図 25. 2x10 電源ケーブルの接続

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. 12V プロセッサ・コア電圧供給ケーブルを 2x2 コネクタに接続します。
3. 主電源ケーブルを 2x10 コネクタに接続します。

## 2x12 電源ケーブルを接続する場合

2x12 電源をお持ちの場合には、以下の手順に従ってください。図 25 に 2x12 電源の電源コネクタの位置を示します。



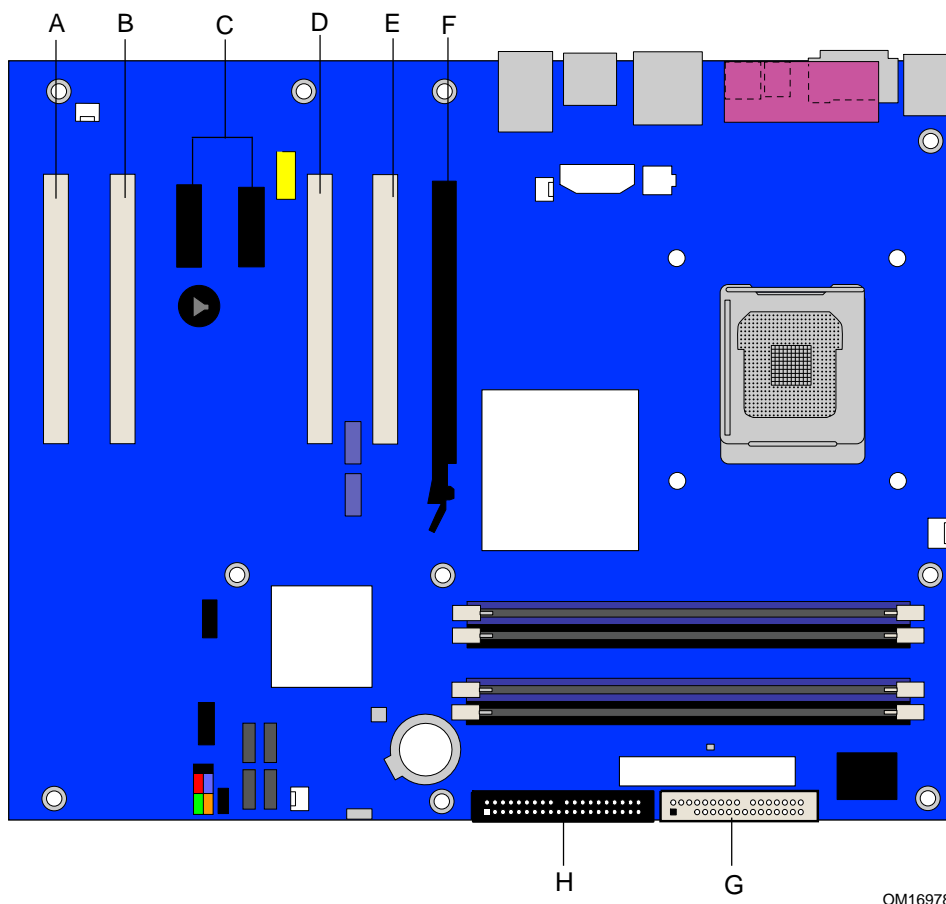
OM16965

図 26. 2x12 電源ケーブルの接続

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. 12V プロセッサ・コア電圧供給ケーブルを 2x2 コネクタに接続します。
3. 主電源ケーブルを 2x12 コネクタに接続します。

## 拡張カードおよび周辺機器インタフェース・コネクタ

図 28 にデスクトップ・ボード D915PBL の PCI バス拡張カード・コネクタ、PCI Express x16 および x1 コネクタ  
ならびに周辺機器インタフェース・コネクタを示します。



OM16978

項目	説明
A	PCI バス拡張カード・コネクタ 4
B	PCI バス拡張カード・コネクタ 3
C	PCI Express x1 コネクタ
D	PCI バス拡張カード・コネクタ 2 (SMBus 接続)
E	PCI バス拡張カード・コネクタ 1
F	PCI Express x16 コネクタ
G	ディスク・ドライブ・コネクタ
H	ハード・ドライブ・コネクタ

図 27. PCI バス拡張カード・コネクタおよび周辺機器インタフェース・コネクタの位置



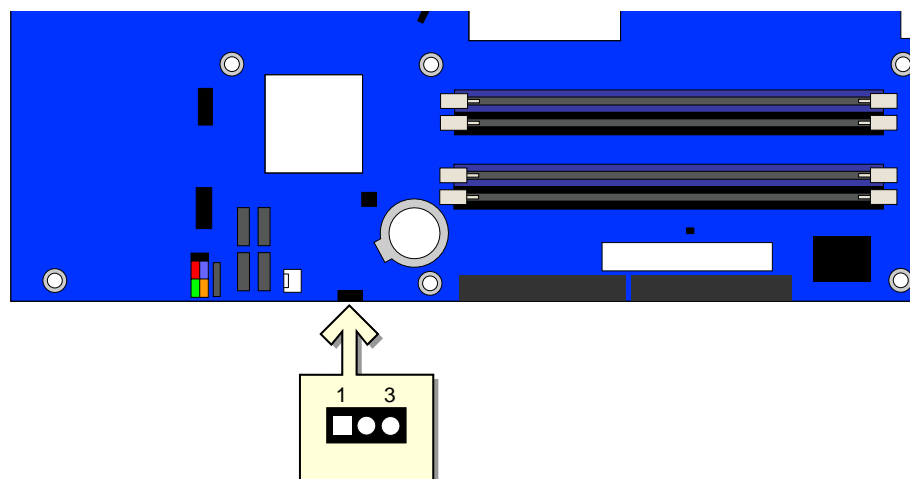
## BIOS コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックの設定



### 警告

ジャンパの設定を変更する前に、必ず電源をオフにしてコンピュータから電源コードを抜いてください。電源を入れたままジャンパを変更すると、コンピュータの動作に支障をきたす原因になります。

図 28 にデスクトップ・ボードの BIOS コンフィギュレーション・ジャンパの位置を示します。



OM16987

図 28. BIOS コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックの位置

3 ピン BIOS ジャンパ・ブロックによって、BIOS セットアップで実行したすべてのボードの設定が有効になります。表 10 にセットアップ・プログラム・モードごとのジャンパ設定を示します。

表 10. BIOS セットアップ・プログラム・モードごとのジャンパ設定

ジャンパ設定	モード	説明
	Normal(工場出荷時) (1-2)	BIOS は現在の設定および起動時のパスワードを使用します。
	Configure(2-3)	POST(自己診断テスト)の実行後、BIOS は Maintenance Menu を表示します。パスワード クリアはこのモードを使用します。
	Recovery(なし)	BIOS アップデート失敗時に、BIOS データをリカバリー フロッピーディスクから復元させるモードです。

## パスワードのクリア

以下の手順はボードがコンピュータに取り付けられ、コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックが Normal モードに設定されていることを前提としています。

1. 29 ページの「はじめに」に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. コンピュータに接続されているすべての周辺機器の電源をオフにします。コンピュータの電源をオフにしてコンピュータの AC 電源コードを (壁のコンセントまたは電源アダプタから) 抜きます。
3. コンピュータのカバーを取り外します。
4. コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックの位置を確認します (図 28 参照)。
5. 下図のようにピン 2、3 にジャンパを取り付けます。



6. カバーを取り付けます。コンピュータの電源コードを取り付け、電源を入れて起動します。
7. コンピュータはセットアップ・プログラムを起動します。セットアップは Maintenance menu を表示します。
8. 矢印キーを使用して Clear Passwords を選択します。<Enter>キーを押すと、セットアップは、パスワード・クリアの確認を求めるポップアップ・スクリーンを表示します。[Yes]を選択し、<Enter>キーを押します。セットアップは再度 Maintenance menu を表示します。
9. <F10>キーを押して現在の値を保存し、セットアップを終了します。
10. コンピュータの電源をオフにします。コンピュータの電源コードを AC 電源から取り外します。
11. コンピュータのカバーを取り外します。
12. Normal モードに復帰するために、下図のようにジャンパをピン 1、2 に取り付けます。



13. カバーを取り付けます。コンピュータに電源コードを取り付け、電源を入れます。

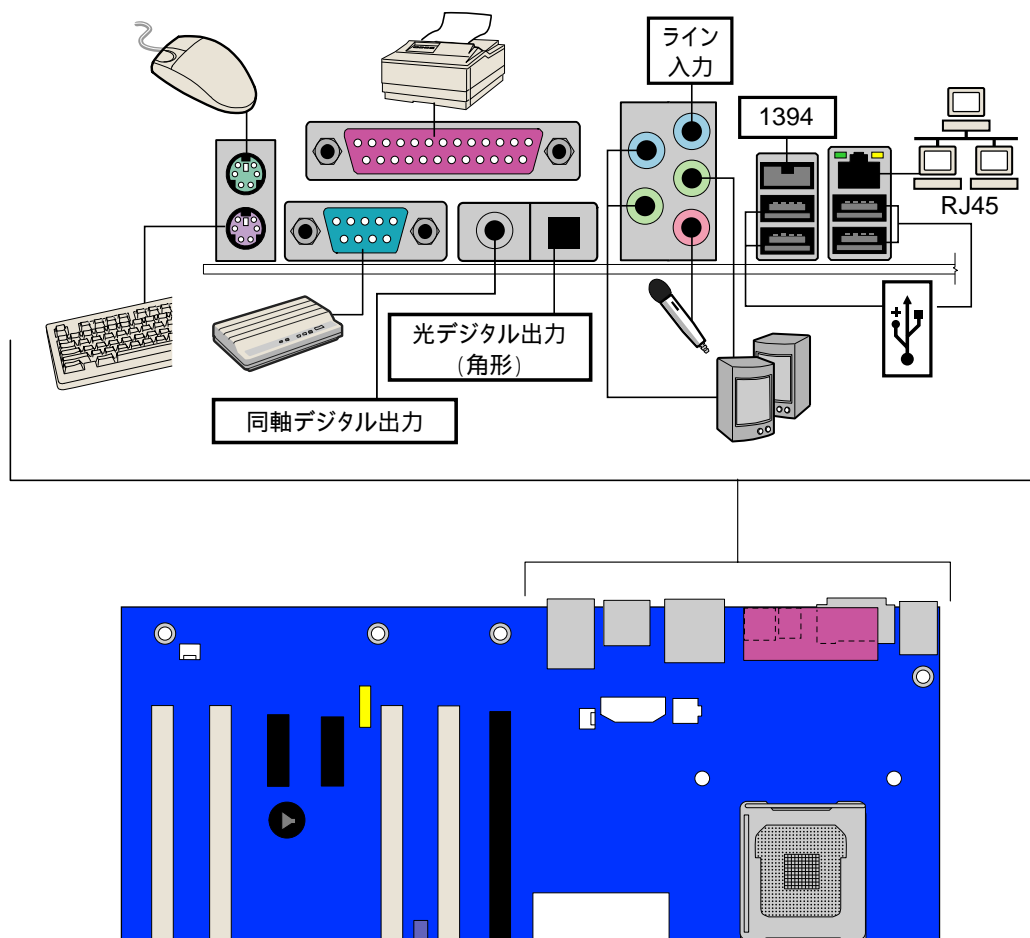
## バック・パネル・コネクタ



### ノート

バック・パネルにあるライン出力コネクタには、ヘッドホンまたはアンプ付きスピーカー以外は使用できません。パッシブ(アンプなしの)スピーカーをこの出力コネクタに接続すると音質劣化の原因になります。

図 29 にバック・パネル・コネクタの位置を示します。



OM16976

図 29. バック・パネル・コネクタ

## 電池の交換

コイン型電池 (CR2032) がリアルタイム・クロックと CMOS メモリに電源を供給します。コンピュータがコンセントに接続されていない場合の電池の推定寿命は 3 年間です。コンピュータが電源に接続されている場合には、電源からのスタンバイ電流によって電池の寿命が延びます。クロックの精度は 25 、3.3VSB 供給時で年差 ±13 分です。

ある一定レベル以下に電圧が低下すると、CMOS RAM に格納されている BIOS セットアップ・プログラムの設定内容 (日付と時刻など) に誤差が生じることがあります。その場合には同じ種類の電池と交換してください。68 ページの図 30 に電池の位置を示します。

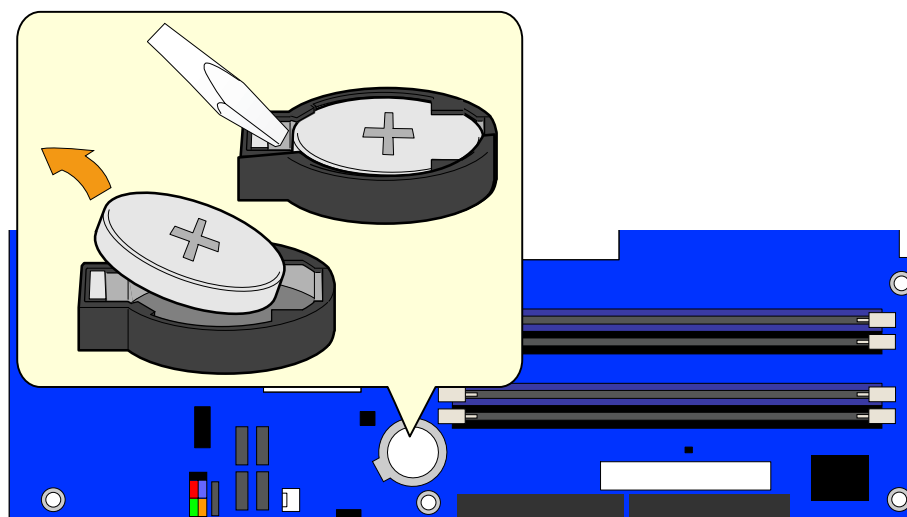


### 警告

異なる種類の電池を使用すると爆発の危険があります。リサイクルが可能な地域であれば、電池をリサイクルしてください。使用後の電池を破棄する際には、地域の環境規制に従ってください。

電池を交換するには以下の手順に従ってください：

1. 「はじめに」(29 ページ参照)に記載されている注意事項をよくお読みの上、作業を開始してください。
2. コンピュータに接続されているすべての周辺機器の電源をオフにします。コンピュータの電源コードを AC 電源 (壁のコンセントや電源アダプタ) から取り外します。
3. コンピュータのカバーを取り外します。
4. ボード上の電池の位置を確認します (図 30 参照)。
5. 中くらいの大きさのマイナス・ドライバを梃子のように使って静かに電池をコネクタから取り外します。電池の + 極と - 極の向きに注意してください。
6. 新しい電池を (+ 極と - 極を正しい向きにして) コネクタに取り付けます。
7. コンピュータのカバーを取り付けます。



OM16988

図 30. 電池の取り外し

## 3 BIOS のアップデート

この章ではインテル・エクスプレス BIOS アップデート・ユーティリティまたは Iflash メモリ・アップデート・ユーティリティのいずれかを用いて BIOS をアップデートする手順、およびアップデートに失敗した場合に BIOS を回復する手順について説明します。

### インテル® エクスプレス BIOS アップデート・ユーティリティを用いた BIOS のアップデート

インテル・エクスプレス BIOS アップデート・ユーティリティを使用すると、Windows 環境で BIOS をアップデートできます。BIOS ファイルは、自動アップデート・ユーティリティに含まれています。この自動アップデート・ユーティリティはインテル® フラッシュ・メモリ・アップデート・ユーティリティに使い方が簡単な Windows ベースのインストール・ウィザードを組み合わせたものです。

インテル・エクスプレス BIOS アップデート・ユーティリティを使用した BIOS のアップデート手順:

1. 次のインテル Web サイトを開きます:  
<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)  
<http://support.intel.co.jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)
2. D915PBL のページを開き、“[view] Latest BIOS updates”をクリックし、Express BIOS Update utility ファイルを選択します。
3. ファイルをハード・ドライブにダウンロードします (ファイルをフロッピー・ディスクに保存することもできます。そうすると複数の同一システムで BIOS をアップデートするのに便利です)。
4. その他すべてのアプリケーションを終了します。この手順は必須です。エクスプレス BIOS アップデートの最後のウィンドウでシステムが再起動します。
5. ダウンロードしたファイルを格納した場所にある実行ファイルをダブル・クリックします。するとアップデート・プログラムが起動します。
6. ダイアログ・ボックスの指示に従って、BIOS アップデートを完了させます。

### Iflash メモリ・アップデート・ユーティリティを使用した BIOS のアップデート

Iflash BIOS アップデート・ユーティリティを使用すると、フロッピー・ディスクやその他のブータブル・メディアからシステム BIOS をアップデートできます。このユーティリティは Web サイトから入手可能であり、BIOS を自動的にアップデートする起動可能なフラッシュ・メモリ・アップデート・フロッピー・ディスクを簡単に作成することができます。

#### BIOS アップデート・ファイルの入手

BIOS アップデート・ファイルを使って BIOS を新しいバージョンにアップデートすることができます。BIOS アップデート・ファイルは、自己解凍型圧縮ファイルであり、BIOS のアップデートに必要なすべてのファイルが含まれています。BIOS アップデート・ファイルの内容:

- 新しい BIOS ファイル
- BIOS リカバリ・ファイル
- インテル・フラッシュ・メモリ・アップデート・ユーティリティ

BIOS アップデート・ファイルはコンピュータの販売会社または次のインテル Web サイトのデスクトップ・ボード D915PBL のページから入手できます：

<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)

<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)

D915PBL のページを開き、“[view] Latest BIOS updates”をクリックし、Iflash BIOS Update utility ファイルを選択します。



### ノート

BIOS のアップデートを実行する前にアップデート・ユーティリティに付属する説明書をお読みください。

Iflash メモリ・アップデート・ユーティリティを使用すると次のことができます：

- フラッシュ・メモリ内の BIOS のアップデート
- BIOS の言語セクションのアップデート

## BIOS のアップデート



### 警告

アップデート・ファイルに付属する AUTOEXEC.BAT ファイルが BIOS のアップデートを実行します。アップデート作業を途中で中断しないでください。システムが起動しなくなることがあります。

1. A ドライブに BIOS アップデート・フロッピー・ディスクを挿入してコンピュータを起動します。システムの起動中にアップデート・ファイルに付属する AUTOEXEC.BAT ファイルが自動的に BIOS アップデート・プロセスを実行します。
2. アップデート・プロセスが完了すると、モニターにフロッピー・ディスクを抜いてシステムを再起動するように促すメッセージが表示されます。
3. コンピュータの起動時に、BIOS identifier (バージョン番号)を確認し、BIOS がアップデートされていることを確認します。ログが表示されたら、<Esc>を押せば POST メッセージを確認できます。

## BIOS のリカバリー

何らかの原因で BIOS のアップデートが中断することはほとんどありませんが、中断してしまった場合は、BIOS が使用不可の状態である可能性があります。以下にアップデートに失敗した場合の BIOS 回復の手順を示します。以下の手順ではセットアップ・プログラムのリカバリー・モードを使用します。セットアップ・プログラムの各モードについては 65 ページを参照してください。



### ノート

ブート・ブロック領域で使用できるコードの量に限りがあるため、ビデオはサポートされません。したがって処理中は画面に何も表示されません。処理の進行状況は、スピーカーからの音とディスクドライブ LED によって確認してください。

1. コンピュータの電源を切り、電源コードを抜き、すべての外部周辺機器を取り外します。
2. コンピュータのカバーを取り外し、コンフィギュレーション・ジャンパ・ブロックの場所を確認します (図 28 参照)。
3. 下図のようにピンからジャンパを取り外し、BIOS リカバリー・モードに設定します。



4. BIOS リカバリ用フロッピー・ディスク(フォーマット済みフロッピーに.BIO ファイルをコピーした物)を A ドライブ(フロッピー・ディスク・ドライブ)に挿入します。
5. 電源コードを接続し、コンピュータを起動します。リカバリ作業には1~2分間かかります。
6. スピーカーからの音に注意してください:
  - 電源を入れると A ドライブが動作を始めます。しばらくするとボード上の小さなスピーカからピーブ音(ブ・ブ・ブ...)が鳴りはじめ、BIOS コアのリカバリーを開始します。しばらくするとピーブ音が止まり、自動的に電源が切れます。これは BIOS のリカバリーが成功したことを示します。
  - 2~3分たっても電源が切れない場合は、BIOS のリカバリーに失敗したことを示します。
7. リカバリーに失敗したら、電源を切り、ステップ 1 に戻ってリカバリーの手順を繰り返します。
8. リカバリーが成功したら、電源コードを抜きます。
9. 最後に以下の作業を実行します。
10. 下図のようにジャンパ・ブロックのピン 1、2 に再びジャンパを取り付け、セットアップをノーマル・モードに設定します。(もしくは、2-3 の config モードを用いてもよい)



11. コンピュータのカバーを取り付け、電源コードを接続します。
12. コンピュータの電源を入れ、正常なビデオ出力を確認します。

もし、再起動時に画面になにも表示されない場合、CMOS データが破損による事がありますのでコイン型電池をとりはずし、AC コードも抜いた状態でしばらく放置し、再度電源投入してみてください





## 4 BIOS セットアップ・プログラムの使用方法

BIOS セットアップ・プログラムを使用すると、コンピュータの BIOS 設定を参照、変更することができます。BIOS セットアップ・プログラムは、POST(自己診断テスト)のメモリ・テスト開始後、オペレーティング・システムの起動前に<F2>キーを押すことにより起動します。



### ノート

このセクションで説明している BIOS セットアップ・メニューでは、最新の設定項目が反映されていない可能性があります。最新の BIOS 設定項目については、インテル® デスクトップ・ボード D915PBL テクニカル・プロダクト・スペシフィケーション(技術仕様書)または次のインテル Web サイトを参照してください:

<http://support.intel.com/support/motherboards/desktop/> (英語)

<http://support.intel.co.jp/jp/support/motherboards/desktop/> (日本語)



### ノート

後で参照するために、現在の設定値を書きとめておいてください。設定を変更したときには、この記録もそれに合わせて更新してください。



### ノート

このセクションで説明しているセットアップ・メニューは **BL91510A.86A** という BIOS identifier を持つデスクトップ・ボードに適用されます。その他の BIOS identifier を持つボードでは、セットアップ・メニューの画面の一部が異なる場合があります。

表 11 に BIOS セットアップ・プログラムのメニューバーを示します。

表 11. BIOS セットアップ・プログラム・メニュー・バー

Maintenance	Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
パスワードおよび Boot Integrity Service (BIS)* 証明書のクリアならびに拡張コンフィギュレーション・メモリ・セッティングの設定	ハードウェア・コンポーネントへのリソースの割り当て	チップセットで利用できる高度な機能の設定	パスワードとセキュリティ機能の設定	電源管理機能の設定	起動オプションおよび電源制御の選択	プログラム・オプションの変更の保存または破棄

表 12 にメニュー画面で使用できるファンクション・キーを示します。

表 12. BIOS セットアップ・プログラム・ファンクション・キー

BIOS セットアップ・プログラム・ファンクション・キー	説明
<<-> または <->>	メニュー画面の切り替え
<↑> または <↓>	カーソルの上下
<Tab>	カーソルを次のフィールドに移動
<Enter>	コマンドの実行またはサブメニューの選択
<F9>	現在のメニューの初期設定値をロード
<F10>	現在の設定値を保存して BIOS セットアップ・プログラムを終了
<Esc>	メニューの終了

## Maintenance メニュー

Maintenance	Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Clear All Passwords						
Default Frequency Ratio [Enabled]						
CPU Stepping Signature [F34]						
CPU Microcode Update Rev. [MU1F340C]						
Ratio Actual Value 21						
					← →	Select Screen
					↑ ↓	Select Item
					Enter	Select → Sub-Menu
					F1	General Help
					P9	Setup Defaults
					F10	Save and Exit
					ESC	Exit

表 13 に示すメニューはセットアップ・パスワードをクリアするために使用します。セットアップは Configure モードの場合にのみこのメニューを表示します。Configure モードの設定に関する情報については 65 ページを参照してください。

表 13. Maintenance メニュー

項目	オプション	説明
Clear All Passwords	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ok</li> <li>キャンセル</li> </ul>	ユーザ・パスワードとスーパーバイザ・パスワードの両方をクリア。
Default Frequency Ratio	<ul style="list-style-type: none"> <li>Enabled (工場出荷時)</li> <li>Disabled</li> </ul>	ユーザによるクロック倍率の設定 Enable: 通常使用 Disable: ユーザ設定
CPU Frequency Multiplier	nn	倍率値 : FSB800MHz の場合、200MHz に対する倍率
CPU Stepping Signature	オプションなし	プロセッサのステッピング・シグネチャを表示。
CPU Microcode Update Revision	オプションなし	プロセッサのマイクロコード・アップデート・リビジョンを表示。
Ratio Actual Value	オプションなし	現在の倍率値

この印がついている項目に関しては表示されない場合があります

## Main メニュー

Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
BIOS Version		xxxxx10A.86A.xxxx			
Processor Type		Intel(R) Pentium(R) 4			
Hyper-Threading Technology		[Enabled]			
Processor Speed		X.XX GHz			
System Bus Speed		XXX MHz			
System Memory Speed		XXX MHz			
L2 Cache RAM		XXX KB			
Total Memory		XXX MB			
Memory Mode		Dual Channel			
Memory Channel A Slot 0		XXX MB (DDRYYY)			
Memory Channel A Slot 1		Not Installed		← →	Select Screen
Memory Channel B Slot 0		XXX MB (DDRYYY)		↑ ↓	Select Item
Memory Channel B Slot 1		Not Installed		Enter	Select ► Sub-Menu
Memory Configuration		[Non-ECC]		F1	General Help
Language		[English]		P9	Setup Defaults
System Time		[HH.MM.SS]		F10	Save and Exit
System Date		[DD.MM.YY]		ESC	Exit

表 14 に Main メニューの各項目を説明します。このメニューはプロセッサおよびメモリに関する情報を表示し、システムの日付と時刻を設定するために使用します。

表 14. Main メニュー

項目	オプション	説明
BIOS Version	オプションなし	BIOS のバージョンを表示。
Processor Type	オプションなし	プロセッサの種類を表示。
Hyper-Threading Technology	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enabled(工場出荷時)</b></li> <li>• Disabled</li> </ul>	ハイパー・スレッディング・テクノロジーを有効または無効にする。
Processor Speed	オプションなし	プロセッサの速度を表示。
System Bus Speed	オプションなし	システム・バスの速度を表示。
System Memory Speed	オプションなし	システム・メモリの速度を表示。
L2 Cache RAM	オプションなし	L2 キャッシュのサイズ、および ECC 対応かどうかを表示。
Total Memory	オプションなし	RAM の合計容量を表示。
Memory Mode	オプションなし	シングルまたはデュアル・チャンネル動作の表示。
Language	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>English(工場出荷時)</b></li> <li>• Français</li> </ul>	BIOS が使用する言語を選択。
System Time	時、分、秒	現在の時刻を指定。
System Date	月、日、年	現在の日付を指定。

## Advanced メニュー

Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Setup Warning: Setting items on this screen to incorrect values may cause your system to malfunction!					
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ PCI Configuration</li> <li>▶ Boot Configuration</li> <li>▶ Peripheral Configuration</li> <li>▶ Drive Configuration</li> <li>▶ Floppy Configuration</li> <li>▶ Event Log Configuration</li> <li>▶ Video Configuration</li> <li>▶ USB Configuration</li> <li>▶ PCI Express Configuration</li> <li>▶ Chipset Configuration</li> <li>▶ Fan Control Configuration</li> <li>▶ Hardware Monitoring</li> </ul>					
← →      Select Screen ↑ ↓      Select Item Enter     Select ▶ Sub-Menu					
F1        General Help P9        Setup Defaults F10       Save and Exit ESC       Exit					

表 15 に Advanced メニューの各項目を説明します。このメニューはチップセットから利用できる高度な機能を設定するために使用します。

表 15. Advanced メニュー

項目	オプション	説明
PCI Configuration	オプションなし	個々の PCI スロットの IRQ プライオリティを設定。選択時に PCI Configuration サブメニューを表示。
Boot Configuration	オプションなし	Plug & Play および Numlock キーを設定し、設定データをリセット。選択時に Boot Configuration サブメニューを表示。
Peripheral Configuration	オプションなし	周辺機器ポートおよびデバイスを設定。選択時に Peripheral Configuration サブメニューを表示。
Drive Configuration	オプションなし	接続されている IDE デバイスのタイプを指定。
Floppy Configuration	オプションなし	フロッピー・ディスク・ドライブを設定。選択時に Diskette Configuration サブメニューを表示。
Event Log Configuration	オプションなし	イベント・ロギングを設定。選択時に Event Log Configuration サブメニューを表示。
Video Configuration	オプションなし	ビデオ機能を設定。選択時に Video Configuration サブメニューを表示。
USB Configuration	オプションなし	USB 機能を設定。選択時に USB Configuration サブメニューを表示。
PCI Express Configuration	オプションなし	選択時に PCI Express Configuration サブメニューを表示。
Chipset Configuration	オプションなし	チップセット機能を設定。選択時に Chipset Configuration サブメニューを表示。
Fan Control Configuration	オプションなし	ファン制御機能を設定。選択時に Fan Control Configuration サブメニューを表示。
Hardware Monitoring	オプションなし	ハードウェア・モニタリングを設定。選択時に Hardware Monitoring サブメニューを表示。

## PCI Configuration サブメニュー

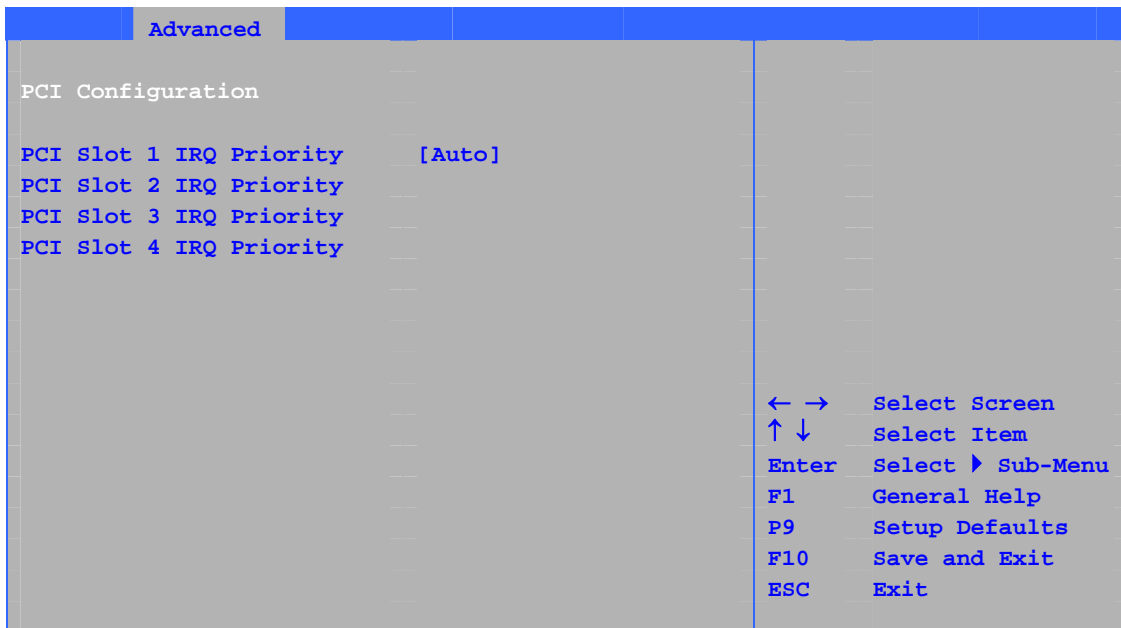


表 16 に示すサブメニューは、PCIスロットの IRQ プライオリティを個別に設定するために使用します。

表 16. PCI Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
PCI Slot 1 IRQ Priority PCI Slot 2 IRQ Priority PCI Slot 3 IRQ Priority PCI Slot 4 IRQ Priority	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Auto (工場出荷時)</b></li> <li>• 3</li> <li>• 5</li> <li>• 9</li> <li>• 10</li> <li>• 11</li> </ul>	IRQ プライオリティの選択を許可。

## Boot Configuration サブメニュー

Advanced	
Boot Configuration	
Plug & Play O/S	[No]
Numlock	[On]
Max CPUID Value Limit	[Disabled]
	← → Select Screen ↑ ↓ Select Item Enter Select ▶ Sub-Menu F1 General Help P9 Setup Defaults F10 Save and Exit ESC Exit

表 17 に示すサブメニューは、Plug & Play オプションおよび Numlock キーの電源投入時の状態を設定するために使用します。

表 17. Boot Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
Plug & Play O/S	<ul style="list-style-type: none"> <li>• No (工場出荷時)</li> <li>• Yes</li> </ul>	手動設定が望ましいかどうかを指定。 No は BIOS がシステムのすべてのデバイスを設定。この設定は、Plug & Play 対応オペレーティング・システムを使用しているときに適します。 Yes はシステムが Plug & Play 対応オペレーティング・システムを搭載している場合は起動時に必要ではない Plug & Play (PnP) デバイスの設定をオペレーティング・システムに行かせます。このオプションは実験室でのテスト中の使用時に利用可能です。
Numlock	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Off</li> <li>• On (工場出荷時)</li> </ul>	キーボード・テンキーの Numlock 機能の電源投入時の状態を指定。
Max CPUID Value Limit	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Disabled (工場出荷時)</li> <li>• Enabled</li> </ul>	レガシー・オペレーティング・システムから拡張 CPUID 機能を搭載したプロセッサを起動可能にする。

## Peripheral Configuration サブメニュー

Advanced	
Peripheral Configuration	
Serial Port A	[Auto]
Parallel Port	[Auto]
Mode	[Bi-directional]
Onboard Audio	[Enabled]
Legacy FP Audio	[Enabled]
Onboard LAN	[Enabled]
1394	[Enabled]
ASF support	[Enabled]
	← → Select Screen
	↑ ↓ Select Item
	Enter Select ► Sub-Menu
	F1 General Help
	P9 Setup Defaults
	F10 Save and Exit
	ESC Exit

表 18 に示すサブメニューはコンピュータの周辺機器を設定するために使用します。

表 18. Peripheral Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
Serial Port A	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Enabled</li> <li><b>Auto(工場出荷時)</b></li> </ul>	シリアル・ポート A の設定。 <i>Auto</i> では、最初の空いている COM ポート(通常は COM1) にアドレス 3F8h、割り込み IRQ4 を割り当てます。アドレスの隣に*(アスタリスク)が表示されている場合は、別のデバイスと競合していることを示します。
Base I/O Address (この項目はシリアル・ポート A が <i>Enabled</i> に設定されている場合にのみ表示される)	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>3F8(工場出荷時)</b></li> <li>2F8</li> <li>3E8</li> <li>2E8</li> </ul>	シリアル・ポート A が有効になっている場合に、シリアル・ポート A のベース I/O アドレスを指定。
Interrupt (この項目はシリアル・ポート A が <i>Enabled</i> に設定されている場合にのみ表示される)	<ul style="list-style-type: none"> <li>IRQ 3</li> <li><b>IRQ 4(工場出荷時)</b></li> </ul>	シリアル・ポート A が有効になっている場合に、シリアル・ポート A の割り込みを指定。
Parallel Port	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Enabled</li> <li><b>Auto(工場出荷時)</b></li> </ul>	パラレル・ポートの設定。 <i>Auto</i> は LPT1 にアドレス 378h および割り込み IRQ7 を割り当てます。 アドレスの隣に *(アスタリスク)が表示されている場合は別のデバイスと競合していることを示します。

つづく

表 18. Peripheral Configuration サブメニュー (つづき)

項目	オプション	説明
Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Output only</li> <li>• <b>Bi-directional (工場出荷時)</b></li> <li>• EPP</li> <li>• ECP</li> </ul>	<p>パラレル・ポートのモードを選択。パラレル・ポートが disabled になっている場合には設定できません。</p> <p><i>Output Only</i> は AT* 互換モードで動作。</p> <p><i>Bi-directional</i> は PS/2 互換モードで動作。</p> <p><i>EPP</i> は拡張パラレル・ポート・モード (高速双方向モード)。</p> <p><i>ECP</i> は拡張機能ポート・モード (高速双方向モード)。</p>
Base I/O Address (この項目はパラレル・ポートが <i>Enabled</i> に設定されている場合にのみ表示される)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>378 (工場出荷時)</b></li> <li>• 278</li> </ul>	<p>パラレル・ポートが有効になっている場合にパラレル・ポートのベース I/O アドレスを指定。</p>
Interrupt (この項目はパラレル・ポートが <i>Enabled</i> に設定されている場合にのみ表示される)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IRQ 5</li> <li>• <b>IRQ 7 (工場出荷時)</b></li> </ul>	<p>パラレル・ポートが有効になっている場合にパラレル・ポートの割り込みを指定。</p>
Onboard Audio	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enabled (工場出荷時)</b></li> <li>• Disabled</li> </ul>	<p>オンボード・オーディオを有効または無効。</p>
Legacy FP Audio	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enabled (工場出荷時)</b></li> <li>• Disabled</li> </ul>	<p>フロントオーディオを有効または無効にする。</p>
Onboard LAN	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Disabled</li> <li>• <b>Enabled (工場出荷時)</b></li> </ul>	<p>オンボード LAN を有効または無効。</p>
1394	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enabled (工場出荷時)</b></li> <li>• Disabled</li> </ul>	<p>オンボード 1394 を有効または無効にする。</p>
ASF Support	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enabled (工場出荷時)</b></li> <li>• Disabled</li> </ul>	<p>Alert Standard Format (ASF: ネットワーク管理機能) を有効または無効にする</p>



## Drive Configuration サブメニュー

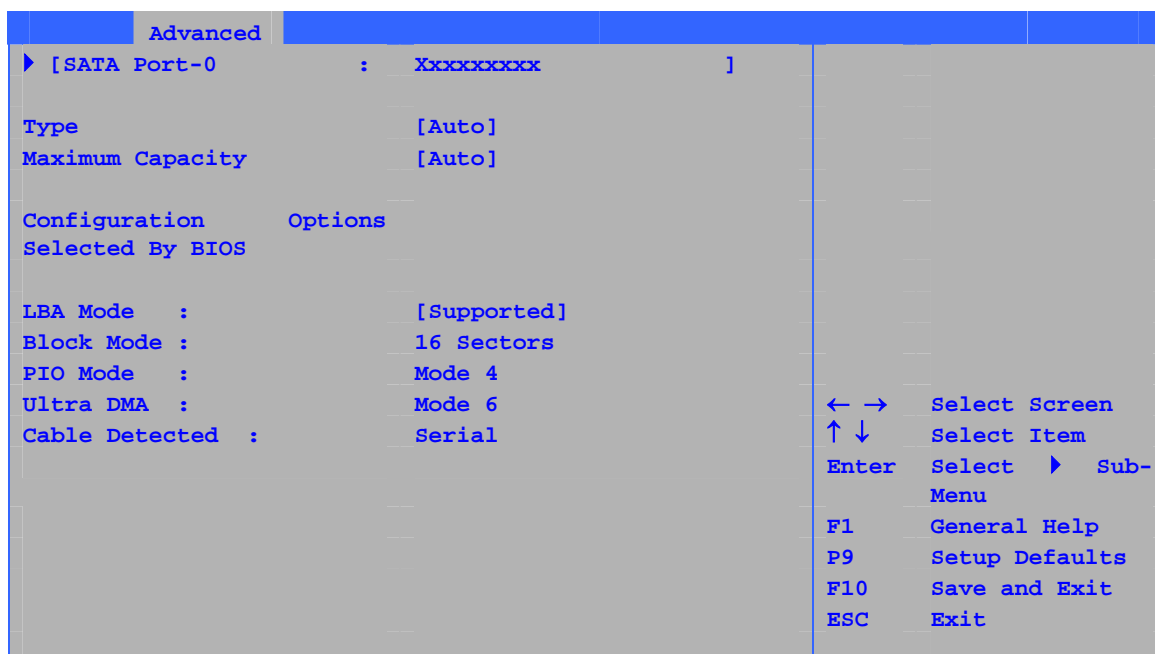
Advanced		
Drive Configuration		
ATA/IDE Configuration	[Enhanced]	
Intel® RAID Technology	[Disabled]	
SATA ACHI mode	[Disabled]	
PCI IDE Bus Master	[Enabled]	
Hard Disk Pre-Delay	[Disabled]	
▶ [SATA Port-0 :	Xxxxxxx]	
▶ [SATA Port-1 :	Xxxxxxx]	
▶ [SATA Port-2 :	Xxxxxxx]	
▶ [SATA Port-3 :	Xxxxxxx]	
▶ [PATA Master :	Xxxxxxx]	
▶ [PATA Slave :	Xxxxxxx]	
		← → Select Screen
		↑ ↓ Select Item
		Enter Select ▶ Sub-Menu
		F1 General Help
		P9 Setup Defaults
		F10 Save and Exit
		ESC Exit

表 19 に示すサブメニューは、ATA/IDE デバイスのオプションを設定するために使用します。

表 19. ATA/IDE Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
ATA/IDE Configuration	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Legacy</li> <li><b>Enhanced(工場出荷時)</b></li> </ul>	統合 IDE コントローラを指定。 <i>Disabled</i> は統合 IDE コントローラを無効にする。 <i>Legacy</i> はレガシーIDE 動作を要求する OS 用に最大 2 つの IDE チャンネルを有効にする。 <i>Enhanced</i> はすべての SATA および PATA リソースを有効にする。
Legacy IDE Channels	<ul style="list-style-type: none"> <li>PATA only</li> <li>SATA P0/P2 P1/P3</li> <li>SATA P1/P3, PATA</li> <li>SATA P0/P2, PATA</li> </ul>	レガシーIDE 動作を要求する OS 用に PATA および SATA リソースを設定。
Intel® RAID Technology	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Disabled(工場出荷時)</b></li> <li>Enabled</li> </ul>	RAID 機能(DiskBIOS)を有効・無効にする
SATA ACHI mode	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Disabled(工場出荷時)</b></li> <li>Enabled</li> </ul>	ACHI コントローラを有効・無効にする
PCI IDE Bus Master	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li><b>Enabled(工場出荷時)</b></li> </ul>	PCI デバイスがマスターとしてトランザクションを開始することを許可。
Hard Disk Pre-Delay	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Disabled(工場出荷時)</b></li> <li>3 Seconds</li> <li>6 Seconds</li> <li>9 Seconds</li> <li>他</li> </ul>	ハード・ディスク・ドライブの pre-delay(起動待ち時間)を指定。BIOS がシステムの IDE ドライブの検出を試みる前にレイテンシを挿入。

## SATA and PATA サブメニュー



6つのドライブ・サブメニューがあります。表 20 にこれらのドライブサブメニューのフォーマットを示します。簡略化のために1つの例のみを示します。

表 20. SATA and PATA サブメニュー

項目	オプション	説明
Drive Installed	なし	取り付けられているドライブの種類を表示。
Type	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Auto(工場出荷時)</li> <li>• User</li> </ul>	IDE デバイスの IDE 設定モードを指定。 Auto は ATA/ATAPI デバイスから機能を補充。 User は機能の変更を許可。
Maximum Capacity	なし	ドライブの容量を表示。
LBA Mode Control (ノート)	なし	LBA モード制御を指定。
Block Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Disabled</li> <li>• Auto(工場出荷時)</li> </ul>	最適な設定のためにハード・ディスク・ドライブの仕様をチェック。
PIO Mode (ノート)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Auto(工場出荷時)</li> <li>• 0</li> <li>• 1</li> <li>• 2</li> <li>• 3</li> <li>• 4</li> </ul>	PIO モードを指定。

つづく

表 20. SATA and PATA サブメニュー(つづき)

項目	オプション	説明
DMA Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Auto(工場出荷時)</b></li> <li>• SWDMA 0</li> <li>• SWDMA 1</li> <li>• SWDMA 2</li> <li>• MWDMA 0</li> <li>• MWDMA 1</li> <li>• MWDMA 2</li> <li>• UDMA 0</li> <li>• UDMA 1</li> <li>• UDMA 2</li> <li>• UDMA 3</li> <li>• UDMA 4</li> <li>• UDMA 5</li> </ul>	ドライブの Ultra DMA モードを指定。
S.M.A.R.T.	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Auto(工場出荷時)</b></li> <li>• Disable</li> <li>• Enable</li> </ul>	自己モニター分析および報告技術。
Cable Detected (ノート)	なし	IDE インタフェースに接続されているケーブルのタイプを表示: 40 芯または 80 芯(ATA-66/100 デバイス用)もしくはシリアル ATA。

ノート:これらの設定オプションは、IDE デバイスが接続されている場合にのみ表示されます。

## Diskette Configuration サブメニュー

Advanced	
Diskette Configuration	
Diskette Controller	[Enabled]
Floppy A	[1.44/1.25MB 3½"]
Diskette Write Protect	[Disabled]
← → Select Screen ↑ ↓ Select Item Enter Select ► Sub-Menu F1 General Help P9 Setup Defaults F10 Save and Exit ESC Exit	

表 21 に示すサブメニューはフロッピー・ディスク・ドライブを設定するために使用します。

表 21. Diskette Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
Diskette Controller	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li><b>Enabled(工場出荷時)</b></li> </ul>	統合フロッピー・ディスク・コントローラの設定。
Floppy A	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>360 KB 5¼"</li> <li>1.2 MB 5¼"</li> <li>720 KB 3½"</li> <li><b>1.44 MB 3½" (工場出荷時)</b></li> <li>2.88 MB 3½"</li> </ul>	フロッピー・ディスク・ドライブのタイプを選択。
Diskette Write Protect	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Disabled(工場出荷時)</b></li> <li>Enabled</li> </ul>	ディスク・ドライブ書き込み保護を無効または有効にする。

## Event Log Configuration サブメニュー

Advanced	
Event Log Configuration	
Event Log	[Space Available]
View Event Log	
Clear Event Log	
Event Logging	[Enabled]
Mark Events As Read	
	← → Select Screen
	↑ ↓ Select Item
	Enter Select ► Sub-Menu
	F1 General Help
	P9 Setup Defaults
	F10 Save and Exit
	ESC Exit

表 22 に示すサブメニューはイベント・ロギング機能を設定するために使用します。

表 22. Event Log Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
Event Log	オプションなし	イベント・ログに使用できるスペースがあるかどうかを表示。
View Event Log	[Enter]	DMI イベント・ログの内容を閲覧。
Clear Event Log	オプションなし	イベント・ログのすべてのイベントを破棄。
Event Logging	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Disabled</li> <li>• <b>Enabled(工場出荷時)</b></li> </ul>	イベント・ロギングを有効または無効にする。
Mark Events As Read	[Enter]	イベント・ログのすべての DMI イベントを既読にマーク。

## Video Configuration サブメニュー

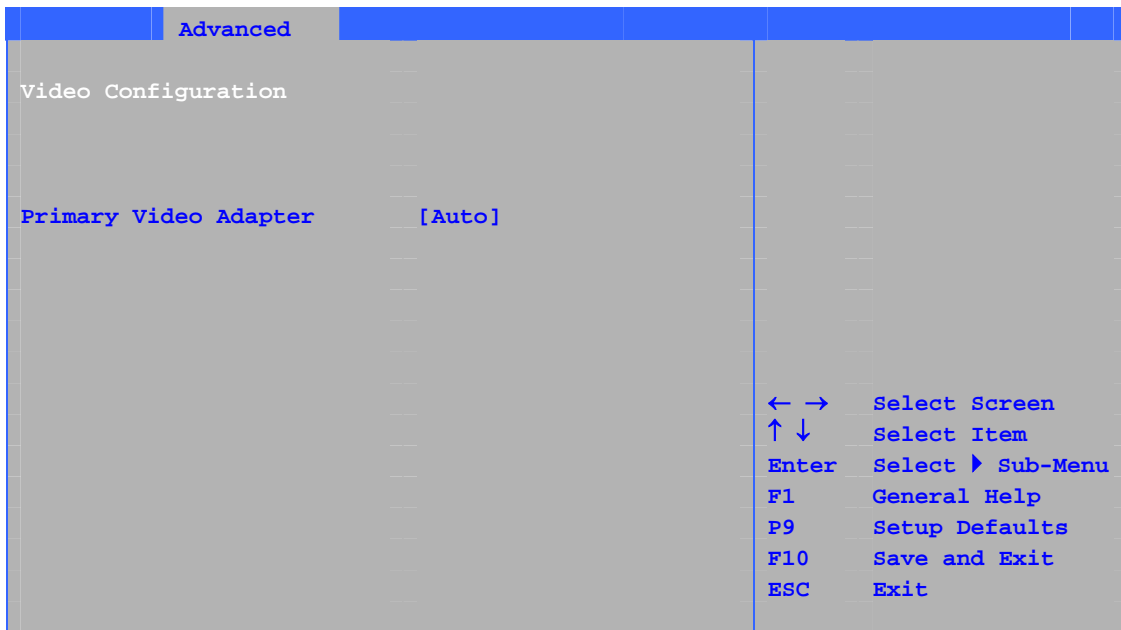


表 23 に示すサブメニューはビデオ機能を設定するために使用します。

表 23. Video Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
Primary Video Adapter	<ul style="list-style-type: none"> <li>•</li> <li>• PCI-Express (PEG)</li> <li>• External PCI</li> <li>• <b>Auto (工場出荷時)</b></li> </ul>	システム起動時にアクティブになるディスプレイ・デバイスとして PCI-Express または PCI ビデオ・コントローラ等を選択。

## USB Configuration サブメニュー

Advanced	
USB Configuration	
High-Speed USB	[Enabled]
Legacy USB Support	[Enabled]
USB2.0 Legacy Support	[Full-Speed]
← → Select Screen ↑ ↓ Select Item Enter Select ► Sub-Menu F1 General Help P9 Setup Defaults F10 Save and Exit ESC Exit	

表 24 に示すサブメニューは USB 機能を設定するために使用します。

表 24. USB Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
High Speed USB	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Enabled (工場出荷時)</li> </ul>	USB2.0 ドライバが使用できないときにはこのオプションを無効にする
Legacy USB Support	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Enabled (工場出荷時)</li> </ul>	レガシーUSB のサポートを有効にする。 (DOS や BIOS セットアップ中に、USB キーボード・マウスを PS/2 キーボード・マウスとして扱う機能)
USB 2.0 Legacy Support	<ul style="list-style-type: none"> <li>Full-Speed (工場出荷時)</li> <li>Hi-Speed</li> </ul>	USB 2.0 レガシー・サポートを Full-Speed (128 Mbps) または Hi-Speed (480 Mbps) に設定する

## Chipset Configuration サブメニュー

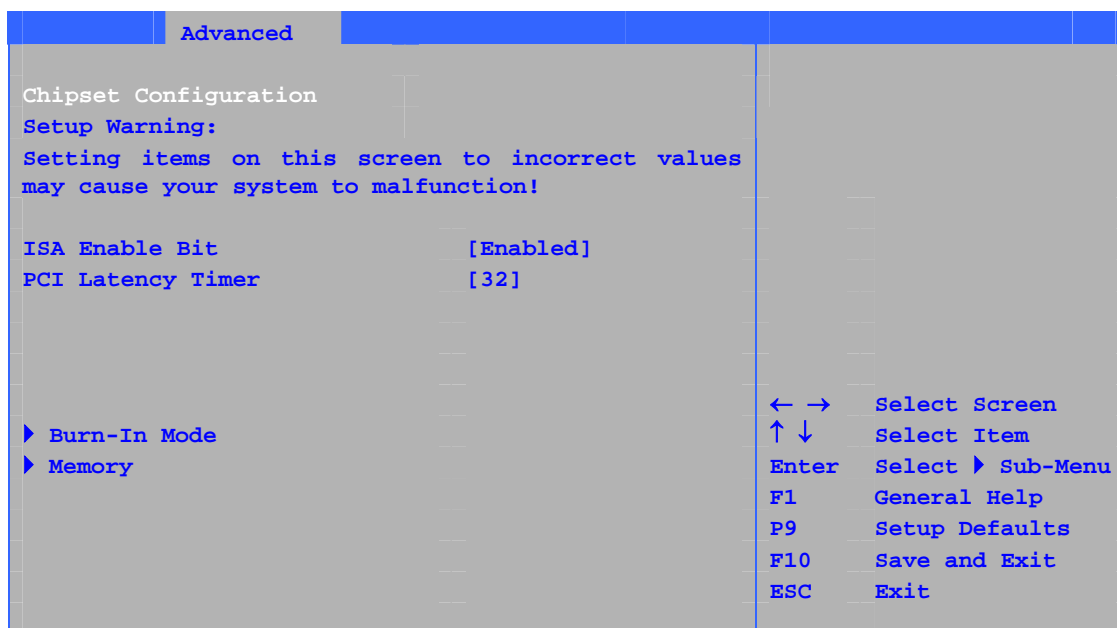


表 25 に示すサブメニューは高度なチップセット機能を設定するために使用します。

表 25. Chipset Configuration サブメニュー

項目	オプション	説明
ISA Enable Bit	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Enabled(工場出荷時)</b></li> <li>• Disabled</li> </ul>	一部の古い拡張デバイスではこの項目を有効にする必要があります。
PCI Latency Timer	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>32(工場出荷時)</b></li> <li>• 64</li> <li>• 96</li> <li>• 128</li> <li>• 160</li> <li>• 192</li> <li>• 224</li> <li>• 248</li> </ul>	PCI のレイテンシを設定。

つづく



表 25. Chipset Configuration サブメニュー(つづき)

項目	オプション	説明
Burn-In Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default(工場出荷時)</b></li> <li>• -2.0%</li> <li>• -1.0%</li> <li>• +1.0%</li> <li>• +2.0%</li> <li>• +3.0%</li> <li>• +4.0%</li> </ul>	ホストおよび I/O のクロック周波数を変更。
PCI Burn-In Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b></li> <li>• 36.36MHz</li> <li>• 40.00MHz</li> </ul>	PCI バス周波数の設定 通常は、33.33MHz
PCI Express Burn-In Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b></li> <li>• 他</li> </ul>	PCI Express バス周波数の設定 通常は 2Gbit/sec (x1 レーン)
PEG Allow > X1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Disabled (工場出荷時)</b></li> <li>• Enabled</li> </ul>	
	•	
Memory Timing Control	オプションなし	
SDRAM Timing Control	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Auto(工場出荷時)</b></li> <li>• Manual – Aggressive</li> <li>• Manual – User Defined</li> </ul>	<p><i>Auto</i> はタイミングを検出されたメモリに合わせてプログラムする。</p> <p><i>Manual – Aggressive</i> は最もアグレッシブなユーザー定義タイミングを選択。</p> <p><i>Manual – User Defined</i> は検出された SDRAM 設定の手動によるオーバーライドを許可。</p>
CPC Override	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Auto(工場出荷時)</b></li> <li>• Enabled</li> <li>• Disabled</li> </ul>	クロック/1n 当たりのコマンド・ルール・モードを制御。有効にすると、DRAM コントローラは 2 つの連続したコモン・クロックにおいてチップ・セレクト・アサーションを試みる。
SDRAM Frequency	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 400 MHz</li> <li>• 533 MHz 他</li> </ul>	SDRAM の動作周波数表示
SDRAM tCL	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2.0</li> <li>• 2.5</li> <li>• 3.0 他</li> </ul>	メモリの列を指定するのに必要なクロック・サイクル数を選択。
SDRAM tRCD	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4</li> <li>• 3</li> <li>• 2 他</li> </ul>	メモリの行を指定してから列を指定するまでのクロック・サイクルの数を選択。
SDRAM tRP	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4</li> <li>• 3</li> <li>• 2 他</li> </ul>	新しい行にアクセスするのに必要な時間の長さを選択。
SDRAM tRASmin	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 8</li> <li>• 7</li> <li>• 6 他</li> </ul>	リードからプリチェンジまでの時間の長さを選択。

## Fan Control サブメニュー

Advanced		
Fan Control Configuration		
Setup Warning: These options will not take effect until power has been completely removed from the system. After saving the BIOS settings and turning the system off, unplug the power cord from the system and wait for at least 30 seconds before reapplying power and turning the system back on.		
CPU Fan Control	[Enabled]	
Fan Control	[Enabled]	← → Select Screen
Lowest Fan Speed	[Slow]	↑ ↓ Select Item
		Enter Select ► Sub-Menu
		F1 General Help
		P9 Setup Defaults
		F10 Save and Exit
		ESC Exit

表 26 に示すメニューはハードウェア管理機能を設定するために使用します。  
更新された設定は、完全にシャットダウンされた後に有効になります

表 26. ハードウェア管理

項目	オプション	説明
CPU Fan Control	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Enabled (工場出荷時)</li> </ul>	CPU FAN の制御を有効または無効にする。
Fan Control	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li>Enabled (工場出荷時)</li> </ul>	システム・ファンの制御を無効または有効にする。
Lowest Fan Speed	<ul style="list-style-type: none"> <li>Slow (工場出荷時)</li> <li>Off</li> </ul>	このオプションはシステム温度が最低の時のファン・スピードを定義します。 Slow はシステム温度が低いときにファンが低い回転数で動作を継続。 Off はシステム温度が低い時にはファンを停止。

## Hardware Monitoring サブメニュー

Advanced		
Hardware Monitoring		
Note: These measurements are approximate and should not be used for validation purposes.		
Processor Zone Temperature	44°C/111°F	
System Zone 1 Temperature	37°C/98°F	
System Zone 2 Temperature	35°C/95°F	
Processor Fan Speed	2394 RPM	
Rear Fan Speed	0 RPM	
Rear Fan Speed	0 RPM	
Front Fan Speed	0 RPM	← → Select Screen
AUX Rear Fan Speed	0 RPM	↑ ↓ Select Item
+1.5Vin	1.480 V	Enter Select ► Sub-Menu
Vccp	1.447 V	F1 General Help
+3.3Vin	3.258 V	P9 Setup Defaults
+5Vin	5.026 V	F10 Save and Exit
12Vin	11.625 V	ESC Exit

表 27. Hardware Monitoring サブメニュー

項目	オプション	説明
Processor Zone Temperature	オプションなし	プロセッサ・ゾーンの温度を表示。
System Zone 1 Temperature	オプションなし	システム・ゾーン 1 の温度を表示。(CPU - メモリ周囲)
System Zone 2 Temperature	オプションなし	システム・ゾーン 2 の温度を表示。(CPU - バックパネル周囲)
Processor Fan Speed	オプションなし	プロセッサ・ファンの回転数を表示。
Rear Fan Speed	オプションなし	リア・ファンの回転数を表示。
VREG Fan Speed	オプションなし	VREG ファンの回転数を表示。
Front Fan Speed	オプションなし	フロント・ファンの回転数を表示。
AUX Rear Fan Speed	オプションなし	補助リア・ファン・スピードを表示。

## Security メニュー

Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Supervisor Password :		Not Installed			
User Password :		Not Installed			
Set Supervisor Password					
Set User Password					
Chassis Intrusion		[Disabled]			
		← → Select Screen			
		↑ ↓ Select Item			
		Enter Select ► Sub-Menu			
		F1 General Help			
		P9 Setup Defaults			
		F10 Save and Exit			
		ESC Exit			

表 28 に示すメニューはパスワードとセキュリティ機能を設定するために使用します。

表 28. Security メニュー

以前にパスワードを入力していない場合:		
項目	オプション	説明
Supervisor Password	オプションなし	スーパーバイザ・パスワードが設定されているかどうか表示。
User Password	オプションなし	ユーザ・パスワードが設定されているかどうか表示。
Set Supervisor Password	パスワードは英数字で最大 7 文字。	スーパーバイザ・パスワードを指定。
Set User Password	パスワードは英数字で最大 7 文字。	ユーザ・パスワードを指定。
Clear User Password (ノート 1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Yes (工場出荷時)</li> <li>• No</li> </ul>	ユーザ・パスワードをクリア。
User access Level (ノート 2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Limited</li> <li>• No access</li> <li>• View Only</li> <li>• Full (工場出荷時)</li> </ul>	ユーザ・レベルに応じて BIOS セットアップ・ユーティリティへのアクセス権を設定。
Chassis Intrusion	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Disabled (工場出荷時)</li> <li>• Enabled</li> </ul>	シャーシ開口検出機能を有効または無効にする。

ノート:

1. この項目はユーザ・パスワードが設定済みの場合にのみ表示します。
2. この項目はユーザ・パスワードとスーパーバイザ・パスワードの両方が設定済みの場合にのみ表示します。

## Power メニュー

Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
ACPI					
After Power Failure [Last State]					
The options below are not related to ACPI and may be ignored when shutting down using an ACPI OS.					
Wake on PCI PME [Stay Off]					
					← → Select Screen
					↑ ↓ Select Item
					Enter Select ► Sub-Menu
					F1 General Help
					P9 Setup Defaults
					F10 Save and Exit
					ESC Exit

表 29 に示すメニューは電源管理機能を設定するために使用します。

表 29. Power メニュー

項目	オプション	説明
ACPI	オプションなし	選択時に ACPI サブメニューを表示。
After Power Failure	<ul style="list-style-type: none"> <li>Stay Off</li> <li><b>Last State (工場出荷時)</b></li> <li>Power On</li> </ul>	<p>電源損失が発生した場合の動作モードを決定。</p> <p><i>Stay Off</i> は電源ボタンが押されるまで電源オフのままにする。</p> <p><i>Last State</i> は電源損失の発生前の電源状態に復帰する。</p> <p><i>Power On</i> はコンピュータへの電源供給を回復する。</p>
Wake on PCI PME	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Stay Off (工場出荷時)</b></li> <li>Power-On</li> </ul>	PCI-PME ウェークアップ・イベントに対するシステムの対応方法を決定。

## ACPI サブメニュー

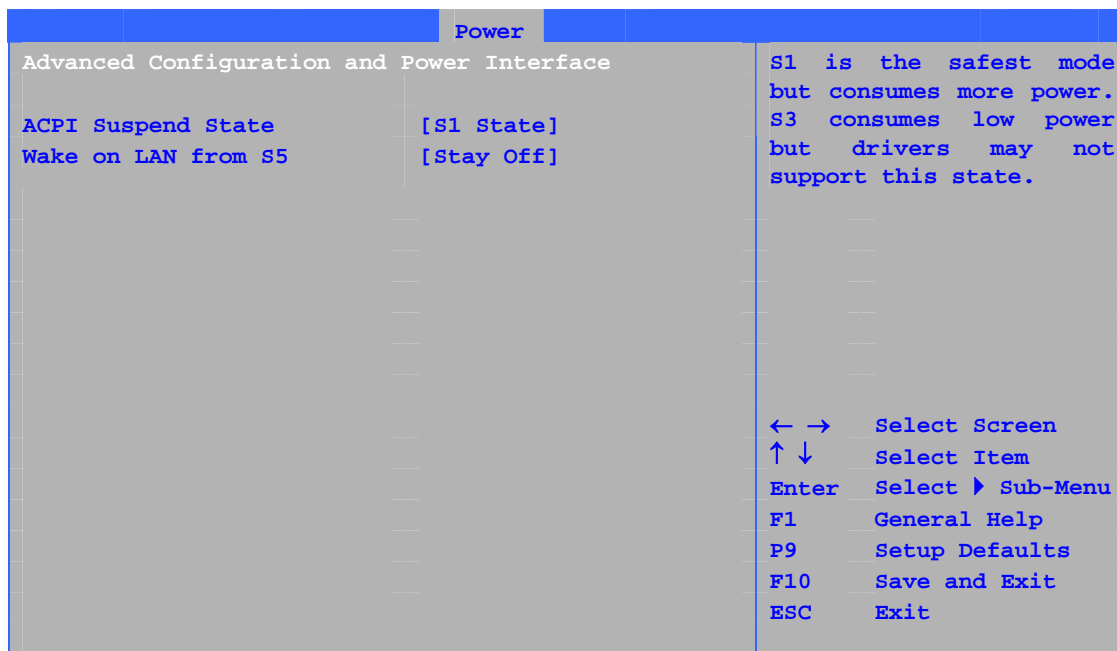


表 30 に示すサブメニューは ACPI 機能の設定用です。

表 30. ACPI サブメニュー

項目	オプション	説明
ACPI Suspend Mode	<ul style="list-style-type: none"> <li>• S1 State (工場出荷時)</li> <li>• S3 State</li> </ul>	<p>ACPI スタンバイ・モードを指定。 (Windows のコントロールパネル 電源オプション スタンバイの設定)</p> <p>S1 (標準) CPU の動作を停止します。 S3 (高度) メモリ以外の装置の動作を停止します。S1 と比べると、省電力に優れるが、復帰するのに時間がかかります。また接続しているデバイスは S3 に対応している必要があります。</p>
Wake on LAN* from S5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Stay Off (工場出荷時)</li> <li>• Power On</li> </ul>	<p>ACPI ソフト・オフ・モードの場合のみ、システムが ACPI ソフト・オフ・モードの時にシステムが LAN ウェークアップ・イベントにどのように対応するかを設定。</p>

## Boot メニュー

Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Silent BOOT				[Enabled]	
Intel ® Rapid BIOS Boot				[Enabled]	
Scan User Flash Area				[Enabled]	
PXE Boot to LAN				[Disabled]	
USB Boot				[Enabled]	
▶ Boot Device Priority					
▶ Hard Disk Drives					
▶ Removable Devices					
▶ ATAPI CD-ROM Drives					
					← → Select Screen
					↑ ↓ Select Item
					Enter Select ▶ Sub-Menu
					F1 General Help
					P9 Setup Defaults
					F10 Save and Exit
					ESC Exit

表 31 に示すメニューはブート機能およびブート・シーケンスを設定するために使用します。

表 31. Boot メニュー

項目	オプション	説明
Silent Boot	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li><b>Enabled (工場出荷時)</b></li> </ul>	<p>Disabled は通常の POST メッセージを表示。</p> <p>Enabled は POST メッセージの代わりに OEM ログを表示。</p>
Intel Rapid BIOS Boot	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li><b>Enabled (工場出荷時)</b></li> </ul>	起動時に BIOS が一部のテストをスキップすることを許可。
Scan User Flash Area	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li><b>Enabled (工場出荷時)</b></li> </ul>	起動時に実行されるユーザ・バイナリ・ファイルがあるかどうか BIOS がフラッシュ ROM をスキャンできるようにする。
PXE Boot to LAN	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Disabled (工場出荷時)</b></li> <li>Enabled</li> </ul>	PXE boot to LAN を無効または有効にする。
USB Boot	<ul style="list-style-type: none"> <li>Disabled</li> <li><b>Enabled (工場出荷時)</b></li> </ul>	USB 起動デバイスからの起動を無効または有効にする。
Boot Device Priority	オプションなし	利用可能な種類の起動デバイスについて起動する優先順位を指定。
Hard Disk Drives	オプションなし	利用可能なハード・ディスク・ドライブについて起動する優先順位を指定。
Removable Devices	オプションなし	利用可能なリムーバブル・デバイスについて起動する優先順位を指定。
ATAPI CD-ROM Drives	オプションなし	利用可能な ATAPI CDROM ドライブについて起動する優先順位を指定。

## Boot Device Priority サブメニュー

		Boot	
1 <sup>st</sup> Boot Device	[xxxxxxxxxx]		Specifies the boot sequence from the available devices.
2 <sup>nd</sup> Boot Device	[xxxxxxxxxx]		
3 <sup>rd</sup> Boot Device	[xxxxxxxxxx]		
			A device enclosed in parenthesis has been disabled in the corresponding type menu.
			← → Select Screen
			↑ ↓ Select Item
			Enter Select ► Sub-Menu
			F1 General Help
			P9 Setup Defaults
			F10 Save and Exit
			ESC Exit

表 32 に示すサブメニューは起動デバイスの優先順位を設定するために使用します。

表 32. Boot Device Priority サブメニュー

項目	オプション	説明
1 <sup>st</sup> Boot Device 2 <sup>nd</sup> Boot Device 3 <sup>rd</sup> Boot Device	<ul style="list-style-type: none"> <li>Removable Device</li> <li>Hard Drive</li> <li>ATAPI CD-ROM</li> <li>Disabled</li> </ul>	<p>利用可能なデバイスについて起動する順番を指定する。起動順位を指定する手順:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>&lt;↑&gt; または &lt;↓&gt; で起動デバイスを選択する。</li> <li>&lt;Enter&gt; を押して選択したデバイスを目的とする起動デバイスとして設定する。</li> </ol> <p>オペレーティング・システムは、リストされた順番で各起動デバイスにドライブ・レターを割り当てます。デバイスの順番を変更すると、ドライブ・レターも変更されます。工場出荷時の起動デバイスの順番は優先順位の高い順に以下のようになっています。BIOS は以下の起動デバイスの各タイプの任意の組み合わせで最大 16 台の起動デバイスをサポートし、一方、それぞれのタイプについては以下の最大値が定められています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リムーバブル・デバイス(最大 4 台)</li> <li>ハード・ドライブ(最大 12 台)</li> <li>ATAPI CD-ROM(最大 4 台)</li> <li>括弧に入れたデバイスは、対応するタイプ・メニューで無効になっています。</li> </ul>



## Hard Disk Drives サブメニュー

		Boot	
1 <sup>st</sup> Drive	[xxxxxxxxxxxxx]		Specifies the boot sequence from the available devices. Select the boot device with UpArrow or DownArrow key. Press Enter to set the selections as the intended boot device. ARMD = ATAPI Removable Media Device.
2 <sup>nd</sup> Drive	[xxxxxxxxxxxxx]		
3 <sup>rd</sup> Drive	[xxxxxxxxxxxxx]		
4 <sup>th</sup> Drive	[xxxxxxxxxxxxx]		
			← → Select Screen
			↑ ↓ Select Item
			Enter Select ► Sub-Menu
			F1 General Help
			P9 Setup Defaults
			F10 Save and Exit
			ESC Exit

表 33 に示すサブメニューはハード・ディスク・ドライブを設定するために使用します。

表 33. Hard Disk Drives サブメニュー

項目	オプション	説明
1 <sup>st</sup> Hard Disk Drive (ノート)	取り付けられているハード・ドライブによって異なる	利用可能なハード・ディスク・ドライブから起動の優先順位を指定。起動の順番を指定する手順: 1. <↑> または <↓> で起動デバイスを選択。 2. <Enter> を押して選択したデバイスを目的とする起動デバイスとして設定。

ノート: この起動デバイス・サブメニューは、このタイプの少なくとも 1 台の起動デバイスが接続されている場合にのみ表示されます。このリストは最大 12 台 (BIOS がサポートするハード・ディスク・ドライブの最大数) のハード・ディスク・ドライブを表示します。

## Removable Devices サブメニュー

		Boot
1 <sup>st</sup> Drive	[1 <sup>st</sup> FLOPPY DRIVE]	<p>Specifies the boot sequence from the available devices. Select the boot device with UpArrow or DownArrow key. Press Enter to set the selections as the intended boot device. ARMD = ATAPI Removable Media Device.</p> <p>← → Select Screen            ↑ ↓ Select Item            Enter Select ► Sub-Menu            F1 General Help            P9 Setup Defaults            F10 Save and Exit            ESC Exit</p>

表 34 に示すサブメニューはリムーバブル・デバイスを設定するために使用します。

表 34. Removable Devices サブメニュー

項目	オプション	説明
1 <sup>st</sup> Removable Device (ノート)	取り付けられているリムーバブル・デバイスによって異なる	<p>利用可能なリムーバブル・デバイスから起動優先順位を指定。起動の優先順位を指定する手順:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. &lt;↑&gt; または &lt;↓&gt; で起動デバイスを選択。</li> <li>2. &lt;Enter&gt; を押して、選択したデバイスを目的とする起動デバイスとして設定。</li> </ol>

ノート: この起動デバイス・サブメニューは、このタイプの少なくとも 1 台の起動デバイスが接続されている場合にのみ表示されます。このリストは最大 4 台 (BIOS がサポートするリムーバブル・デバイスの最大数) のリムーバブル・デバイスを表示します。

## ATAPI CD-ROM ドライブ

		Boot	
1st Drive	[xxxxxxx]		Specifies the boot sequence from the available devices. Select the boot device with UpArrow or DownArrow key. Press Enter to set the selections as the intended boot device. ARMD = ATAPI Removable Media Device.
2nd Drive	[xxxxxxx]		
			← → Select Screen ↑ ↓ Select Item Enter Select ▶ Sub-Menu F1 General Help P9 Setup Defaults F10 Save and Exit ESC Exit

表 35 に示すサブメニューは ATAPI CD-ROM ドライブを設定するために使用します。

**表 35. ATAPI CD-ROM Drives サブメニュー**

項目	オプション	説明
1 <sup>st</sup> ATAPI CD-ROM Drive (ノート)	取り付けられている ATAPI CD-ROM ドライブによって異なる	利用可能な ATAPI CD-ROM ドライブから起動の優先順位を指定する。起動の優先順位を設定する手順: 1. <↑> または <↓> で起動デバイスを選択。 2. <Enter> を押して選択したデバイスを目的とする起動デバイスに設定。

ノート: この起動デバイス・サブメニューは、このタイプの少なくとも 1 台の起動デバイスが接続されている場合にのみ表示されます。このリストは最大 4 台 (BIOS がサポートする ATAPI CD-ROM ドライブの最大数) の ATAPI CD-ROM ドライブを表示します。

## Exit メニュー

Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
Exit Saving Changes					
Exit Discarding Changes					
Load Optimal Defaults					
Load Custom Defaults					
Save Custom Defaults					
Discard Changes					
← → Select Screen					
↑ ↓ Select Item					
Enter Select ► Sub-Menu					
F1 General Help					
P9 Setup Defaults					
F10 Save and Exit					
ESC Exit					

表 36 に示すメニューは変更を保存、および初期設定をロード、保存して BIOS セットアップ・プログラム終了するために使用します。

表 36. Exit メニュー

項目	説明
Exit Saving Changes	終了し、変更を CMOS SRAM に保存。
Exit Discarding Changes	BIOS セットアップ・プログラムで行った変更を保存せずに終了。
Load Optimal Defaults	最適な工場出荷時設定をロード。
Load Custom Defaults	セットアップ・オプションのカスタム初期設定をロード。
Save Custom Defaults	現在の設定値をカスタム初期設定として保存。通常、BIOS はセットアップ値をフラッシュ・メモリから読み込みます。このメモリが不正の場合、BIOS はカスタム初期設定を読み込みます。カスタム初期設定が設定されていない場合、BIOS は工場出荷時設定を読み込みます。
Discard Changes	セットアップを終了せずに変更を破棄。コンピュータの電源が投入された時点のオプション値が使用されます。

## B 規制事項への準拠

この付録には、デスクトップ・ボード D915PBL についての以下の規制事項への準拠に関する情報が含まれます：

- 安全規格
- 欧州連合の適合宣誓書
- 製品のエコロジー宣誓書
- EMC 規格
- 製品認証マーク

### 安全規格

デスクトップ・ボード D915PBL は、適合するホスト・システムに正しく取り付けられた場合、表 37 に示す安全規格に準拠します。

表 37. 安全規格

規格	名称
UL 60950-1:2003/ CSA C22.2 No. 60950-1-03	情報処理機器 - 安全 - 1 部: 一般要求 (アメリカ合衆国およびカナダ)
EN 60950-1:2002	情報処理機器 - 安全 - 1 部: 一般要求 (欧州連合)
IEC 60950-1:2001, First Edition	情報処理機器 - 安全 - 1 部: 一般要求 (国際)

### 欧州連合適合宣誓書

インテルコーポレーションは、当社の全面的な責任においてインテル® デスクトップ・ボード D915PBL がヨーロッパ会議指令 89/336/EEC (EMC 指令) とヨーロッパ会議指令 73/23/EEC (安全 / 低電圧に関する指令) に適合し、CE マークに必要なすべての該当する基本的要件に準拠していることを宣誓します。

この製品には適正に CE マークがつけられており、これらの指令に準拠し、EU のすべての加盟国において何らの制限なく販売できることを示します。



この製品は、欧州指令 89/336/EEC および 73/23/EEC の条項に従っています。

## 製品のエコロジー宣言書

世界的な製品エコロジーへの関心や規制に対応するために以下の情報を提供します。

### 破棄に関する注意事項

この製品は破棄する場合に規制の対象となりうる以下の物質を含みます：プリント基板アセンブリに使用されている鉛はんだ。

### リサイクルに関する注意事項

インテルは顧客に対して、リサイクルが可能な地域であれば製品やコンポーネント(電池、回路基盤、プラスチック・ケースなど)をリサイクルするよう推奨します。アメリカ合衆国では、次の Web サイトで地域のリサイクル業者のリストを参照することができます：

<http://www.eiae.org>

有効なリサイクルの選択肢が存在しない場合には、製品やそのコンポーネントは、地域の該当する環境規制に準じて処分しなければなりません。

## EMC 規格

デスクトップ・ボード D915PBL は適合するホスト・システムに正しく取り付けられた場合、表 38 に示す EMC 規格に準拠します。

表 38. EMC 規格

規格	名称
FCC Class B	連邦規制コード 47、パート 2 および 15、サブパート B、無線周波数機器 (アメリカ合衆国)
ICES-003 (Class B)	カナダ干渉波発生装置規制、デジタル装置 (カナダ)
EN55022: 1998 (Class B)	情報技術装置に関する無線干渉の特性の限度値と測定法 (欧州連合)
EN55024: 1998	情報技術装置 イミュニティ特性の限度値と測定法 (欧州連合)
AS/NZS 3548 (Class B)	オーストラリア通信省、電磁適合性規格 (オーストラリアおよびニュージーランド)
CISPR 22, 3 <sup>rd</sup> Edition, (Class B)	情報技術装置に関する無線障害特性の限度値と測定法 (国際)
CISPR 24: 1997	情報技術装置 イミュニティ特性の限度値と測定法 (国際)
VCCI (Class B)	情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (日本)







日本語の漢字による宣誓書の訳文: この装置は情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境でラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。この装置は取扱説明書にしたがって設置、使用してください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。  
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

## 製品認証マーク(ボード面)

デスクトップ・ボード D915PBL は以下の製品認証マークを取得しています：

表 39. 製品認証マーク

説明	マーク				
UL ジョイント US/カナダ認証コンポーネント・マーク。インテル・デスクトップ・ボードの隣接した UL ファイル番号：E210882(コンポーネント側)を含む。					
クラス B 装置の FCC 適合宣誓書ロゴマーク。インテルの名称と D915PBL モデル指定を含む(コンポーネント側)。	<table border="1"> <tr> <td>Trade Name</td> <td>Model Number</td> </tr> <tr> <td colspan="2">                      Tested To Comply With FCC Standards FOR HOME OR OFFICE USE                 </td> </tr> </table>	Trade Name	Model Number	 Tested To Comply With FCC Standards FOR HOME OR OFFICE USE	
Trade Name	Model Number				
 Tested To Comply With FCC Standards FOR HOME OR OFFICE USE					
CE マーク。欧州連合(EU)の EMC 指令(89/336/EEC)および低電圧に関する指令(73/23/EEC)に適合していることを宣誓(コンポーネント側)。CE マークは出荷梱包にも表示する必要がある。					
オーストラリア通信省(ACA)C-Tick マーク。隣接したインテルのサプライヤ・コード番号 N-232 も含む。C-Tick マークは出荷梱包にも表示する必要がある。					
プリント基板の製造業者の認証マーク：独自の UL 認証メーカー・ロゴと可燃性の格付けで構成(はんだ側)。	V-0 or 94V-0				



## Intel® デスクトップ・ボードならびに Intel® ワークステーション・ボード Boxed 製品に関する製品保証

### Limited Warranty for Intel® Desktop Board and Intel® Workstation Board Boxed Products

Intel warrants to the purchaser of the Product (defined herein as the boxed Intel® desktop board and all of its various components, but excluding stand-alone semiconductor component products (including but not limited to processors and chipsets) and software delivered with or as part of the Product) in its original sealed packaging (“Original Purchaser”), if properly used and installed, will be free from defects in material and workmanship and will substantially conform to Intel’s publicly available specifications for a period of three (3) years beginning on the date the Product was purchased in its original sealed packaging. This Limited Warranty applies only when the Product is evaluated with an Intel microprocessor. SOFTWARE OF ANY KIND DELIVERED WITH OR AS PART OF THE PRODUCT IS EXPRESSLY PROVIDED “AS IS” UNLESS SPECIFICALLY PROVIDED FOR OTHERWISE IN ANY SOFTWARE LICENSE ACCOMPANYING THE SOFTWARE.

If the Product which is the subject of this Limited Warranty fails during the warranty period for reasons covered by this Limited Warranty, Intel, at its option, will:

- **REPAIR** the Product by means of hardware and/or software; OR
- **REPLACE** the Product with another product, OR, if Intel is unable to repair or replace the Product,
- **REFUND** the then-current value of the Product at the time a claim for warranty service is made to Intel under this Limited Warranty.

THIS LIMITED WARRANTY, AND ANY IMPLIED WARRANTIES THAT MAY EXIST UNDER APPLICABLE STATE, NATIONAL, PROVINCAL OR LOCAL LAW, APPLY ONLY TO YOU AS THE ORIGINAL PURCHASER OF THE PRODUCT.

#### Extent of Limited Warranty

Intel does not warrant that the Product, whether purchased stand-alone or integrated with other products, including without limitation semi-conductor components, will be free from design defects or errors known as “errata.”

Current characterized errata are available upon request. Further, this Limited Warranty does NOT cover:

- any costs associated with the replacement or repair of the Product, including labor, installation or other costs incurred by you, and in particular, any costs relating to the removal or replacement of any Product soldered or otherwise permanently affixed to any printed circuit board or integrated with other products; OR
- damage to the Product due to external causes, including accident, problems with electrical power, abnormal, mechanical or environmental conditions, usage not in accordance with product instructions, misuse, neglect, alteration, repair, improper installation, or improper testing; OR
- any Product which has been modified or operated outside of Intel’s publicly available specifications or where the original product identification markings (trademark or serial number) has been removed, altered or obliterated from the Product.

#### How to Obtain Warranty Service

To obtain warranty service for the Product, you may contact your original place of purchase in accordance with its instructions or you may contact Intel.

To request warranty service from Intel, you must contact the Intel Customer Support (“ICS”) center in your region within the warranty period during normal business hours (local time), excluding holidays and return the Product (the boxed Intel® desktop board and all of its various components) to the designated ICS center. Please be prepared to provide: (1) your name, mailing address, email address, telephone numbers; and (2) proof of purchase; (3) model name and product identification number found on the Product; and (4) an explanation of the problem. The Customer Service Representative may need additional information from you depending on the nature of the problem.

Upon ICS’s verification that the Product is eligible for warranty service, you will be issued a Return Material Authorization (“RMA”) number and provided with instructions for returning the Product to the designated ICS

## Intel Desktop Board D915PBL Product Guide

center. When you return the Product to the ICS center, you must include the RMA number on the outside of the package. Intel will not accept any returned Product without an RMA number, or that has an invalid RMA number, on the package. You must deliver the returned Product to the designated ICS center in the original or equivalent packaging, with shipping charges pre-paid (within the USA), and assume the risk of damage or loss during shipment. Intel may elect to repair or replace the Product with either a new or reconditioned Product or components, as Intel deems appropriate. The repaired or replaced product will be shipped to you at the expense of Intel within a reasonable period of time after receipt of the returned Product by ICS. The returned Product shall become Intel's property on receipt by ICS. The replacement product is warranted under this written warranty and is subject to the same limitations and exclusions for ninety (90) days or the remainder of the original warranty period, whichever is longer. If Intel replaces the Product, the Limited Warranty period for the replacement Product is not extended.

### **WARRANTY LIMITATIONS AND EXCLUSIONS**

**THIS WARRANTY REPLACES ALL OTHER WARRANTIES FOR THE PRODUCT AND INTEL DISCLAIMS ALL OTHER WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, NONINFRINGEMENT, COURSE OF DEALING AND USAGE OF TRADE. Some states (or jurisdictions) do not allow the exclusion of implied warranties so this limitation may not apply to you. ALL EXPRESS AND IMPLIED WARRANTIES ARE LIMITED IN DURATION TO THE LIMITED WARRANTY PERIOD. NO WARRANTIES APPLY AFTER THAT PERIOD. Some states (or jurisdictions) do not allow limitations on how long an implied warranty lasts, so this limitation may not apply to you.**

### **LIMITATIONS OF LIABILITY**

**INTEL'S RESPONSIBILITY UNDER THIS OR ANY OTHER WARRANTY, IMPLIED OR EXPRESS, IS LIMITED TO REPAIR, REPLACEMENT OR REFUND, AS SET FORTH ABOVE. THESE REMEDIES ARE THE SOLE AND EXCLUSIVE REMEDIES FOR ANY BREACH OF WARRANTY. TO THE MAXIMUM EXTENT PERMITTED BY LAW, INTEL IS NOT RESPONSIBLE FOR ANY DIRECT, SPECIAL, INCIDENTAL, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM ANY BREACH OF WARRANTY OR UNDER ANY OTHER LEGAL THEORY (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, LOST PROFITS, DOWNTIME, GOODWILL, DAMAGE TO OR REPLACEMENT OF EQUIPMENT AND PROPERTY, AND ANY COSTS OF RECOVERING, REPROGRAMMING, OR REPRODUCING ANY PROGRAM OR DATA STORED IN OR USED WITH A SYSTEM CONTAINING THE PRODUCT), EVEN IF INTEL HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. Some states (or jurisdictions) do not allow the exclusion or limitation of incidental or consequential damages, so the above limitations or exclusions may not apply to you.**

THIS LIMITED WARRANTY GIVES YOU SPECIFIC LEGAL RIGHTS, AND YOU MAY ALSO HAVE OTHER RIGHTS THAT VARY BY STATE OR JURISDICTION.

ANY AND ALL DISPUTES ARISING UNDER OR RELATED TO THIS LIMITED WARRANTY SHALL BE ADJUDICATED IN THE FOLLOWING FORUMS AND GOVERNED BY THE FOLLOWING LAWS: FOR THE UNITED STATES OF AMERICA, CANADA, NORTH AMERICA AND SOUTH AMERICA, THE FORUM SHALL BE SANTA CLARA, CALIFORNIA, USA AND THE APPLICABLE LAW SHALL BE THAT OF THE STATE OF DELAWARE. FOR THE ASIA PACIFIC REGION (EXCEPT FOR MAINLAND CHINA), THE FORUM SHALL BE SINGAPORE AND THE APPLICABLE LAW SHALL BE THAT OF SINGAPORE. FOR EUROPE AND THE REST OF THE WORLD, THE FORUM SHALL BE LONDON AND THE APPLICABLE LAW SHALL BE THAT OF ENGLAND AND WALES.

IN THE EVENT OF ANY CONFLICT BETWEEN THE ENGLISH LANGUAGE VERSION AND ANY OTHER TRANSLATED VERSION(S) OF THIS LIMITED WARRANTY (WITH THE EXCEPTION OF THE SIMPLIFIED CHINESE VERSION), THE ENGLISH LANGUAGE VERSION SHALL CONTROL.

## Intel®デスクトップ・ボードならびに Intel®ワークステーション・ボード Boxed 製品に関する製品保証(参考訳)

インテルは、パッケージを開封していない状態で製品（ここでは Boxed Intel®デスクトップ・ボードおよびその他すべての各種構成部品と定義しますが、スタンドアロンの半導体構成製品（プロセッサやチップセットその他を含む）や製品に添付またはその一部として提供されるソフトウェアは除きます）を購入された方（「原購入者」）に対し、適切に使用およびインストールされることを条件に、パッケージ未開封の製品を購入した日から起算して3年間、原材料の瑕疵または製造上の瑕疵がないこと、および実質的にインテルが公式に発表している仕様に合致することを保証します。この製品保証は、製品がインテルのマイクロプロセッサとともに評価される場合のみ適用されます。製品に添付またはその一部として提供されるいかなる種類のソフトウェアも、このソフトウェアに添付されたソフトウェアライセンスで特別に提供されるものでない限り、「現状有姿」で明示的に提供されます。

この製品保証の対象である製品が、保証期間中にこの製品保証範囲内の原因によって正常に機能しなかった場合、インテルは次のいずれかの措置を選択します。

ハードウェアまたはソフトウェアによる製品の修理。

他の製品との交換、またはインテルが当該製品を修理ないし交換できない場合、

この製品保証のもとでインテルに対して保証サービスが要望された時点における製品の現在価値にもとづいて払い戻します。

この製品保証ならびに、適用対象となる州、国、地方、地域の法律のもとで規定されているすべての黙示の保証は、製品の原購入者であるお客様に対してのみ適用されます。

### 製品保証の範囲

インテルは、スタンドアロンまたは半導体構成部品を含むいずれの他製品と統合された形態で製品が購入されたか否かに関わらず、製品に「エラッタ」と呼ばれる設計上の瑕疵またはエラーがないことは保証しません。現在の特徴的なエラッタについては、要望に応じて提供しています。またこの製品保証は、以下の各項には適用されません。

お客様が負担する労賃、インストールその他の費用のほか、特にハンダ付けされる製品、または永久的にプリント回路基板に結合される製品、あるいは他の製品に統合される製品の除去ないし交換にともなう費用など、製品の交換または修理に関連して発生する費用。

事故や電力の問題、機械的または環境的異常状態、製品の指示説明に従わない使い方や誤用、不注意、改変、修理、不適切なインストールや不適切な試験など、外部に起因する製品への損傷。

インテルが公式に発表している仕様の範囲を超えた変更や操作が行われた製品、出荷元の識別マーク（商標やシリアル番号）の除去、改変、隠蔽が行われた製品。

### 保証サービスの利用方法

製品の保証サービスを要望される場合は、製品を購入した販売店の指示に従うか、またはインテルにご連絡ください。

インテルの保証サービスをご利用になるには、保証期間中、通常の営業時間（現地時間）帯にお客様の地域にあるインテルカスタマーサポート（ICS）センターまでご連絡ください。ただし祝祭日や指定されたICSセンターへの製品（Boxed Intel®デスクトップ・ボードおよびその他すべての各種構成部品）の返品は除きます。お問合わせに際しては以下の情報をご用意ください。(1) お客様の名前、住所、電子メールアドレス、電話番号、(2) 購入証明書、(3) 型式名と製品に記載の製品識別番号(4) 問題の状況説明。ま

たカスタマーサービススタッフは、問題の性質によっては追加的な情報をお客様に求める場合もあります。

ICS では製品が保証サービスの対象であることを確認した後、RMA (Return Material Authorization : 返品原材料許可) 番号をお客様に発行するとともに、製品を指定の ICS センターに返品するための説明を行います。製品を ICS センターに返品される際は、必ずパッケージの外側に RMA 番号を記入してください。パッケージに RMA 番号が記入されていない製品や、誤った RMA 番号が記入されている製品の返品については、インテルは受理しません。また、指定の ICS センターに返品する製品は、ご購入時と同じかまたは同等のパッケージに梱包し、運賃は前払い (米国内の場合) にて返品してください。また輸送途中には、製品の破損や紛失の危険性があることをご了解ください。

インテルは、当社の適切な判断にもとづいて製品を修理するか、新規または修復済の製品ないし部品と交換します。修理または交換された製品は、ICS より返品された製品を受理した後、妥当な期間内にインテルが送料を負担してお客様に返品します。返品された製品は ICS が受理した時点でインテルの所有物となります。代替りの製品は、90 日または保証期間の残存期間のどちらか長いほうの期間にわたり、ここに記載された保証内容にもとづいて保証され、同じ制限と免責の適用を受けます。インテルが製品を交換する場合でも、交換製品の製品保証期間は延長されません。

### 保証の制限と免責

この保証は、製品に関する他のすべての保証に代わるものであり、インテルは明示たると黙示たるとを問わず、商品性や特定の目的に対する適合性、非侵害性、商取引の方法や利用の方針に関する黙示の保証を含め、その他すべての保証の責任を否認します。いくつかの州 (または裁判管轄) では黙示の保証の免責を認めていないため、この制限がお客様に適用されない場合があります。すべての明示および黙示の保証は、製品保証期間内に制限されます。当期間終了後には保証は適用されません。また、いくつかの州 (または裁判管轄) では黙示の保証の有効期間に制限を認めていないため、この制限がお客様に適用されない場合があります。

### 責任の制限

ここに記載された保証ないし他のすべての保証のもとでは、インテルの責任は、黙示的および明示的に上に述べた修理、交換、払い戻しに限定されます。これらの救済手段は、いかなる保証の不履行に対しても唯一かつ独占的なものです。インテルは、法律で認められた最大限度まで、保証の不履行またはその他の法的解釈 (経済的損失、ダウンタイム、営業権、装置および資産の損傷や交換、格納されたプログラムやデータの復旧、再プログラミング、再構築に伴う費用、製品を含むシステムの使用に伴う費用その他を含む) によって生じたいかなる直接損害、特別損害、偶発的損害、間接的損害に対しても、仮にこれらの損害の可能性をインテルが知らされていたとしても、責任を負いません。いくつかの州 (または裁判管轄) では偶発的損害または間接的損害の免責や制限を認めていないため、上記の制限や免責がお客様に適用されない場合があります。

お客様は、この製品保証により特定の法的権利を付与されるとともに、各州や裁判管轄ごとに異なる様々な権利をもつ可能性があります。

この製品保証のもとで、あるいはこの製品保証に関して提起されるすべての問題については、以下に示す法廷でその判定が下され、次の法律の適用を受けることとなります。アメリカ合衆国、カナダ、北米および南米については、法廷は米カリフォルニア州サンタクララとなり、準拠法はデラウェアの州法が適用されます。アジア太平洋地域 (中国本土は除く) の場合、法廷はシンガポールとなり、準拠法はシンガポールの法律が適用されます。ヨーロッパその他の国については、法廷はロンドンとなり、準拠法はイギリスとウェールズの法律が適用されます。

この製品保証の英語版と翻訳版との間で、内容に不一致が見られた場合には、英語版の内容を優先するものとします。

---